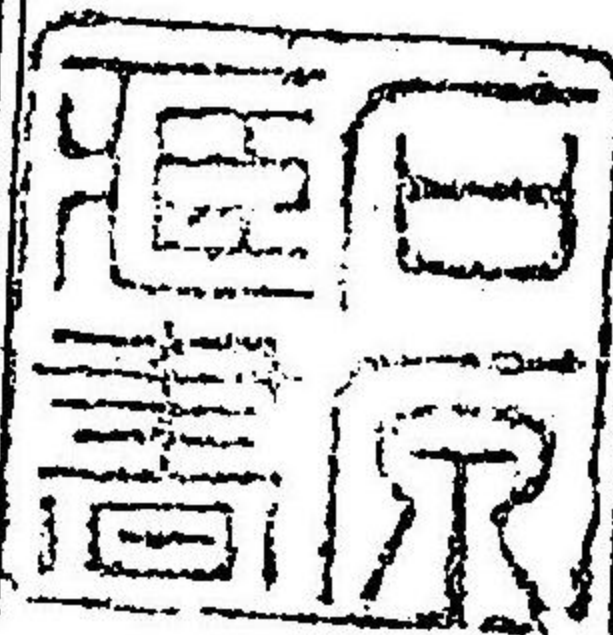


禁賣買

各國憲法類纂



明治十七年四月
活版以代謄寫

久林館

C211

07

各國憲法類纂

凡例

- 一 各國ノ憲法体例一ナラヌ類目各殊ナリ今姑ク類ヲ分チ目ヲ立テ以テ閱覽ニ便ス其順序ノ如キモ亦編纂ノ便ニ從フ別ニ意識アルニ非ス
- 一 類目中收ムル所ノ間其因ナキカ如キ者アリ亦其類目中包ム所ノ意ヲ敷衍スルニ過キサルノミ
- 一 各國憲法ハ大同ニシテ小異アリ概テ之ヲ十六目中ニ收ム可シ但此國獨アリテ彼國絶テナキ者ハ別ニ雜ノ一目ヲ置テ之ヲ收ム教育、國祭、度量、國旗、國語、鐵道、電信、郵便、相續、後見、婚姻、孀婦、財產、專賣、債、隄防、各州、銀行、聯邦、列邦、貴人會社、一時施行、ノ如キ是ナリ
- 一 各國憲法ノ譯者各別ニシテ文法モ亦異ナリ隨テ得隨テ纂メ潤色

チ加ヘス蓋取ル所口事ニ在テ文ニ在ラサレハナリ
一露國憲法ハ固ヨリ未タ頒布セサル者ニ係ル然モ既ニ此法アレハ
則收メサルヲ得ス

各國憲法類纂

目錄

頁數

第一	皇帝	王	統領	一
第二	帝位繼承	王位繼承	統領選舉	一一九
第三	皇帝未成年及攝政	王未成年及攝政	○統領代	一五七
第四	帝室經費	王室經費	統領宅費	二〇〇
第五	帝國	王國	共和國	二一四
第六	國民及其權利義務	二二六
第七	立法權	四一三
第八	元老院及其權利	上院及其權利	四四五
第九	代議士院及其權利	下院及其權利	五一三
第十	元老及代議士兩院通則	上院下院通則	六四九

第十一	行政權	七四〇
第十二	司法權	八〇八
第十三	府縣會及區町村會	九三八
第十四	國費	九九七
第十五	國憲修正	一〇五八
第十六	附錄	一一〇五
第十七	難纂	一二二六
第一	教育	一二二六
第二	國祭	一二二七
第三	度量	一二三八
第四	國旗	一二三九
第五	國語	一二四〇

第六	鐵道	一二三〇
第七	電信	一二三四
第八	郵便	一二三四
第九	相續	一二三七
第十	後見	一二三八
第十一	婚姻	一二三九
第十二	孀婦	一二四〇
第十三	財產	一二四一
第十四	專賣	一二四一
第十五	償債	一二四二
第十六	隄防	一二四三
第十七	各州	一二四四

第十八	銀行	二四五
第十九	聯邦	二四六
第二十	列邦	ク
第廿一	貴人會社	二四九
第廿二	一時施行	二五〇

各國建設及修正紀年

佛蘭西	一千七百九十一年
同	一千七百九十三年
同	一千七百九十五年
同	一千七百九十九年
同	一千八百二年
同	一千八百四年

同	一千八百十四年
同	一千八百十五年
同	一千八百三十年
同	一千八百四十八年
同	一千八百五十一年
同	一千八百五十二年
同	一千八百五十六年
同	一千八百五十七年
同	一千八百五十八年
同	一千八百六十六年
英吉利	一千二百十五年〇一千二百九十七年〇一千六百二十八年〇一千六百七十九年〇一千六百八十九年〇一千七百一年

獨逸 一千八百七十一年
 普魯西 一千八百五十年公布○一千八百五十一年○一千八百五十二年○一千八百五十三年○一千八百五十六年○一千八百五十七年改正
 澳地理 一千八百六十七年
 米利堅 一千七百八十八年
 白耳義 一千八百三十一年
 瑞典 一千八百六十六年
 西班牙 一千八百四十五年公布
 瑞 士 一千八百四十八年
 葡 萄 牙 一千八百二十六年宣布
 荷 蘭 一千八百五十二年公布○一千八百五十五年改正
 丁 揀 一千八百六十六年

伊太利 一千八百四十八年
 露西亞 未詳

各國憲法類纂

第一 皇帝陛下 ○ 統領

○ 佛蘭西 一千七百一十一年

第五十七條 國王ノ權ハ一ニシテ分ツヘカラサル者ニシテ女子及

女子ノ子孫ヲ除ク外年長ノ順序ヲ以テ之ヲ傳フ

第五十八條 國王ハ神聖ナル者ニシテ侮瀆スヘカラス國王ハ佛蘭

西人ノ王ノ位名ノミ用ユルヲ得ヘシ佛蘭西國王ト稱スルヲ得ス

第五十九條 佛蘭西國ニ於テハ法律ノ威權ニ超ル權ナシ國王モ法

律ニ依テ國家ヲ制御シ及法律ノ名義ヲ以テノミ人ヲシテ服從セ

シムルヲ得

第九十五條 諸卿ノ撰任及邑職ハ國王ノミ之ヲ爲スヘシ

第九十六條 現今及後來ノ民選義院ノ代議者又覆審裁判所ノ官員

又上等陪審ヲ勤ムル者ハ在勤中及退職後ノ二年中ハ諸卿ノ任ヲ受ヘカラス又行法官吏ヨリノ孰レノ贈遺孰レノ俸祿孰レノ月給孰レノ事務ヲモ受ヘカラス○又上等陪審ノ連名書ニ記入シタル人ハ其記入セシ間ハ右ノ者ト同様ナルヘシ

第一百四條 交戦ハ國王之ヲ公然ニ民選議院ニ勸告シ民選議院之ヲ爲スヘキノ布告ヲ出シ且國王其布告ヲ確定セサレハ之ヲ定ムヘカラス○戦争既ニ始マルカ或ハ切迫ナルカ或ハ同盟國ヲ防助スヘキカ或ハ國ノ有スル一箇ノ權ヲ兵力ヲ以テ防クヘキ等ノ場合ニ於テハ國王直ニ其事由ヲ委シク民撰議院ニ報知スヘシ民撰議院休會中ナレハ國王直ニ之ヲ召集スヘシ○民撰議院ニ於テ交戦ヲ爲スヘカラサルヲ議定スレハ國王兵端ヲ開クヲ若クハ既ニ仕掛リタル戦争ヲ止ムル爲メ要スル所ノ處分ヲ直ニ爲スヘシ若

シ諸卿右ノ手續ニ就テ時間ヲ費ス時ハ其責ニ任スヘシ民撰議院右戦争ノヲ糾セシ上既ニ始マリシ戦争ハ諸卿其他行法官吏安ニ攻撃セシニ依リ生セシト發覺スルトキハ其人ヲ重罪裁判所ヘ訟フヘシ○戦争中民撰議院ハ國王ニ和ヲ結フヘキヲ請求スルヲ得ヘシ國王ハ之ニ遵ハサルヲ得ス○戦争ヲ止ムルハ民撰議院ハ戦争ノ爲メ増加セシ兵士ヲ放解スヘキ時間及軍兵平常ノ景況ニ復スヘキノ時間ヲ定ムヘシ

第一百九條 民選議院ヨリ布告ヲ國王ニ進達スルハ國王ハ之ヲ拒ムヲ得ヘシ

第二百十條 國王ハ民撰議院ノ布告ヲ拒ムヲ得ヘキト雖モ其拒ミハ只其布告ノ執行ヲ一時差停ムルノミ○但其布告ヲ出セシ議員ノ會議ノ年期後新ニ撰任シタル議員ノ會議ヨリ又其布告ヲ進達

シ又其後ノ撰任ノ議員ノ會議ヨリモ又其布告ヲ進達スルコトアラ
ハ其布告ハ國王ノ確定ヲ受ケシモノト同視スヘシ

第二百一十一條 國王民撰議院ノ布告ヲ承諾スルキハ各布告ハ國王

ハ左ノ文式ヲ用ヒ之ニ調印スヘシ

〔國王之ヲ承諾シ且之ヲ行ハシム〕

又之ヲ拒ムキハ左ノ文式ヲ用ユヘシ

〔國王之ヲ勘考セントス〕

第二百一十二條 國王ハ進達シタル布告ニ其承諾或ハ其不承諾ヲ記

セサルヲ得ス且進達ノ日ヨリ二ヶ月ノ間ニ爲スヘシ

第二百一十三條 孰レノ布告モ國王之ヲ拒ムキハ其會議ノ年期中ニ

再度之ヲ進達スルヲ得ス

第二百一十四條 國王確定シタル布告ニ論ナク國王不承諾ト雖モ第

百二十條ニ從テ三回ノ民撰議院ヨリ國王ニ三度進達シタル布告
ハ之ヲ建テ法トスヘシ且法律ノ名義ヲ有スヘシ

第二百一十七條 最上ノ行法權ハ國王之ヲ特有ス國王ハ國ノ一般ノ

行政ノ頭領ニシテ國ノ安寧及取締ノ保存ヲ委托セラル○國王ハ海

陸軍ノ總大將ナリ○國王ハ國境并ニ屬地ヲ保護スルコト及外國ニ

對スル國ノ權ヲ保護スルコトヲ委托セラル

第二百一十八條 國王ハ特命全權公使及他ノ交際上ノ役人ヲ委任シ

陸海軍總督ノ任ヲ人ニ授ケ海陸軍大將ノ高位ヲ任ス○其他國王

ノ任スル處ノ位職ハ左ノ如シ

海軍小將ノ役ノ内三分ノ二陸軍中將陸軍少將海軍大佐及憲法ノ

大佐ノ内半分陸軍中佐ノ内三分ノ一海軍大尉六分ノ一但右ノ委

任ハ進級規則ニ循フヘシ○又國王ハ海軍ニ屬スル文官ノ内左ノ

官員ヲ任スルヲ得ヘシ

會計ノ^ヲ付卿ヨリ特任ヲ受ル官員海軍時務検査官海軍製造所ノ勘定掛工業長建造副長且其掌管役及造船副長役ノ内半分○國王ハ裁判所ノ檢事不直稅ノ收納官長及國有財產支配ノ長官ヲ任スルヲ得ヘシ○國王ハ貨幣ノ鑄造ノ總検査ヲ爲シ且貨幣ニ付テノ總代及貨幣寮官員ヲ任スルヲ得ヘシ○總テ貨幣ニ國王ノ面形ヲ印スヘシ

第三百三十九條 國王ハ任職書叙位書命令書ヲ其之ヲ受ヘキ官員及

行事人ニ渡スヘシ

第四百十條 國王ヨリ民撰議院ノ各集會ノ節勸告シテ其議員ヨル布告ヲ以テ定ムヘキ隱居料及褒賞金ノ爲メ差進ムル人名書ハ國王之ヲ記録セシムヘシ

第五百十四條 國王ハ郡官ノ職務ヲ一時免スルヲ命スルカ或ハ

郡官ノ職務ヲ免スルヲ確定スルキハ之ヲ民撰議院ニ報知スヘシ民撰議院ハ場合ニヨリ之ヲ赦シ或ハ承決スヘシ民撰議院ハ總テ有罪施政官ヲ免職シ又其施政官一人或ハ數人ヲ重罪裁判所ニ送り或ハ之ニ對シテ訴訟スヘキノ布告ヲ出スヘシ

第五百十五條 外濶ト政事上ノ交際ヲ爲シ諸談判ヲ導キ隣國ノ兵備ニ應スル兵備ヲナシ適當ト思量スル場合ニ海陸軍ノ兵ヲ配置シ又戰時ニ至リ其海陸兵ノ用方ヲ定ムル件々ハ國王ノミ之ヲ爲スヲ得ヘシ

第五百十六條 凡戰爭ノ告諭ハ左ノ文式ヲ用ユヘシ

國民ノ名代トシテ佛蘭西國民ノ王ヨリ云々

第五百十七條 外國ト結フ平和ト同盟ト交易トノ條約及其他國ノ

爲ナスヘキ約條ヲ定ムルコト及謂印スルコトハ國王ノ權ニ歸ス但民撰議院ノ確定ヲ受ケサルヲ得ス○以後佛蘭西國ハ他ノ領地ヲ攻取スル爲メ決シテ戰闘ヲ爲サス且他國ノ自由ノ權ニ對シ兵ヲ用サルコト決ス

○佛蘭西一千七百九十三年

第一百八條 佛蘭西國ハ自由タル外國ト友交シ且自然之ト合從ス
第一百九條 佛蘭西國ハ他國ノ政治ニ強ヒテ管セス又他國ハ已レノ政治ニ管スルコト許サス

第一百廿條 自由ノ論ヲ助ケシ故ヲ以テ放逐サレタル外國人ヲ己ノ領分ニ助居セシメ暴君ヲ助居セシメス

第一百廿一條 敵ハ佛蘭西領分ヲ立去ル迄ハ佛蘭西國ハ之ト和ヲ結

ハス

○佛蘭西一千七百九十五年

第一百二十八條 シレクソワール 督理官ハ法律及民撰議院ヨリ爲セシ決定書ヲ其之ヲ受取リシキヨリ二日ノ内ニ之ヲ封印シ且布告スヘシ

第一百二十九條 法律及民撰議院ノ決定ノ書面ニ至急ナル旨ヲ前加シタルキハ督理官ハ其之ヲ受取リシ日ニ封印シ布告スヘシ

第一百三十條 シレクソワール 法律及民撰議院ノ決定書ノ布告ニハ左ノ文式ヲ用フヘシ

文ニ曰ク「佛蘭西共和國ノ名義ヲ以テ爲シタル法律或ハ民撰議院ノ決定云々」此ニ法律或ハ決定ノ文式ヲ記入ス

右ノ法律或ハ決定ヲ布告シ之ヲ執行シ且共和國印ヲ以テ之ニ封

印スヘキヲ命ス

十

第三百三十一條 第七十七條及九十九條ニ定メタル法式ヲ用ヒシ旨
ヲ法律ノ文面ニ証明セサルキハ督理官ハ之ヲ班布スヘカラス且
之ヲ班布スルニ於テハ其班布セシ日ヨリ六年間其責ニ任スヘシ
第三百二十六條 戰爭ハ督理官ノ公然ノ勸告ニ因リ民撰議院ヨリ
爲セシ布令ヲ以テノミ之ヲ決定スヘシ

第三百二十七條 民撰議院ノ兩院ハ平常ノ法式ヲ用ヒ戰爭ヲ決定
スル布令ニ參加スヘシ

第三百二十八條 戰爭既ニ端ヲ開クカ或ハ接迫ナルカ又ハ佛爾西
共和國ニ向テ攻撃セント示シ或ハ其用意ヲスルキハ督理官ニ於
テ國家ノ防禦ノ爲メ都テ己ニ備ヘ任セタル仕方ヲ用ヒ防禦スヘ
シ且其後已ノ爲セシ處分ヲ直ニ民撰議院ニ進達スヘシ尙右ノ場

合ニ於テ督理官ハ己ノ存意ニ置テ事實ニ應ジ要スル兵數ノ増加
ノ如ク都テ法律ヲ以テ定ムヘキノ處分ヲ勸告スルヲ得ヘシ

第三百二十九條 外國ト政事上ノ交際ヲ守行シ諸談判ヲ指導シ相
當ニ海陸軍兵領分中ニ配當シ又戰時ニ其兵ノ用方ヲ定ムルコトハ
督理官ノミ自己ノ存意ニ從カヒ爲ステ得ヘシ

第三百三十條 確定ノ條約ノ前爲ヘキ職業ノ停止及領分ヲ局外中
立地ト定ムル條約ノ如ク假條約ハ督理官之ヲ爲ステ得ヘク又秘
密ノ條約ヲモ結フヘシ

第三百三十一條 外國ト結フ平和ト同盟ト職業廢止ト局外中立ト
貿易ト及都テ肝要ト思フ他ノ條約ハ督理官ニ於テ之ヲ決シ花押
シ或ハ花押モシムヘシ右ノ條約ハ佛爾西共和國ノ名義ヲ以テ結
フヘキ者ニシテ督理官ヨリ委任シ且夫ニ就テ督理官ノ説論ヲ受

十一

ケシ交際上ノ官員之ヲ商議ス

第三百三十二條 一箇ノ條約面ニ於テ秘密ノ箇條アルキハ其秘密ノ箇條ヲ以テ公然記載シタル箇條ノ意旨ヲ取消シ或ハ共和國地ノ何レノ分ヲ手離ス能ハス

第三百三十三條 凡條約ハ民撰議院ノ檢査且其確定ヲ受ケサレハ効ナカルヘキ者ナリト雖モ秘密ノ箇條ハ督理官ヨリ決シテ之ヲ假ニ執行スヘシ

第三百三十四條 民選議院ノ兩院トモ戰和ノ評議ヲナスキハ會議總代ノ休裁ヲ用ヒサルヲ得ス

○佛蘭西 一千八百〇二年

第八十六條 第一等ノ宰相ハ罪ヲ赦宥スルヲノ權アリトス右ノ權

ニ乘リ罪人ヲ赦宥セントスルキハ裁判總長ト卿二人ト元老議員二人國議院議官二人及覆審院ノ裁判役兩人ト共ニ内密會議ヲ爲サシメ其存意ヲ聞取ルヘシ○如期元老院ノ建國決定ハ告書ヲ以テ之ヲ共和政治ノ三ツノ宰相ヘ報達スヘシ

○佛蘭西 一千八百〇四年

第一條 共和國ノ政事ハ皇帝一人ニ委託ス皇帝ハ佛蘭西國民ノ皇帝ノ位稱ヲ用ユヘシ

凡審判ハ皇帝ヨリ委任シタル官員ハ皇帝ノ名ヲ以テ之ヲ掌ル

第二條 當今共和國ノ第一等ノ宰相ノ役ヲ任シタル「那破崙保那巴」佛蘭西國民ノ皇帝ナリ

第三十二條 帝國ノ高位ハ左ノ如シ

一 「グランテレクトル」大監
 一 帝國ノ「アルシヤンソリエ」帝國印璽
 一 政府ノ「アルシヤンソリエ」政府印璽
 一 「アルシトレソリエ」主計大監
 一 「コンチターブル」陸軍大監
 一 「グランクミタール」海軍大監

第三十三條 帝國ノ高位ノ大臣ハ皇帝之ヲ委任ス右佛蘭西國皇族ト同様ナル禮ヲ之ニ授クベシ且皇族ノ次席ニ列スベシ右高位ノ大臣ノ間ノ次序ハ其公然任職ノ先後ニ從ヒ之ヲ定ム

第三十四條 高位大臣ハ免職スベカラズ

第三十五條 帝國ノ高位大臣ハ元老院ノ議員及國議院ノ議官ノ職位ヲ兼帶ス

第三十六條 帝國ノ高位大臣集リテ皇帝ノ大院トナル且右大臣ハ内院ノ議員ナリ

帝國ノ高位大臣ノ總体ハ勳社ノ支配院ナリ但從來勤任セル勳社ノ支配院ノ議員ハ終身已ノ職位及特權ヲ守ルヘシ

第三十八條 元老院及國議院ヨリ爲シタル都テノ決定ハ皇帝ノ名ヲ以テ之ヲ爲シ且皇帝ノ印ヲ之ニ調シ班布或布告ス

第三十九條 大選監ハ左ノコトニ付テ調印掛リノ職ヲ勤ムベシ

第一 民選議院ト郡ノ選立議會ト及區ノ議會ヲ召集スルコト

第二 民選議院或ハ選立議會ヲ解散セシムル爲メノ元老院ノ決定書ヲ班布スルコト

一 元老院ニ於テ元老院ノ議員民選議員ノ議員及第一等ノ民選議員ノ議員ノ選任ノ所業ニ仕掛ルキ若シ皇帝之レニ上席セ

ザルキハ大選監之ニ上席スベシ
 一 大選監ハ元老院ノ館ニ住居スルヲ得ベシ
 右大臣ハ選立議會或ハ區ノ議會ヨリ其特權ノ保存ニ關スル所
 ノ訴訟ヲ皇帝ニ奏スベシ○選立議會ノ議員ハ破廉耻ノ所業或
 ハ國家ニ害スル所業ヲ爲セシトテ訴ヘラルキハ千八百八年八月四日元老院建
 國決定ノ二條ニ從ヒ
 大選監ハ其選立議會ヲシテ右ニ付テノ存意ヲ陳
 述セシムヘシ且其議會ノ願フ所ヲ皇帝ニ報呈スベシ○元老院
 ノ議員國議院ノ議官民選議院或ハ第一等ノ民選議院ノ議員皇
 帝ノ面前ニ摺ヲ立ツヘキハ大選監之ヲ皇帝ニ引見スヘシ○
 州ノ選立議會ノ長及區ノ議會ノ長ヨリ立ツヘキ摺ハ大選監ノ
 面前ニ之ヲ爲スヘシ元老院國議院民選議院或ハ第一等ノ民選
 議院或ハ選立議會ヨリ皇帝ニ公然ノ總代ヲ遣ハシ皇帝之ニ謁

見テ訴スルハ大選監之ヲ引見ス

第四十條

帝國ノ印璽大監アルシヤンソリヤハ元老院ノ建國決定ト及法律トノ班布

ニ付テハ調印掛ノ役ヲ勤メ且宮内ノ事務ニ付テモ調印掛ノ役ヲ
 勤ムルヲナリ

一 司法卿ノ役ヲ勤ムル裁判總長ハ民訴及刑罪ノ裁判ノトコ
 付テ裁判役ノ不當ノ所業ハ毎年ノ終リニ皇帝ニ届書ヲ進呈ス
 ヘキトコシテ大選監ハ其届書ノ制作ニ參加スヘシ
 大選監ハ大審院ニ上席ス且後ノ第十一編ノ第九十五條ニ記ス
 ル所ニ從テ國議院ノ課第一等ノ民選議院ノ同務ノ課ト合議セ
 ントスルキハ大選監之ニ上席ス
 皇族ノ出生或ハ婚姻ノ祝禮ノ節大選監之ニ出席スヘシ又皇帝
 ノ即位或ハ送葬ノ禮會ニモ出席スヘシ且政府ノ總書記官ヨリ

右等ノナニ付テ記シタル調書ニ加印ヲ爲スヘシ○帝國高位大臣諸卿政府ノ總書記官帝位ノ大文官及覆決院ノ第一等ノ長皇
クラウン・ソシエ・シビル・ラ・クローニス
 帝ノ面前ニ誓ヲ立ヘキトハ覆決院ノ裁判役及其檢事局ノ官員ト控訴裁判所及刑罪裁判所ノ長及大檢事ハ右ノ大臣ノ面前ニ誓ヲ立ヘシ○皇帝ヨリ裁判所ノ總代或ハ裁判所ニ謁見ヲ賜ハ
 ル節ハ右ノ大臣之ヲ引見ス○兩人都テ裁判所ノ官員ノ委任證書及ヒ裁判所ノ委任證書ニ調印ヲ爲シ且之ヲ封印ス又都テ施政ノ職務ノ委任證書及以後國璽用務ヲ設立スル爲ニ爲スヘキ規則書ニ記載スヘキ他ノ證書ニモ封印ス

第四十一條 政府ノ印璽大監ハ平和同盟及起戰ノ告書ニ付テ調印掛ノ職ヲ勤ム外國へ出張セシムル公使ノ委任狀及他國ト本國朝廷ノ間禮儀ノ往復書翰ニ調印シ且之レヲ帝覽ニ備フ但右ノ委任

狀及書翰ハ交際上ノ往復及證書ノ爲メ定メタル文式規則ニ從テ爲スヘシ右ノ大臣ハ其交際上文式規則書ヲ預カレ○右ノ大臣ハ毎年外務卿ヨリ皇帝ニ出スヘキ國外形勢ニ付テノ屆書作立ニ參加スヘシ○他國へ送ラントスル本國ノ特命全權大使及公使ハ皇帝ノ面前ニ誓ヲ立ヘキトハ右大臣之ヲ執奏ス○辦理公使代理公使書記官及貿易交際ノ總檢査役及檢査役ハ右ノ大臣ノ面前ニ誓ヲ立ツ○他國本國ヨリ委任シタルヲ論セス都テ特命全權大使ト全權大使及全權公使ハ右ノ大臣之ヲ皇帝ニ引見ス

第四十二條 主計大監ハ毎年大藏卿及國帑事務卿ヨリ國ノ歲出入ノ算計表ヲ立テ國ノ經濟ノ入用ニ付テ自己ノ存意ヲ陳ヘテ皇帝ニ出スヘキ屆書ノ制作ニ參加スヘシ○歲出入ノ算計表ヲ皇帝ニ出サ、ル前ニ必ス右ノ大臣ノ檢印ヲ之ニ調スヘシ○右ノ大臣ハ

後ノ第十一編ノ第九十五條ニ從ヒ國議院及第一等ノ民選議院課
 ノ合議ニ上席ス○三ヶ月目ニ國家計算總監定書ヲ右ノ大臣ニ出
 スヘシ又年々全國ノ會計ノ一般ノ結果及會計諸部ニ付キ改正修
 繕ノ見込ノ届書ヲ出スヘシ右ノ大臣ハ之ヲ皇帝ニ報呈スヘシ○
 右主計大監ハ毎年國債ノ簿冊ニ決算ノ與書ヲ記スヘシ○右ノ大
 臣ハ文官養老金ノ授ケ書ニ印ヲ調ス○會計官經濟支配ノ官員及
 國幣掛リノ重役ハ右ノ大臣ノ面前ニ誓ヲ立ツ又會計及經濟支配
 ヨリ皇帝ニ公然ノ總代ヲ遣ヒ皇帝之ニ謁見ヲ賜ハル時ハ右ノ大
 臣此委任ヲ引見ス

第四十三條 陸軍將校大監ハ毎年兵部卿及陸軍ノ俗事ノ總長ヨリ
 國境ノ防禦ノ仕方ヲ成就シ城塞ヲ保存シ修覆シ及其手當ノ爲メ
 爲ヘキ處分ヲ皇帝ニ進ムル届書ノ制作ニ參加スヘシ○新ニ城府

ヲ建築スルルキハ右ノ大臣ハ其開業式ヲ行フヘキ爲メ自ラ置礎ノ
 禮ヲ爲スヘシ○右ノ大臣ハ陸軍諸學校ノ總支配官ナリ○皇帝大
 隊ニ旗ヲ賜ハリ自ラ之ヲ渡サ、ルキハ右ノ大臣ハ皇帝ノ代ニ大
 隊ニ之ヲ渡ス○皇帝出席セサルキハ右ノ大臣皇帝ノ代ニ近衛ノ
 兵隊ヲ檢閱ス○軍勢ヲ指令スル大將陸軍刑法ニ記シタル罪ヲ犯
 セシコトヲ訴ヘラレタルキハ右ノ大臣其將官ヲ裁判スヘキ裁判所
 ニ上席スルヲ得ヘシ大將大將ト中將トノ間ノ位ナリ檢閱使中少
 將及三兵ノ聯隊ノ大佐ハ皇帝ノ面前ニ誓ヲ立ツヘキキハ右ノ大
 臣之ヲ皇帝ニ引見ス○三兵ノ少佐及聯兵副官ハ大元帥ノ面前ニ
 誓ヲ立ヘシ○中少將及三兵ノ大中少佐皇帝ノ謁見ヲ蒙ルキハ右
 ノ大臣之ヲ引見ス○軍勢ノ官員ノ委任證書及養老金證書ハ右ノ
 大臣之ニ調印ヲ爲スヘシ

第四十四條 海軍將校大監ハ年々海軍卿ヨリ皇帝ニ出ヘキ造船所業ト造船場及海軍供用物ノ形勢ニ付テノ届書ノ制作ニ参加スヘシ
 ○毎年海軍賑恤積金ノ算計書ヲ受取リシ上之ヲ皇帝ニ呈ス○大艦隊ヲ支令スル大中少將海軍刑律ニ記シタル罪ヲ犯セシメテ訴ヘラル、キハ右ノ大臣此將官ヲ裁判スヘキ裁判所ニ上席ヲ爲スヲ得ヘシ
 ○海軍ノ大中少將及大佐皇帝ノ面前ニ誓詞ヲ爲スヘキキハ右ノ大臣之ヲ皇帝ニ引見ス○奪掠法院ノ議員 戰時ニ捕ヘ付其捕撃ノ當不當ヲ吟味ス 及海軍少佐ハ右ノ大臣ノ面前ニ誓詞ル爲メ設ケタル議院ナリ
 ○海軍ノ大中少將大中佐及奪掠法院ノ議官皇帝ノ謁ヲ爲スヘシ
 ○海軍ノ大中少將大中佐及奪掠法院ノ議官皇帝ノ謁見ヲ蒙ルキハ右ノ大臣之ヲ執奏スヘシ
 ○右ノ大臣ハ海軍士官ノ委任證書及養老金ノ證書ニ調印ヲ爲スヘシ

第四十五條 帝國大臣ノ位ニ任シタルモノハ各左ノ如ク州ノ選立

議會一箇所ノ上席人タルヘシ

「ブルセル」ノ京府ナリ 國ニ集マル選立議會ハ大檢監之ニ上席スヘシ

「ホルドウ」ノ佛蘭西國ニ集マル選立議會ハ「アルシヤン、ソリエ、ド、ラ、ンピル」之ニ上席ヲ爲スヘシ

「ナント」ノ佛蘭西國ニ集マル選立議會ハ政府印璽大監之ニ上席ヲ爲スヘシ

「リヨン」ノ佛蘭西國ニ集マル選立議會ハ主計大監之ニ上席ヲ爲スヘシ

「チュリン」ノ伊都府ニ集マル選立議會ハ陸軍將校大監之ニ上席スヘシ

「マルセユ」ノ佛蘭西國ニ集マル選立議會ハ海軍將校大監之ニ上席スヘシ

第四十六條 帝國ノ大臣ノ位ニ任シタル者ハ各定給トシテ千七百

九十年十二月一日ノ布告ニ皇子ノタメ定メタル年給金高ノ三分ノ一ヲ年々請クヘシ

第四十七條 大臣宮内ノ役目及公禮式ノ時ノ大臣ノ禮服ハ皇帝格別ナル布告ヲ以テ之ヲ定ム且皇帝ノ繼嗣ハ之ヲ變改セントスルキハ元老院ノ決定ヲ以テノミ之ヲ爲スヲ得ヘシ

第四十八條 帝國ノ大官ハ左ノ如シ

第一 陸軍大將ノ内拔群ノ者但右ノ數ハ十六人ニ過クヘカラズ元老院ノ議員タル大將ハ其數ニ入ルコトナシ

第二 砲兵土工兵騎兵及海軍兵ノ大検査官及大將ト中將ノ間ノ位八人

第三 帝冠ノ大文官數人名但右ハ皇帝ノ決定ヲ以テ設立スヘシ

第四十九條 帝國大官ハ之ヲ免職スルヲ得ス

第五十條 帝國ノ大官ハ各其委任ノ時ニ已レノ爲メ定メタル處ノ州ノ選立議會一箇所ニ上席スヘシ

第五十一條 皇帝ノ命令ニヨリ或ハ他ノ故ニヨリ帝國ノ大臣或ハ大官退職スルキハ本人已ノ位ト都テノ特權ト及其年給ノ半高ヲ守ルヘシ帝國大審院ノ裁判ニ非ラザレハ之ヲ失フヘカラス

第七十三條 前條ノ場合ニ於テ皇帝法律ヲ班布セシメントスルキハ若十日ノ内班布ヲ爲サレハ民撰議院之ヲ再議シ更ニ之ヲ承決セシ後ニ非ラサレハ之ヲ班布スルヲ得ヘカラス

第一百三十七條 元老院ノ都テノ決定書及證書并ニ法律ハ皇帝之ニ封印セシメ且之ヲ班布セシム

第一百三十八條 元老院ノ建國決定書ト決定書及證書ハ之ヲ發セシ日ヨリ十日ノ内班布セサルヲ得ス右都テノ決定書及證書各ニ通

ヲ作ルヘシ右ノ兩通共皇帝之ニ花押シ且其趣管スル處ノ役務ニ
ヨリテ帝國大臣ノ内一人之ニ檢査印ヲ調シ政府ノ總書記官及司
法卿之ニ加印ヲ爲シ又國璽ヲ之ニ鈐スヘシ

第三百三十九條 右ノ兩通ノ内一通ハ國璽局ノ古記藏ニ納メ置キ其
他ハ右ノ決定書發セシ院省局ノ古記藏ニ納ムヘシ

第四百十條 班布ノ文式ハ左ノ如シ

朕 皇帝ノ名ヲ此 天主ノ恩ニヨリ及共和建國法ニヨリテ佛蘭西國
民皇帝タリ現今及將來ノ國民ニ頓首ス○今般元老院ニ於テ國議
院ノ發言人ノ論辨ヲ聞入シ上左ノ決定布令ハヲ爲セシヨリテ朕
之ヲ命ス 此ニ其決定或ハ布 或ハ法律ノ班布ナレハ○今般民撰議
院ニ於テ何日何日皇帝勸告ニ從ヒ國議院及第一等ノ民撰議院ノ
發言人ノ論辨ヲ聞入シ上左ノ布告ヲ爲セリ 此ニ布令ノ依テ斯ノ
文面ヲ記ス

如ク書面ニ國印ヲ封シ法律日誌ニ之ヲ記入シ且都テノ大小裁判
所及施政官吏之ヲ巳ノ簿冊ニ記入シ之ヲ行ヒ及行ハシムヘキ爲
メ之ニ送ルヘシ

又司法卿ノ役ヲ勤ムル裁判總官ハ如斯ノ法律 或ハ決定 或ハ決定
スルヲ注意スヘキヲ命ス

第四百一十一條 裁判言渡書ノ本寫 言渡書ノ行フヘキノ効文ノ文式
ハ左ノ如シ

朕 此ニ皇帝ノ名 天主ノ恩ニヨリ及政治ノ共和建國法ニヨリテ佛
蘭西人民ノ皇帝タリ現今及將來ノ人民ニ頓首ス何所ノ何裁判所
左ノ裁判ノ言渡ヲ爲セリ 此ニ裁判ノ文面ヲ記ス 依テ此言渡書ヲ自見スヘキ
孰レノ使吏之ヲ執行スヘキヲ命シ我大檢事及檢事此執行ニ注
意スヘキヲ命シ且國兵ノ諸指令官右執行ヲ助クルヲ法律ニ

從テ請求メラル、毎ニ之ヲ助クヘキヲ命ス右ノ證據トシテ裁
判所ノ長及書記役ハ如斯ノ言渡書ニ花押ス

○佛蘭西 一千八百十四年

第十三條 國王ハ冒瀆スヘカフサル者ニシテ神聖ナリ其卿ハ政事
ニ付テ責ニ任シ國王ノミ行法權ヲ有ス

第十四條 國王ハ國家ノ主長ニシテ海陸軍ヲ指揮シ軍ヲ公告シ和
陸同盟及交易ノ條約ヲ結ヒ施政ノ諸官職ヲ任シ且法律ノ施行并
ニ國ノ安寧ノ爲メ要スル都テノ布告及規則書ヲ爲ス

第廿二條 法律ヲ確定シ班布スルハ獨國王之ヲ爲スヲ得

第五十條 國王ハ毎年必ス兩院ヲ召集スヘシ國王ハ兩院ノ集會ノ
時間ヲ延ハスヲ得ヘキト雖モ兩院中民選議院ノミテ解散スルヲ

得ヘシ且之ヲ解散セシ日ヨリ三ヶ月間ニ必ス新ナル民選議院ヲ
召集スヘシ

第六十七條 國王ハ宥罪ヲナシ且減刑スルノ權ヲ有ス

第七十二條 勳社ハ存在スヘシ國王ハ同社ノ規則及賞牌ヲ定ムヘ
シ

○佛蘭西 一千八百十五年

第四條 皇帝ハ上院ノ議員ヲ任ス議員及其總領タル男子ノ子孫永
久其役ヲ勤ムヘキ者ニシテ之ヲ免職スヘカラス

第五十七條 皇帝ハ假令輕罪ノ事ト雖モ刑ヲ免スルコトノ權アリ又
大赦ヲ爲スノ權アリ

○佛蘭西一千八百三十年

第十二條 國王ハ冒瀆スヘカラサル者ニシテ神聖ナリ王ノ卿ハ政事ニ付テノ責ニ任シ國王ノ行法權ヲ有ス

第十三條 國王ハ國家ノ主長ニシテ海陸軍ヲ指揮シ軍ヲ公告シ和陸同盟貿易ノ諸條約ヲ結ビ施政ノ諸官職ヲ任ス又國王ハ法律ノ施行ノタメ要スル所ノ都テノ布告并ニ規則ヲ爲スト雖モ法律ヲ差留メ或ハ法律ニ施行スヘキヲナハニ免レシムルヲ得ス但外國兵ヲ雇ヒ國家ノ用ニ備フルヲ法律ヲ以テ之ヲ定メサレハ之ヲ爲スヘカラス

第十八條 法律ヲ確定シ班布スルハ獨リ國王之ヲ爲スヲ得ヘシ

第五十八條 國王ハ宥罪ヲナシ且減刑スルノ權ヲ有ス

第六十三條 勳社ハ存在スヘシ追テ國王ハ同社ノ規則及賞牌ノ離

形ヲ定ムヘシ

○佛蘭西一千八百四十八年

第一條 君主權トハ佛蘭西國民ノ總體之ヲ有スル者ニシテ之ヲ手放スヘカラス且永久續クヘキ者ニシテ廢スヘカラス猶國民ノ中何レノ群モ何レノ人モ此君主權ノ施行ヲ私ニ歸セシムルヲ得ス
第二 佛蘭西共和國ハ民ヲ以テ國主トシ且國ハ一ニシテ分ツヘカラサルモノナリ

第十八條 凡大權ハ國民ヨリ發スル者ニシテ世襲之ヲ人ニ托スヘカラス

第十九條 凡國ハ自由ニナラントスルヤ先大權ノ區部ヲ設定セサルヲ得ス

第四十三條 佛蘭西國民ハ一人ヲ撰舉シ之ニ行法權ヲ托ス此人ハ共和政治統領ノ位名ヲ受ク

第四十四條 凡共和政治統領ノ任ヲ受ルコハ佛蘭西人タリ滿三十歲以上タリ且其前佛蘭西人ノ分限ヲ失ハサル者ニアラサルヲ得ス

第四十五條 共和政治統領ハ四年限撰任スヘキ者ニシテ其四年ノ時間ヲ過キ上ナラテハ之ヲ再任スヘカラス猶其四年ノ時間中共和政治統領副役并ニ共和政治六等親中迄ノ親屬タル者ヲモ其代トシテ統領ニ任スヘカラス

第四十六條 共和政治統領撰任ハ五月ノ二番ノ日曜日ニ當然之ヲ爲スヘシ〇萬一統領ノ死去或ハ免職或ハ何レノ譯ニ依リテ他ノ日限ニ統領ヲ任スヘキトキハ其任シタル新規ノ統領ノ權ハ其委

員ノ日限ヨリ四年目ノ五月ノ二番ノ日曜日ニ廢スヘキ者トス共和政治ノ統領ノ撰任ハ佛蘭西并ニアルゼリヤ亞弗理加ニ於テノ總テノ撰立人ハ直撰ノ方法ヲ用ヒ且其内密ノ投票ノ過半ヲ以テ之ヲ爲ス

第四十七條 撰任ノ所業ノ調書ハ直ニ之ヲ民選議院ニ達スヘシ民選議院ハ直ニ其撰任ノ當否ヲ決定セシ上共和政治統領ノ任ヲ受ケタル人ノ名ヲ告スヘシ若シ共和政治ノ統領ノ任ヲ受クル爲メ勸告シタル人ノ中投票ノ過半ヲ受ケ且都合投票ノ二百萬以上ヲ受ケタル人無ケレハ或ハ右ノ投票ヲ受ケタル人有リト雖右ハ第四十四條ニ記シタル件々ニ適セサル者ナルニ於テハ民選議院統領ノ任ヲ受ルニ適シ且投票ノ最モ多數ヲ受タル五人ノ中議員ノ内密ノ投票ノ過半ヲ以テ共和政治統領ヲ選任スヘシ

第四十九條 共和政治統領ハ諸卿ヲ中人トシテ民選議院ニ法律ノ案文ヲ勸告スルヲ得ヘシ統領ハ法律ヲ行ハシメ且法律ノ施行ヲ注意スヘシ

第五十條 統領ハ兵力ヲ用ユルヲ得ヘシト雖モ自ラ軍勢ヲ指令スルヲ得ス

第五十一條 統領ハ佛蘭西ノ領分ノ何レノ地ヲ他國ニ譲リ渡シ或ハ民選議院ヲ解散シ其集會ノ日限ヲ延引シ亦何レノ方法ヲ用ユルヲ論セズ建國法及法律ノ施行ヲ一時止ムル等ノ一ヲ爲スヲ得ス

第五十二條 統領ハ毎年民選議院ニ告書ヲ出シテ共和國ノ總体ノ形勢ヲ陳述スヘシ

第五十三條 統領ハ外國ト條約ヲ結ビ其本書ヲ確定ス然モ何レノ

條約モ民選議院ノ許可ヲ受ケシ上ナラサレハ之ヲ確定シタル者トスヘカラス

第五十四條 統領ハ國家ノ防禦ヲ注意スヘシト雖モ民選議院ノ許可ヲ受ケスシテ軍ヲ爲スヲ得ス

第五十五條 統領ハ罪人ノ刑ヲ赦スノ權アリト雖モ國議院ノ存意ヲ問ヒシ上ナラサレハ此權ヲ行フヘカラス

大赦ハ一人或ハ數人ノ罪ヲ赦ス法律ノ体裁ヲ用ヒテノミ之ヲ授クヘキ者ナリ

共和政治統領諸卿并ニ右ト同様大審院ニ因リ裁判言渡シヲ受タル他ノ者ハ民選議院ノミ之カ刑ヲ大赦スルヲ得ヘシ

第五十六條 共和政治統領ハ佛蘭西國民ノ名義ヲ以テ法律ヲ班布ス

第五十七條 急速ナル法律ハ民選議院之ヲ決議シタル日ヨリ三日ノ間ニ之ヲ班布ス他ノ法律ハ決議ノ日ヨリ一ヶ月間ニ之ヲ班布ス

第五十八條 右定メタル時間ヲ經サル前ニ統領ハ告書ヲ民選議院ニ出シ以テ法行ノ議案ヲ更ニ商議セシメンコトヲ願フヲ得ヘシ但其告書ニ其願ノ所以ヲ詳記スヘシ其節民選議院ハ事ヲ商議セシ上爲シタル所ノ決定ハ一定ニシ之ヲ改革ス可ラサル者トス且之ヲ統領ニ傳達スヘシ但右ノ場合ニ於テ法律ヲ班布スヘキコト付テノ時間ハ急速ナル法律ノ班布ニ付テ定メタル時間ト同様ナルヘシ

第五十九條 万一統領ハ前ノ兩ヶ條ニ定メタル時間ニ法律ヲ班布セザレハ民選議院ノ長此班布ヲ爲サシムヘシ

第六十條 外國ノ大使公使ハ統領ノ許ニ派遣セラレタル者ト見做スヘシ

第六十一條 統領ハ國家ノ大祭禮ニ上席スヘシ

第六十三條 統領ハ民選議院ノ集會地ニ在居スヘシ且格段ノ法律ニ依リ免許ヲ受ケスシテ共和國ノ陸地ヲ立テ去ルヲ得ス

第六十四條 統領ハ諸卿ヲ委任シ且之ヲ免職スルヲ得ヘシ猶交際上ノ官吏海陸軍總督州長巴黎府ニ屬スル所ノ報國兵ノ總督アルゼリヤ亞弗理加ニ於テ并ニ他ノ屬國ノ支配官大檢事并ニ右ト同様上位ノ他ノ官員ノ任職ト免職トハ統領諸卿ノ會議コテ之ヲナスコトナリ

政府ノ中位ノ役人ノ任職并ニ免職ハ統領本人ノ關スル所ノ卿ノ願ニ由リ且法律ニ定メタル規則ニ從テ之ヲ爲スコトナリ

第六十五條 行法權ヲ任セタル官員ノ内國民ヨリ選任セタル官員
 ハ統領之ヲ三ヶ月ヲ過クヘカラサル間ニ之ヲ停職スルヲ得ヘキ
 ト雖モ國議院ノ然ルヘク存意ヲ述ベシ上ナラサレハ之ヲ免職ス
 ルヲ得ス○尙免職セタル官員ノ再任ヲ受クル能ハサル場合ノ
 ハ法律ニ於テ之ヲ定ムルナリ然モ官員再任セラルヘカラサル
 事定ムルコトハ裁判言渡ヲ以テノミ之ヲ爲スヲ得ヘシ

第六十六條 卿ノ數并ニ其各事務章程立法權之ヲ定ムルナリ

第六十七條 諸卿ヲ任職シ免職スル爲メ共和政治統領ヨリ爲ス處
 ノ布令ノ外共和政治統領ノ總テノ布令ハ卿一人之ニ加印セサレ
 ハ効ナカル可シ

第六十八條 共和政治統領諸卿并ニ總テノ官員及役人名其歸スル
 處ノ用務ニ付テ政治并ニ施政ノ處分ノ責ヲ任スヘシ

凡共和政治統領ヨリ民選議院ヲ解散シ或ハ其集會ヲ延引シ同院
 ノ事務ヲ妨クル爲メ爲ス處ノ孰レノ處置ハ之ヲ國家ニ對シテ叛
 謀ノ罪トス共和政治統領右様ノ處置スルニ於テハ自然免職コト
 リタル者トス乃チ國民ハ必ス之ニ服スルヲ得ス又行法權ハ民選
 議院ニ於テ當然之ヲ任セラル、ナリ尙大審院ノ裁判役ハ此謀叛
 ヲ氣付次第直ニ集會セサレハ職務上ノ罪ヲ犯セタル者トス同裁
 判役場所ヲ定メ共和政治統領并ニ附從者ヲ裁判スル爲メ陪審
 之ニ召集シ且其裁判ニ付テ檢事ノ職務ヲ勤ムヘキ裁判官員ヲ自
 ラ任スヘシ○但右ノ外共和政治統領ヨリ責ヲ任スヘキコトノ場合
 ハ追テ格別ノ法律ヲ設ケ以テ之ヲ定メ且其節統領ヲ訴ヘルヲ得
 ヘキニ要スル處ノ件々并ニ其訴ノ法式ヲモ此法律ニ定ムヘシ

○佛蘭西一千八百五十二年

○一千八百五十一年十二月二十日及廿一日ノ投票ニ因リ佛蘭西人民ノ路易拿破崙保那巴ニ授ケシ威權ヲ以テ制定シタル憲法

第二條 千八百五十二年十二月二十五日廢ス佛蘭西共和政治統制スルノ權ハ方今共和政治ノ大統領タル皇族路易拿破崙保那巴ニ十年間之ヲ任ス

第三條 共和政治ノ大統領ハ宰相、參議官、元老院、議院ニ依テ國ヲ統治ス

第五條 共和政治ノ大統領ハ佛蘭西人民ニ對シテ其責ニ任ス可ク且常ニ己レノ行フタル處置ノ可否ヲ佛蘭西人ニ問フノ權アリ

第六條 共和政治ノ大統領ハ國ノ長ニシテ海陸軍ノ指揮ヲ爲シ戰書ヲ投シ和親、聯盟、貿易ノ條約ヲ結ビ諸ノ官員ヲ撰任シ法律ヲ行フニ緊要ナル規則ヲ制定シテ命令ヲ布下ス

第八條 法律ヲ起草スルノ權ハ大統領ノミニ在リトス

第九條 千八百五十二年十二月二十五日廢ス大統領ハ罪犯ヲ赦宥スルノ權アリ

第十條 大統領ハ法律及ヒ元老院ノ決定ノ允許ヲ爲シテ之ヲ布令ス

第十一條 千八百五十二年十二月二十五日廢ス大統領ハ每歲文書又ハ旨詞ヲ以テ國中諸務ノ景狀ヲ元老院及ヒ議院ニ示ス

第十二條 大統領ハ一州又數州ニ攻圍ノ景狀 平常ノ法律ヲ用ヒス分スル 布令スルノ權アリ但シ勉メテ速カニ其旨ヲ元老院ニ告シ可シ

攻圍ノ景狀ヨリ生ス可キ條件ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 千八百五十二年十二月廿五日廢ス國ノ長ハ元老院ノ書

房中ニ秘藏ス可キ文書ヲ以テ佛蘭西國ノ資益ノ爲メ已レニ代リ
人民ノ依頼ヲ受ケテ選舉ヲ得可キ者ノ姓名ヲ國民ニ示スノ權アリ

第二十三條 元老院ノ長及ヒ副長ハ共和政治ノ大統領元老員中ノ
者ヨリ之ヲ選舉ス

此長及ヒ副長ハ一年間其職ニ任ス其長ノ俸給ハ命令書ヲ以テ之
ヲ定ム

第二十四條 共和政治ノ大統領ハ元老院ニ集會セシメ又ハ延會セ
シム○又大統領ハ命令書ヲ以テ其集會ノ期限ヲ定ム

元老院ノ會議ハ衆庶ノ來聽ヲ許サス

第二十五條 元老院ハ憲法及ヒ國民自由權ヲ監察シ又如何ナル法
律ト雖モ元老院ニ差出サ、ル前ニ布令スヘカラス

第二十八條 其元老院ノ決議書ハ共和政治ノ大統領ヨリ允許ヲ得
可キカ爲メ之ヲ大統領ニ呈示シテ大統領之ヲ布令ス可シ

第四十六條 共和政治ノ大統領ハ議院ヲシテ集會セシメ又延會セ
シメ或ハ解散セシム○之ヲ解散セシメタル時ハ大統領六月内ニ
更ニ復テ議院ヲ集會セシムヘシ

第四十七條 通常職務ニ任スル參議官ノ員ハ四十八ヨリ五十人ニ
至ル可シ

第四十八條 參議官ハ共和政治ノ大統領之ヲ任用シ且大統領之ヲ
退任セシム可シ

第五十條 參議官ハ共和政治ノ大統領ノ指令ヲ受ケ法律ノ議案及
ヒ行政ノ規則ヲ記シ且政治ノ諸務ニ付キ生ス可キ難事ヲ理治ス
ルヲ任ス可シ

第五十一條 參議官ハ政府ノ名代トナリテ元老院及ヒ議院ニ對シ

法律ノ議案ヲ論辨ス可シ

政府ノ名代トナリテ元老院及ヒ議院ニ對シ法律議案ノ論辨ヲ爲
ス任ヲ受クル參議官ハ共和政治ノ大統領之ヲ選任ス

第五十二條 參議官ノ俸給ハ二万五千フランクトス

第五十三條 宰相ハ參議官ノ列ニ入りテ論辨ヲ爲スノ權アリ

○佛蘭西 一千八百五十二年

十一月二十日及十二月二日ノ國民ノ投票ニ因リ確定シタル千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書ヲ布令シテ法律ト爲ス
二月二日ノ勅書

第一條 十一月廿一日及廿二日ノ國民ノ投票ヲ以テ確定シタル
千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書ハ之ヲ布令シテ國ノ

法律ト爲ス

○千八百五十二年一月十四日ノ憲法ヲ釋明シ且之ヲ更改スル千八百五十二年二月廿五日ヨリ三十一日ニ至ル元老院決定書

第一條 皇帝ハ罪犯ヲ赦宥シ大赦ヲ行フノ權アリ

第二條 皇帝自カラ適當ナリト思量スル時ハ元老院及ヒ參議院ニ
上席ス可シ

第五條 千八百五十二年三月廿二日ノ憲法ノ基礎タル勅書ノ規則
ハ皇帝ノ勅書ヲ以テ之ヲ更改スルヲ得可シ

第八條 皇族ノ身上證書民法ニハ首相之ヲ受取り皇帝ノ命ヲ以テ

元老院ニ送り元老院ニ於テ之ヲ簿冊ニ登記シ且其書房中ニ藏ス
可シ

○英吉利

卷一 皇帝シヨシノ大略書千二百十五年皇帝即位十七年六月十五日
 ○神ノ惠ヲ受タル英國皇帝兼「イルラニド」君「ノルマン」アロイタ
 「公」アンシユ「侯」シヨシ「汝有衆大僧正僧正和尚侯伯大審判官長森
 林官州官縣官諸官員其餘忠誠ノ臣民等」問安ス汝有衆欽テ聞ケ
 朕天神ノ冥導ニ據リ朕并ニ朕カ先祖代々朕カ子孫代々ノ神魂ノ
 安ヲカナラシメ及ヒ天神聖會宗旨ノヲ尊敬シ朕カ帝國ヲ經營
 セン爲メニ汝有衆此間人僧正ヨリ侯伯大臣有司ニ至ルヲ集會シ
 テ議ス○神ノ惠ヲ受ケタル云々是レ古ヘノ文体ニシテ今尙存ス
 ○往昔英王トナレハ數國王侯ノ位ヲ攝テタリ是レ他國ヲ併吞ス
 ルニ多クハ之ヲ其本國ニ合セス其國名ヲ存シ只自ラ其王爵又ハ
 侯爵ヲ攝スル風習ナリ○此一段ハ古雅ノ文ニシテ古人ノ稱ス

トイヘリ圖印ヲ以テ端ヲ革ムルモ
ノハ譯者ノ註也下倣之

第一條 天神ニ准允ス朕カ此大略書ヲ以テ英國ノ聖會ヲシテ自由
 ナラシメ且其權利ハ少シモ損毀セザランヲ確定シ永々朕カ子
 孫ニ至ル迄敢テ渝リアルナカルヘシ朕此誓詞ヲ保守セント欲ス
 ルトハ僧官ヲ選舉スルニ其自由ニ委ヌルヲ以テ見ルベシ抑僧官
 自由選舉ハ英國聖會ニハ最モ大切ニシテ且格別ニ必須ノモノ也
 故ニ朕預メ天下ノ侯伯ト間隙ヲ生セサル以前ニ朕衷心ヨリ之ヲ
 准允シ之ヲ確定シ法王「イン」ノセント「第三世」ノ准允ヲ得テ朕カ代
 ハ勿論子孫不窮ニ至ル迄敢テ或ハ之ヲ犯スアルナカラント希
 望セリ且汝有衆朕カ帝國ノ良民ニ今悉ク下條ニ陳スル所ノ自由
 權利ヲ許與シ以テ朕カ子孫不窮ニ至ルベシ

○第一條ニ宗旨ノ「ト」述フルハ神明ヲ尊敬スルナレモ在昔ハ

文字ヲ解スル者ハ僧侶ノ外ハ希ナリ且此條約ヲ成シ得タルハ多クハ高僧「ロジグトン」等ノ力也故ニ首ニ宗旨ノ「ヲ」云也○良民ト云ハ自由ノ權利アル民「アリ」メント云「」ニテ奴隸ノ束縛セラレタル者ト區別ス以下倣之

卷二第一條 天神ノ惠ヲ受タル英國皇帝兼「イルランド」君「ギエン」公「エドワード」汝有衆ニ問安ス汝有衆欽テ聞ケ天神及聖會ヲ尊敬シ朕カ帝國ヲ利センカ爲メニ朕更ニ左ノ條件ヲ准允ス

凡皇考「ヘスリー」ノ時國人一般ノ許可ヲ以テ確定セシ人民自由ノ約書及森林ノ約書等ハ一々毫髮ノ差ヒナク之ヲ子孫ニ傳ヘテ固守スヘシ 人民自由ノ約書ハ則大條約書ニ

卷五第一 巴里門ノ許可ヲ經スシテ國法ヲ廢弛シ又ハ之ヲ施行スル等偽作ノ帝權ハ皆違法也

第二 國法ヲ暫ク停止スル等ノ帝權近來施行シタル如ハキ違法也

第四 巴里門ニテ許可シタル外ニ帝王ノ特權ト稱シ妄リニ租稅ヲ收斂スルハ違法也○「チレンジ」王「ウヰリヤム」殿下及妃「メレ」殿下ヲ以テ英國佛郎士「イルランド」等ノ皇帝皇后ト爲シ自餘英ノ屬國ハ悉ク之ニ屬シ其帝位ハ兩殿下ノ在世中ハ兩殿下之ヲ維持シ若シ何レニテモ早世スレハ長命ノモノ之ヲ維持スヘシ○帝權ヲ運動シ政事ヲ施行スルハ專ラ「チレンジ」王ニ屬シ但兩皇在世中ハ兩名ヲ以テ政令ヲ布クヘシ○是ニ於テ兩陛下ハ貴族人民等ノ評定シタル如ク英國佛郎士「イルランド」ノ帝位ヲ受ケ且之ヲ踐メリ○凡近來皇帝ノ特命ヲ以テ國法定書ヲ暫時廢弛スル如キ無法ノ帝權ハ自今之アル「」ナカルヘシ只今上皇帝在世中將來定ムル定

書中ニ格別ニ掲載スル箇條ハ此限ニ非ス

○此一章ニ付巴里門ノ上下院ノ議合ハス下院ハ此帝權ヲ全ク
褫奪セントス上院ハ此帝權ヲ全ク維持セントス議論兩立久シ
ク決セス己ニ大事ニ及ントス竟ニ雙方一步ツ、讓ルヲ以テ
和熟成リ則此帝權ノ施行セラルヘキ箇條ヲ定ントス此箇條ニ
付復テ議論合セス終ニ此箇條ハ後日議定スヘシト云フコト
雙方折合ヒ故ニ此章中只今上皇帝在世中云々ノ語アリ上議院
ノ必要ナル以テ見ルヘシ

○獨逸

第十一條 聯邦ノ盟主ノ權ハ獨逸皇帝ノ名義ヲ以テ普魯西王ニ在
リトス國際法ニ關スル事ニ付テハ皇帝帝國ノ總代トナリ帝國ノ

名義ヲ以テ戰ヲ宣ヘ和ヲ決シ外國ト同盟シ及其他ノ條約ヲ結ビ
國使ヲ派出シ及外國ノ使節ヲ受ク○帝國ノ名義ヲ以テ戰ヲ宣ル
ニ於テハ外國ヨリ聯邦ノ領地及其海岸ヲ侵襲スル時機ノ外上院
ノ承認ヲ得ルヲ緊要トス外國ノ條約ハ此國憲ノ第四條ニ掲載シ
タル帝國立法ニ關スル事件ニ適合シタルニ於テハ其條約ヲ結フ
爲ニ上院ノ承認ヲ得ルニ緊要トス又其條約ノ効チ有スル爲ニ下
院ノ承認ヲ得ルヲ緊要トス

第十二條 皇帝ハ上院及下院ヲ徵集シ或ハ之ヲ開キ之ヲ延ハシ及
之ヲ閉ツルノ權チ有ス

第十三條 上院及下院ノ徵集ハ每歲必ス之ヲナス可シ然レ下院チ
徵集セスシテ種々ノ事務ヲ預メ準備スル爲ニ上院チ徵集スルコ
ト得可シト雖モ上院チ徵集セスシテ下院チ徵集スルコト得ス

第十四條 上院議員ノ概略三分一集會ヲ請求スルニ於テハ必ス上院ヲ徵集ス可シ

第十五條 上院ニ於テ議長ノ職務及其事務ヲ管理スルコトハ皇帝ヨリ命セラル可キ大宰相ニ在リトス○ライグスカンツレルハ委任狀ヲ以テ上院ノ他ノ議員ヲ代理ト爲スコトヲ得可シ

第十七條 帝國ノ法律ヲ分付シ及之ヲ布告シ又ハ其法律ノ施行ヲ監督スルノ權ハ皇帝ニ在リトス凡テ皇帝ノ命令及規則ハ帝國ノ名義ヲ以テ布告ス而シテ其効力ヲ有スル爲ニライグスカンツレルノ花押ヲ必要トス之カ爲ニライグスカンツレル責ニ任ス

第十八條 皇帝ハ帝國ノ官吏ヲ命シ及帝國ノ爲ニ官吏誓詞ヲ宣ベシメ緊要ナル時機ニ於テハ之ヲ免黜スルノ權アリ○聯邦各國ノ官吏帝國ノ官吏ニ命セラレタル時帝國法律ニ於テ右ノ事件ニ付

格別ナル規定アルニ非サレバ帝國ニ於テモ其本國ニテ受ケタル官職ヨリ生スル一切ノ權利ヲ保持ス

第十九條 聯邦各國ノ此憲法ニ據テ聯邦ニ關スル一切ノ義務ノ何レヲモ盡サ、ル時ハ右等ノ國ハ兵力ヲ以テ強ユルノ方法ヲ以テ之ヲ強ヒラル、コトヲ得可シ此ノ「エクゼクシヨン」ハ上院ニ於テ決定シ皇帝之ヲ執行ス

第五十條 皇帝ハ郵便局及電信局ヲ指揮スル最上ノ權アリ皇帝ヨリ命シタル所ノ官吏等ハ郵便局及電信局ノ管理及施行ノ方法ニ於テモ又該局ノ官吏等ノ適任ニ於テモ全國中同形ナラシムルハ其人等ノ義務及權利ナリトス○皇帝ハ該規則及行政ノ規定ヲ設クルノ權ヲ有シ又ハ外國ノ郵便局及電信局トノ交通ヲ專ラ整理スルノ權アリ○郵便局及電信局ノ官吏ハ必ス皇帝ノ命令ニ遵フ

可シ此義務ハ該官吏等ノ宣誓中ニ在ル者ナリ○郵便及電信ノ各局ニ於テ上等ノ官吏(原註)頭取及評議官及第一等檢査官ヲ謂フ等ヲ任命シ及各邦ニ於テ郵便局及電信局ヨリ任セラルタル監督官(原註)總官及監督官ヲ謂フヲ命スルコトハ皇帝ヨリ帝國一般ニ向テ爲ス可キ者トス右ノ官吏等ハ皇帝ニ對シテ職務ニ付テノ誓詞ヲ宣フ可シ聯盟各邦ノ政府ノ承諾ヲ得又其布告ヲナサシムル爲ニ右ノ官吏等ヲ命シタルコトニ付テ其關係シタル國ノ政府ニ通知ス可シ○郵便局及電信局ニ在ル所ノ各官吏等并ニ郵便及電信ノ種々ノ事務ヲ管理スル官吏等ハ其關係シタル聯盟各邦ヨリ任命ス可キ者ナリ○獨立シタル郵便局及電信局ナキ聯盟各邦ニ於テハ其郵便及電信ノ一切ノ事件ハ現ニ成立ツ所ノ種々ノ條規ニ循フ可シ

第五十三條 帝國海軍ハ皇帝ノ指揮ニ屬スル只一ノ海軍タリ皇帝

ハ海軍ノ構制ヲナシ海軍ノ文官及武官ヲ任命ス海軍ノ官吏等及兵卒ハ皇帝ニ對シ誓詞ヲ宣フ可シ○キール及ヤーテノ二港ハ帝國ノ戰港トス○海軍ヲ設立シ及海軍ヲ保持シ及其他海軍ノ種々ノ設立ニ關シタル費額ハ帝國ノ國庫ヨリ支給ス可キ者トス○帝國氷夫等并ニ船ノ機關ニ關シタル人々又ハ造船場一切ノ職工ハ帝國ノ海軍ニ從事スルノ義務アリテ陸軍ニ從事スルノ義務ナシ○每歲海軍ニ徵募ス可キ人員ノ比例ハ聯邦各國ニ現住シタル氷夫等ノ多寡ニ由ル者トス右ノ比例ニ從テ各國ノ海軍ニ備フル所ノ人員ヲ陸軍ニ備フ可キ人員ヨリ差引ク可シ

第五十四條 聯邦各國ノ商船ハ只一ノ商船隊トス○帝國ハ商船ノ噸數ヲ量ル可キ法式ヲ定メ噸數ノ證書ヲ出シ又ハ商船ノ其他ノ書類ノ事ヲ定ム可シ又帝國ハ商船ノ船將ノ免許ヲ求ルコト付テノ

規則ヲ定ム可シ○聯邦各國ニ於テノ港及天然河溝及人造河溝ニ於テ聯邦各國ノ商船ハ均ク通航ヲナシ又均ク之ヲ取扱フ可シ航海ノ設立ノ類ヲ謂フノ爲ニ各港ニ於テ海船及其荷物ニ付テノ收稅ハ其設立ヲ保チ及此等ヲ修理スル爲メニ必要ナル費額ニ超過ス可カラス○總テ天然河溝ニ於テ課ス可キ租稅ハ航行ヲ助ル設立ノ爲メノミニ課ス可キ者ナリ右ノ收稅並ニ聯盟各邦ニ屬スル所ノ人造河溝ヲ航行スルコト付テ課ス可キ租稅ハ航海設立ノ普通ノ修理ノ爲メニ必要ナル費額ニ超過ス可カラス筏ニ於テハ航行ス可キ河溝ノミニ於テ右ノ規則ニ循フ可シ○外國ノ船及其荷物ニ付聯盟各邦ノ船及其荷物ニ付テ取立ル所ノ租稅ト違フタル租稅或ハ夫レヨリ多キ租稅ヲ課スルコトハ聯盟各邦ノナス可カラサル事ニシテ帝國ノミナス可キコトナリ

第五十五條 海軍及商船ノ國旗ハ黑白赤色トス

第五十六條 獨逸帝國一般ノ領事ハ皇帝ノ監督ニ屬ス可シ皇帝ハ貿易及交際ニ付テ上院ノ委員第八條第三項參看ノ決議ニ由テ一切ノ領事ヲ任命スルノ權アリ○獨逸帝國ノ領事ノ管轄内ニ於テ其後聯盟各邦ノ領事ヲ設ク可カラス獨逸帝國一切ノ領事ハ其管轄内ニ於テ領事ヲ設ケサル聯盟各邦ノ爲メニ其各邦ノ領事一切ノ職務ヲ盡ス可シ渾テ現ニ成立ツ所ノ聯盟各邦ノ領事ハ上院ノ見込ニ從ヒ聯盟各邦ノ損害ヲ生セサル爲メ獨逸帝國ノ一切ノ領事ノ編制ヲ成就シタル日ヨリ之ヲ廢ス可シ

第六十三條 獨逸帝國一般陸軍ハ戰爭ト安寧トノ時間ヲ問ハス皇帝ノ指揮ニ屬スル只一ノ陸軍ナル可シ○總軍隊ハ各番號ヲ揭示ス可シ總テ兵卒ノ衣服色及其裁縫ノ仕方等ハ普魯西ノ陸軍ノ現

用フル服式ト同一ナル可シ聯盟各邦ノ國君ハ其各邦ノ兵卒ノ
 用フル帽印及袖印等ヲ定ムルノ權アル可シ○獨逸陸軍總隊ノ人
 員及軍備ヲ整フルヲ又ハ軍隊ノ編制ト士官及武器ヲ具備スルヲ
 又ハ練兵ノ事又ハ士官等ノ學力ノ適任シタルヲ等ヲ監シ且ツ此
 等ヲ注意スルハ皇帝ノ義務ト權利トニ在ルナリ故ニ皇帝ハ何時
 ニテモ聯盟各邦ヨリ召募シタル軍隊ノ景狀ヲ檢閲シ而シテ其檢
 閲ノ時認メタル其不備ヲ整理ス可キヲ命スルノ權アル可シ○
 皇帝ハ聯盟各邦ヨリ召募スルキ軍隊ノ人員編制及其區分ヲ定メ
 而シテ豫備隊ノ編制及聯邦領地内ニ守備兵ヲ置キ又ハ帝國陸軍
 ノ總軍隊戰爭ノ準備ヲ命スルノ權アル可シ○帝國陸軍一般ノ管
 轄ヲナスヲ其兵卒ヲ養フヲ及武器ヲ備具スルヲ同一ナルヲ必
 要トスル爲メニ其以後普魯西ノ軍隊ニ布告シタル一切ノ規則書

第八條ノ第一項ニ記載スル所ノ陸軍及各所ノ城堡ノ事ニ關ス
 ル委員ヨリ聯盟各邦ノ軍隊ノ各將官ニ送致シ而シテ聯盟各邦ノ
 軍隊ハ之ヲ遵守ス可シ

第六十四條 總軍隊ハ必ス皇帝ノ命令ヲ遵守スヘシ而シテ此命令
 ニ遵フ可キ義務ハ兵卒ノ誓詞ニ在リトス○聯盟各邦ノ一ヶ國ヨ
 リ召募シタル軍隊ヲ司ル士官又ハ聯盟各邦ノ數ヶ國ヨリ召募シ
 タル軍隊ヲ司ル士官又ハ諸ノ城堡ノ事ヲ司ル指揮官ハ皇帝之ヲ
 任命ス可シ皇帝ノ任命スル所ノ各士官ハ皇帝ニ對シテ誓詞ヲナ
 ス可シ聯盟各邦ヨリ召募シタル軍隊中將官タル者假リノ代理ヲ
 命スルヲ付テハ皇帝ノ承諾ヲ得ルヲ必要トス○普魯西ノ軍隊
 或ハ聯盟各邦ノ軍隊ニ於テ皇帝ノ命ス可キ諸士官ヲ命スルハ
 其官位ヲ進メルト進メサルト問ハス皇帝ハ帝國陸軍各隊ノ士

官中ヨリ是等ヲ撰フノ權アル可シ

第六十五條 皇帝ハ聯盟各邦ノ領地内ニ城塞ヲ築造スルノ權アル可シ若シ陸軍ノ定額金ノ不足ナルキハ皇帝ハ第十二篇ニ從テ右

ノ城塞ヲ築造スル爲メニ必要ナル金額ヲ求ムルノ權アル可シ
第六十六條 昔時ヨリ別段條約ノ變更シタル規定アラザルキ又ハ

第六十四條ヲ除クノ外ハ聯盟各邦ノ國君或ハ「ハンゼスタット」ノ元老院ハ自己ノ國ヨリ召募シタル所ノ軍隊ノ士官ヲ任命スルノ權アル可シ聯盟各邦ノ國君ハ其國ニ屬スル所ノ軍隊ノ總將官タリ又其職務ニ關係スル種々ノ名譽ヲ受ク可シ聯盟各邦ノ國君ハ其軍隊ヲ監督スルノ權アル可ク而シテ通例ノ陳述書及達書ヲ除クノ外自己ノ國ニ於テ軍隊ニ關シタル昇級及新任アルキハ陸軍省ヨリ速ニ之ヲ其國君ニ通知シ又其國君ヨリ之ヲ其軍隊ニ通知

ス可シ○又聯盟各邦ノ國君ハ國ノ取締ノ爲ニ自己ノ軍隊ヲ使役スル而已ナラス自己ノ國ニ備ヘ置キタル帝國陸軍ノ他ノ軍隊ヲ呼出シ而シテ之ヲ使役スルノ權アル可シ

第六十七條 何レノ場合コテモ豫算表ニ定メタル所ノ陸軍ノ資金ニ付テ其費用ノ殘金アルキハ聯盟各邦ノ政府ニ屬セシテ必ス帝國ノ大藏省ノ貯金トナル可シ

第六十八條 聯盟各邦ノ安寧ヲ害スルコトアルキ皇帝ハ聯盟各邦ノ領地ノ何レノ部分ヲモクリーグスツ、スタン
ノ事務ヲ司ニ定メ而シテ之ヲ布告スルノ權アル可シ○右ノ如キ
ルヲ云フ
皇帝ノ規定ニ付テ「クリーグスツ、スタン」ノ形勢之ヲ布告スルノ方法及其効驗ノ三件ヲ定ムル所ノ帝國ノ法律ノ設アラサル間一切ノ事ハ千八百五十一年六月四日ノ普魯西法律ノ諸件ニ循フ可

○普魯西

第四十三條 國王ノ身体ハ侵スヘカラサル者トス 故ニ國王過チア
スセ

第四十四條 國王ノ諸執政ハ責ニ任スヘキ者トス 國王ノ爲ニ事ヲ
ハ其ノ罪ニ當ル責 ○國王ノ政府ヨリ出ル一切ノ文書ハ必ス其事
メ國王ニ及ホサス

ノ任責ニ當ル所ノ一ノ執政之ニ副署シ始メテ施行スヘキ力アリ
副署セサレハ責ニ任スルノ理由ナシ國王上
ニ花押シ執政其ノ下ニ花押ス之ヲ副署トス

第四十五條 行政權ハ國王一人ニ屬ス 議政ハ衆ヲ尙ヒ ○國王ハ諸
執政ヲ命シ及之レテ免ス 用捨國王ノ ○國王ハ法章ノ頒布ヲ命シ
而シテ其施行ノ爲ニ要用ナル條則チ發ス 議院ニ於テ議決スルノ
法章王命ヲ以テ頒布ス

法章ハ專ラ大則ヲ示スノニ其實際施行便宜
疏通ノ詳目ハ王命ニ由テ別ニ令條ヲ發ス

第四十六條 國王ハ軍兵ノ元帥ヲ有ス 兵馬ノ權

第四十七條 國王ハ軍兵及宅ノ諸部官ニ於テ凡テノ官吏ヲ命スル
ノ權ヲ有ス但法章特ニ定メタル者ハ此例ニアラス 軍官法官政部
ヨリ任命ス其民選ニ屬スヘキ者 官等並ニ國王
ハ法章之ヲ定ム邑長ノ類是ナリ

第四十八條 國王ハ戰ヲ宣ヘ和ヲ決シ外國政府ト諸條約ニ花押ス
和戰ノ專 國王ハ戰ヲ宣ヘ和ヲ決シ外國政府ト諸條約ニ花押ス
權ヲ有ス ○ 國若クハ國民ノ責任 國債及賦 起スヘ
キ將來是ニ由テ諸約ハ兩院ノ議同チ得始メテ施行スヘキ力アリ 其
民ニ關スル者ハ必ス人民ノ議ヲ經故ニ國王
名ハ和戰ヲ專ニシテ實ハ往々衆議ヲ須ツ

第四十九條 國王ハ恩赦ヲ與ヘ及刑ヲ減スル 減等ノ權ヲ有ス ○ 然
ル執政其官事ヲ以テ罪ヲ得タル者ノ爲メニハ其ノ罪ヲ論告シタ
ル議院原告ヨリ奏具スルニ依ルニ非レハ此權ヲ施スヲ得ス 官政

防ニ私スルヲ ○國王ハ特法ニ依ルコト非スシテ方ニ行ヘル法司ノ追究ヲ停ムルヲ得ス 格ムヲ得ス議院特ニ議決スル者ハ例ニアラス

第五十條 國王ハ華章及宅ノ號章ヲ與フルノ權ヲ有ス但華章號章ハ特權特許ヲ附帶セス 特榮アリテ ○國王ハ法ノ條章ニ循テ錢貨ヲ鑄ルノ權ヲ有ス 法ノ條章ニ循ヒ

第五十一條 國王ハ兩院ヲ徵聚ス及會ヲ閉ルヲ決ス ○國王ハ一時ニ兩院ヲ解散シ或ハ其一ヲ解散スルヲ得 ○此時ハ國王必ス解散ノ日ヨリ六十日ノ内ニ選舉人 選舉人ノ事ヲ徵聚シ而シテ九十日ノ内ニ議會ヲ徵聚スヘシ

第五十二條 國王ハ議會ヲ延留スルヲ得 ○但本院ノ承認ナクシテ延留三十日ヲ越ユルヲ得ス

○澳地利

二編第五條 皇帝ハ國事、教門、文學若クハ技術ニ勉勵シテ世ニ其名ヲ知フレタル拔群ノ秀士ヲ上院ノ終身議官ニ任スルノ權ヲ有ス

第七條 皇帝ハ特別ノ形情アリテ州會ヨリ下院ニ代議士ヲ派遣スルコト能ハサルニ際シ部府若クハ卿ニ命令シテ直接選舉 部府卿ノテ直チニ自ラ代議士ヲ行ハシムルヲ得ヘシ

第十九條 帝國議會ノ延會及下院ノ散會ヲ決定スルノ權ハ皇帝ニ屬ス

三編第五條 全國軍ノ指揮及ヒ編制ヲ規定スルノ權ハ特ニ皇帝ニ屬ス

四編第一條 皇帝ハ神聖ニシテ侵スヘカラス又責任スル所ナシ

第二條 皇帝ハ責任ノ執政及之レニ屬隸スル官吏ニ依テ大政權ヲ行フ

第三條 皇帝ハ諸執政ヲ命シ及之ヲ免ス且律法ニ於テ特ニ命スル所ナケレハ執政ノ啓告ニ因リ政府各務ノ諸官吏ヲ進退ス

第四條 爵稱華稱及其他ノ榮章ハ皇帝之ヲ賜與ス

第五條 皇帝ハ軍兵ノ元帥ナリ戰ヲ宣シ和ヲ約ス

第六條 皇帝ハ國事ノ條約ヲ結フ

貿易ノ條約及帝國ノ全部若クハ局部ノ責任或ハ國民ノ義務ヲ起スヘキ國事ノ條約ヲ確的ノモノトナスツメ帝國議會ノ承認ヲ必要トス

第七條 錢貨ヲ鑄ルノ權ハ皇帝ノ名ヲ以テ行フ

第八條 皇帝ハ即位ノ時帝國議會兩院ノ前ニ於テ左ノ誓文ヲ宣告ス

ス

帝國議會ノ代理スル諸王國及ヒ部屬ノ建國法ヲ固守シテ侵スルナク建國法及通國ノ法律ニ準據シテ政ヲ行フヘシ

第十條 法律ノ公布ハ皇帝ノ名ヲ以テス但建國法ニ準シテ設置スル議院之ヲ承認シ責任ノ執政之ニ副署ス

五篇第十三條 皇帝ハ大赦ヲ下シ法衙ニ於テ法ニ循ヒ裁判シタル刑ヲ赦宥シ又ハ之ヲ減殺スルノ權ヲ有ス但執政官ノ責任ニ對シ法律ニ由テ定メタル特例ハ此限ニアラス

○米利堅

第一條第十三節第三 外國及印度種屬ト貿易ノ條約ヲ定メ之ヲ各州ノ内ニ施ス事

第四 合衆國中外人入籍並ニ諸財分散一定ノ法ヲ立ル事

第五 貨幣ヲ鑄其價及外國貨幣ノ價並ニ度量ヲ定ル事

第十一 戰ヲ宣ヘ「マルクヒ」及「レブリサー」ノ令狀及海陸ニ於テ

敵ノ財品ヲ奪フノ規則ヲ立ル事國王或ハ首領ヨリ其人民

ヲ多クハ許シ或ハ損害ヲ償フ爲メ他ノ人民ノ財品ヲ奪フコト

ヲ強價ノ令ト謂フ敵國ノ商船ヲ掠メ其威力ヲ盡ス爲

第十二 兵ヲ起シ之ヲ養フ事但其用ニ供スル財ハ二年ヲ以テ

限トナス

第十三 海軍ヲ備フル事

第十四 海陸軍ノ法制ヲ立ル事

第十五 共和ヲ保テ反亂ヲ鎮メ外寇ヲ退クル爲ニ市兵ヲ徵スル事

第十六 市兵ヲ編制シ之ヲ訓練及合衆國ニ用ユル其部ヲ管轄シ士

官ヲ命スルノ權ヲ各州ニ存シ且議院ニテ定ル所ノ規律ニ從ヒ市兵ヲ訓練スル事

第二條第一節一 行政ノ權ハ之ヲ亞米利加合衆國大統領ニ歸シ四

年間其務ヲ奉セシメ左ノ規則ニ由リ副統領ノ與ニ其選舉ヲ受ク

可シ而シテ副統領在職期限ハ大統領ニ同シカル可シ

第一節七 大統領奉職ノ間ハ其勞ニ報酬ヲ受ク其俸ハ前後増減ア

ル可ラス又合衆國或ハ州内ヨリ他ノ俸祿ヲ受ク可ラス

第一節八 大統領其職務ヲ行フ時必左ノ誓ヲ爲ス可シ

第一節九 予敬ンテ至誠ヲ以テ合衆國大統領ノ職務ヲ行ヒ力ヲ盡

シテ其憲法ヲ保全存守ヒンコト誓フ

第二節一 大統領合衆國海軍及國用ノ爲メ徵發スル所ノ各州市兵

ノ都督タル可シ而シテ行政官中各省長官ヲシテ其庶務ノ意見ヲ

記シ之ヲ出サシメ又「インピーチメント」ヲ除クノ外合衆國ニ犯ス
諸罪ヲ宥ルス權アリ

第二節二 議員三分ノ二之ヲ可ルセハ上院ノ助ケヲ以テ和テ講シ
又使節及他ノ公使領事官法官ヲ命シ其他茲ニ掲ケサル合衆國ノ
庶官奉命ハ都テ法ニヨリ定ム可シト雖モ議院之ヲ然リトセハ司
法下官或ハ各省長官ヲ命スルコト專ラ大統領ニ歸ス可シ

第二節三 上院休會中欠官アル時ハ更ニ人ヲ命シ其員ヲ充タシ之
ヲシテ次會ノ席ニ列ナラシム可シ

第三節一 大統領常ニ合衆國ノ景況ヲ議院ニ告ケ隨テ之ニ處スル
ニ適宜必要ト思慮スル事ヲ議論セシム可シ而シテ非常ノ時ハ二
院或ハ一院ヲ會シ且延會ノ期限ニツキ兩院ノ議合ハサレハ大統
領ノ意ニ隨テ之ヲ延シ又外國使節其ノ他公使ヲ受ケ能ク心ヲ用

テ其法度ヲ行ハシメ合衆國庶有司ヲ任ス可シ

第四節一 大統領及副統領其他合衆國諸官反逆ヲ企テ賄賂ヲ納ル
、等ノ重罪アル時「インピーチメント」ヲ受ケ其罪愈明白ナル時
ハ之ヲ其位ヨリ黜ク可シ

補正第十二條 奉命ノ選士全數過半ノ數ニ副統領ニ撰ハル、
「ヴァ
チード」ノ數最多キモノ其職トナリ而シテ若シ其大數ヲ得ルモノ無
キハ則チ上院記録中其數最多キ者二名ヨリ副統領ヲ選可シ而
シテ其數ハ上院議員三分ノ二ヲ以テ足レリトシ全數ノ過半其選
舉ニ必要ナリ

第十三條 此憲法上ニテ大統領ノ位ニ即クテ得サル人ハ敢テ合衆
國ノ副統領ニ選可カラズ

○白耳義

第二十六條 立法權ハ國王及代議士院_下及上院ニ由テ共同シテ之ヲ行フ 法權ヲ分有ス

第二十九條 行政權ハ國王ニ屬スル_ト 它人干_冒セズ 建國法ニ定ムル所ノ如シ_{第六十條以下}

第六十二條 國王ハ兩院ノ承認無クシテ兼テ他國ノ首領タル_ト 得ス ○此事ニ付テ各院ハ少クモ其議員ノ三分ノ二出頭セサル時ハ評議スル_ト 得ス而シテ已ニ評議シタル時ハ少クモ投票三分ノ二ヲ合シタル_ト 非レハ決テ舉クル_ト 得ス

第六十三條 國王ノ身ハ侵スヘカラサル者トス 國王ノ諸執政ハ責ニ任スヘキ者トス

第六十四條 國王ヨリ出ル文書ハ一ノ執政之ニ副署シタル_ト 非レ

ハ施行ノ力ヲ有スル_ト 得ス 執政ハ唯副署シタル_ト 因テ其責ニ任ス 副署ナキ_ノ 文書ハ執政其責ニ任セズ 王命タル_ノ 効力ナシ

第六十五條 國王ハ諸執政ヲ命シ及之ヲ免ス

第六十六條 國王ハ軍士ニ等位ヲ賜フ ○國王ハ一切ノ政部官及外交諸官ヲ命ス 但法章定ムル所ノ特例ハ限ニアラス 民選ニ出ル者 ○其它ノ諸官ハ法章ノ明文ニ據ル_ト 非レハ國王ヨリ命セズ 司法官ノ類

第六十七條 國王ハ法意ノ施行ノ爲ニ要用ナル條例及命令ヲ作ル 條例トハ法章ノ細目ヲ指シテ命セシ_ト 云ヒ 法章ノ施行ヲ置格シ及_ト 曲免スル_ト 得ス 一家ニ私ス

第六十八條 國王ハ海陸軍ヲ指揮シ 戰ヲ宣告シ 和平及連合及貿易ノ條約ヲ爲ス ○國益及國安之ヲ要スル 和若クハ 戰ヲ要ス ○當テハ國王直ニ之ヲ兩院ニ照報シ 及通告文案ヲ附シ ○貿易ノ條約及國財ヲ費

スヘキノ條約 現今ニ費ヲ要セサルモ後日或ハ之ヲ若クハ各民ニ
關係スヘキノ條約ハ兩院ノ承認ヲ得タル後ニ非レハ其力ヲ有セ
ス○土地ヲ讓ルヲ及易ユルヲ及附加スルヲハ法章ニ依ルコ非レ
ハ之ヲ行フヲ得スニ國王ハ土地ヲ專ニ何等ノ時ニ於テモ條約ノ
密款ハ本款ト相害スルヲ得ス○締約ニ或ハ密款アルヲ得但本
耳目ヲ塗塞スルコ近シ

第六十九條 國王ハ法章ヲ制可シ及ヒ公布ス制可セサレハ法章ヲ
成サス故ニ國王ハ立

法權ノ一ニ居ル公布式ニ依
ラサレハ施行ノ力ヲ有セス

第七十條 兩院ハ毎年十一月第二ノ火曜日ニ會ヲ開クノ權ヲ固有
ス王命ナシト云モ例ニ依リ會但其前ニ國王ヨリ徵聚シタル時ヲ
論セス○兩院ハ毎年必ス四十日間以上會ニ在ルベシ○國王ハ閉
會ヲ宣告ス終期

第七十一條 國王ハ兩院ヲ同時ニ或ハ各別ニ解散スルノ權ヲ有ス
紛議事ヲ沮ム時ハ之ヲ解
散シテ更ニ新議ヲ取ル ○解散ノ文書ニハ四十日間ニ
日ノ選舉人ヲ徵聚スルヲ二月間ニ議員ヲ徵聚スルヲ載ス
後散スルノ後急ニ新員
ヲ徵聚スルヲ要ス

第七十二條 國王ハ兩院ヲ延留スルヲ得○然レモ兩院ノ承認ヲ
クシテ延留一月ノ期ヲ越エ及一會ニ兩次ノ延留ヲナサザムルヲ
ヲ得ス

第七十三條 國王ハ裁判官ノ判決シタル刑罪ヲ寬赦シ及降減スル
ノ權ヲ有ス但諸執政ニ付キ法章ニ定メタル者ハ例ニ非ラズ
事ノ罪ハ國王赦
減スルヲ得ス

第七十四條 國王ハ法章ニ循ヒ錢貨ヲ鑄造スルノ權ヲ有ス

第七十五條 國王ハ貴族ノ號章ヲ賜フノ權ヲ有ス但附スルニ特權

ヲ以テスルヲ無シ

第七十六條 國王ハ武爵ヲ賜フ但此事ニ付キ法章ヲ示ス所ノ條規ヲ守ル

第七十八條 國王ハ建國法及建國法ニ由リ特ニ掲ケタル法章ニ明カニ歸附スル所ノ者ヲ除クノ外它ノ權勢ヲ有セス 王權ハ法ノ明文ニ據ル

第七十九條 國王歿スル時ハ兩院ハ遅クモ其後十日間ニ徵聚ヲ待タス會合ス○若シ兩院其前ニ解散セラレ而シテ解散ノ令ニ載セタル新徵ノ期却テ第十日ヨリ後ニ在ル時ハ新議員ノ交代スルニ

至ル迄舊議員其職ヲ行フ○若解散シタル者一院ニ止マル時ハ該院亦上ノ規則ニ依ル 它ノ一院ハ常例ニ依ル

第八十條 國王ハ全周十八歳ヲ以テ成年トス○國王ハ兩院合會ノ中ニ於テ式ニ依リ左ノ誓辭ヲ宣ヘタル後ニ非レハ位ヲ有セス我

白耳義國民ノ建國法及諸法章ヲ守ル事及國ノ獨立地ノ全局ヲ保ツ事ヲ誓フ

第一百一條 國王ハ法院 大審院及裁判所 始審裁 自代官ヲ任シ及之ヲ免ス 法官ハ之ヲ命シテ而シ之ヲ免スルヲ得ス檢官ハ之ヲ命シ又之ヲ免ス

第一百三十二條 國王第一次推選ノ爲ニハ第八十條ノ第一項 國王十以テ成トコ依ルコ及ハス 是レ 子ムールノチユク 推選スルノ項ニ依ルコ及ハス 是レチムールノチユク 推選スルカ爲ニ特ニ設ケタルナリ

○瑞典

第二款 國王ハ必ス常ニ清淨眞敬ヲ奉シ「オーグスブルク」ノ信認書及千五百九十三年「ユフサラ」教會ノ教律ニテ所明ノ宗理ヲ守ルヘシ

第三款 王躬ハ神聖ニシテ尊敬スヘシ其行爲ハ敢テ間然スルヲナ

カルヘシ

第四款 國王ハ政體ノ憲法ニ據リテ獨リ王國ヲ治ムヘキ權理アリ
然リト雖モ此ノ憲法中ニ掲ケシカ如ク輔弼ヲ求メ内閣大臣ノ獻
替ヲ乞フヘシ此ノ輔弼ヲ求ムルコハ國王ハ須ラク瑞典ニ生レテ
清淨眞教ヲ奉スル國民ノ中ニテ正直賢明ニシテ世ノ儀標タルヘ
キ人物ヲ採用スヘシ

第八款 凡國王内閣ニ差出シタル機務ヲ可否スルコハ必ラス之ヲ
奏聞スル處ノ大臣ト三員以上ノ大臣ノ面前ニ於テ決定スルヲ要
ス○内閣大臣ハ法律ニ於テ其出頭ヲ止ムルニ非ラサルヨリハ總
テ重大ノ機務アル時ニ出頭シ預メ差出シテ其日ニ決定スヘキ當
務ニ繼キテ内閣ニテ商議シ而シテ王國ノ大成官ニ申報スヘシ
重大ノ機務トハ新ニ條例ヲ設ケ或ハ既ニ行ル者ヲ廢止シ又改

革シ或ハ政府ノ諸局ニ新法ヲ用ユル等ノ謀議ヲ云フナリ

第十一款 國王ハ最モ便宜ナリト考フ處ニ隨テ外交ノ機務ヲ處分
シ命令スヘシ之ヲ辨理スルコハ國務兼外務宰相ニ於テ内閣大臣
出頭ノ席ニテ奏聞スヘシ若シ外務宰相ノ不在ニ逢フ時ハ國王其
事ヲ謀議スルカ爲メニ召シ集メタル大臣ノ中ニテ之ヲ奏聞シ其
參議セル大臣其責ニ任シ而シテ其參議ノ趣ヲ草案ニ記シ國王ハ其
議論ヲ聽キタル上其席ニ於テ之ヲ決斷シ特ニ其事ニ任シタル大臣
ニ於テ預シメ其草案ヲ作ルヘシ且又國王要用ナリト考フル時ハ
之ヲ内閣大臣一統ニ報示シ總テ其事ノ始末ヲ知ラシムヘシ

第十二款 前款ノ條理ニ基キテ國務兼外務宰相及其時ニ召シ集メ
タル内閣大臣ノ議論ヲ聽キタル上ハ國王ニ於テ外國ト盟約ヲ立
テ和親ヲ結フヘキノ權アリ

第十三款 若シ國王ニ於テ軍ヲ起シ或ハ和誼ヲ講セント欲スル時
ハ其爲メニ臨時ノ會議ヲ爲シ總テ内閣大臣ヲ集メテ之ニ右和戰
ノ事情道理ヲ報示シテ其謀議ヲ求ムヘシ大臣ニ於テハ各自ニ其
意見ヲ吐キテ之ヲ草案ニ記シ第七款ニ掲クルカ如ク其責ニ任
スヘシ此會議相濟ミタル上ハ國王ニ於テ最モ國家ノ爲メ利益ア
リト考フ處ニ隨テ和戰ノ事ヲ決斷シ施行スヘシ

第十四款 國王ハ全國海陸軍ノ都督トシテ之ヲ使令スヘシ

第十五款 軍機(即チ國王親ラ政ヲ執ルニ方リテ海陸軍ノ都督タル
資格ヲ以テ命令スル處ノ機務)ハ須テ海軍省或ハ陸軍省ノ長官
ノ面前ニ於テ決定スヘシ軍事ヲ預備スル時ニ當リ若シ國王ノ行
事ニ間然スヘキ處アレハ乃チ此長官其職掌ヲ以テ利害ヲ陳述ス
ヘシ若シ國王ノ決定スル處ト其意見ト矛盾スルキハ其不同意ノ

處ト謀略トヲ草案ニ記シ其處ニ國王御諱ヲ署メ相違ナキ旨ヲ明
示スヘシ若シ長官ノ意見ニ於テ國王ノ行事ヲ以テ危險ニ陷ルヘ
キ前兆アリ或ハ之ヲ施行スルニ充分ノ根基無シト思フキハ更ニ
國王ニ勸メテ特ニ軍事ノ會議ヲ起シ當時在職ノ大臣二員以上ヲ
召シ集メシムヘシ若シ國王諫言ヲ用ヒス而モ軍事ノ會議ヲ設ク
ルモ衆員草案ニ記ス處ト同意ナル時ハ國王ノ意見ヲ以テ間然ス
ヘカラサル者ト看做スヘシ

第十六款 國王ハ必ラス正直眞實ノ道理ヲ維持シ愛護シ兇暴不正
ノ事ヲ防禦シ而シ法律ノ否ナム處ニアラサルヨリハ人民ノ性命
名聲又ハ一身ノ權利利益ヲ損害シ又ハ損害スル事ヲ許容スヘカ
ラス○國王ハ一個人ト裁判所ト相對スルノ間ニ關涉ス可ラス
第二十五款 刑法ノ案件ニ於テハ國王ハ死罪ヲ赦シ他刑ヲ以テ之

ニ換ヘ或ハ其者ノ榮譽及沒收シタル物件ヲ復與スル權アリ然レ
モ之ヲ施行スルニハ預メ其趣ヲ大法院ニ告知シ内閣ノ集會ニテ
決定セサル可ラス但國王ノ赦免ヲ受ケ又ハ他ノ刑ヲ甘スルト否
トハ罪人ノ勝手ニ任スヘシ

第二十六款 司法ノ案件ヲ内閣ノ集議ニ持出ス時ニハ國務宰相ノ
外大法院ノ法官兩員列席シ第九款ニ掲グルカ如ク必ス其意見ヲ
草按ニ記スヲ要ス

第二十七款 國王ハ法律ニ熟通シ材幹アリ公平ナル人物ヲ選用シ
テ其物檢事タルカ故ニ其職トシテ親自又ハ其部下ノ檢事或ハ諸
官省ヲ以テ人民ノ安危國ノ權利ニ係ル事件ニ於テハ裁判ノ事務
ヲ監察スヘシ又司法官吏ノ罪犯アルキハ國王ノ名ヲ以テ之ヲ糾
彈スルノ職掌タリ

第二十八款 國王ハ内閣ニ於テ是迄勤仕ノ官記ヲ得タル目錄中ニ
リ瑞典國ニ生レタル人物ヲ選ンテ國中大小ノ官位ニ就カシムル
ノ權アリ但初メテ官途ニ就クキニハ從來ノ規例ニ基キ候補ノ人
物ヲ預メ目錄ニ列シテ國王ニ進呈スヘシ○然リト雖モ國王ニ於
テ相當ナル大臣ノ奏議ヲ聽キテ以テ外國人ニテ拔群ノ功能アリ
テ清淨眞教ヲ奉スル者ヲ採用シテ宣敎職ヲ除ク外ハ之レヲ大學
校博士ノ助手或ハ博士職其他文藝貿易并ニ醫術ノ學校ノ教授ニ
命シ能フヘシ○又國王ハ外國人ニシテ稀有ノ才略ノ者ヲ採用シ
テ城堡ノ守將ヲ除ク外其他ノ武職ヲ命シ得ヘシ凡テ國王ニ於テ
人物ヲ拔擢シ官位ヲ授與スルニハ須ラク唯才能アル者ヲ選ニ決
シテ門地ニ泥ムヘカラス

第三十五款 内閣大臣學校其他等ノ司長領王室ノ總檢事税關驛遞

局ノ長官國務省ノ大丞諸州ノ大守京都警視ノ督諸州ノ知事陸軍
大都督海陸軍ノ大少將大少參軍城堡ノ主將諸大佐親衛騎歩ノ中
佐及ヒ各兵各隊ノ指揮使砲兵城堡建築兵圖局ノ長官及外國ニ派
出シタル諸公使領事并外務省公使館ノ官僚ハ其職掌タル何レモ
信任ノ位地タルヲ以テ國王國事ニ於テ利益ナリト考フキハ之ヲ
與奪シ得ヘシ然リト雖モ國事ハ之ヲ與奪スル前ニ其主趣ヲ内閣
大臣ニ告知スヘシ○大臣ニテ然ル可ラスト思惟スルキハ諫言ス
ル權アリ

第三十六款 凡テ大小ノ法官并前款ニ載セサル處ノ諸吏目ハ檢査
審斷ノ上ニアラサレハ國王ト雖モ之ヲ與奪ス可ラスト又本人ヨリ
請求スルコアラサレハ他ノ官職ニ就カシム可ラスト

第三十七款 國王ハ忠實剛勇德望學藝アリ忠勤怠ラス格別ノ功績

ヲ立テ應サコ國家ノ勳典ニ浴ス可キ人物ヲ華族ニ封スルノ權アリ
又國王ハ非常ノ功勞アル華族ノ爵位ヲ昇進スルノ權アリ○從
來受封ノ伯子男爵ハ唯モ華族ニ生タル者又ハ其爵ヲ得ヘキ者ノ
ミコテ襲續シ本人ノ死後ニハ直ニ其宗支ノ男裔ノ長子ニ傳リ若
シ宗支斷絶スルキハ其次支ノ男裔ニシテ最モ族中ノ宗支ニ近キ
者ニ傳ハル可シ○世襲ノ法ニ據リテ若シ其爵位既ニ生來華族タ
ル處ノ者或ハ之ヨリ近キ血統ニ依リ已ニ他ノ爵位ヲ襲フテ華族
ト爲ル者ニ傳リ及フキハ其爵位ハ爰ニ止リテ消滅スヘシ然レモ
若シ本人ノ爵位ハ其襲フヘキ者ヨリ高級ナレハ次支ノ者ニ傳リ
若シ之ヲ襲フ者無キキハ乃チ其系統斷絶スヘシ○若シ華族ニシ
テ其爵位ヲ褫奪サルハ、トアルキハ乃チ此條款ニ隨ツテ次支ノ者
ニ相續セシム可シ○華族ノ爵位ハ國王ト華族ト集議決定ノ上ニ

テ其制ヲ立ツヘシ其法ハ特別ノモノニシテ王室ト華族トノ公有ナリト爲ス

第三十八款 凡テ國王ヨリ所出ノ諸議定命令ハ軍機ニ關スル者ヲ除ク外必ス國王ノ御諱ヲ署シ相當ノ奏者ハ内閣大臣之ニ簽名ス可シ此奏者ハ其草案ノ趣ニ同意スルヲ以テ總テ其責ニ任スルヲ要ス○諸省ノ長官ハ右議定ノ趣ヲ奉行スルカ爲メニ教示等ヲ發スルヲ得ヘシ○若シ奏者ニ於テ國王ノ決定スルトコロハ政府ノ憲法ニ戻リタル事ヲ知ルトキハ内閣ニテ其事ヲ諫言スヘシ國王其諫ヲ用弗ス必ス己決ノ事ヲ施行セント欲スルキハ奏者其職ヲ竭シ其權ヲ持シテ之レニ簽名スルヲ辭シ併セテ其官職ヲ奉還ス可シ斯ク一タヒ其官ヲ辭シタル上ハ議院ニテ其所行ヲ檢査シ果シテ奏者ノ説ヲ有理ナリト決スルニアラサルヨリハ再ヒ其

官ニ復スルヲ得ス○右ノ如クシテ奏者職ヲ止ムル間ハ其俸祿並所入等ハ依然トシテ之ヲ受用ス可シ

第三十九款 若シ國王封疆ヲ越ヘテ旅行セント欲スル時ハ必ス其趣ヲ内閣ニ告ケ其意見ヲ聽クヲ第九款ノ如クナルヲ要ス○國王旅行ニ決定シ一タヒ發程シタル上ハ王國ノ政事ニ干預スヘガラズ國疆外ニ在ル間ハ王權ヲ用ユ可ラス

第四十六款 王國ハ現今ノ地方條例ニ從テ分割シテ其治ヲ爲スヘシ且ツ向後ハ王國中ニ總鎮臺ノ職ヲ置カサルヘシ

第四十八款 宮内ノ事務ハ都テ國王ノ命令ニ服スルヲ要ス故ニ其善トスル處ニ從テ萬事ヲ裁置スル權アリ宮内省ノ官吏ノ如キハ其點陟皆ナ王意ニアル可シ

第五十一款 國王或ハ攝政職或ハ内閣ニ於テ議院ヲ召集スル時ニ

ハ都府ノ禮拜堂ニテ右集會ノ事ヲ公告シ其日ヨリ二十日以外三十日以内ニ開會ノ日限ヲ定ム可シ

第八十款 州府ニ於テハ從來ノ約定ニ據リテ「ロテリング」及「ヒイン」
「デルニング」ノ法ヲ以テ騎兵歩兵並ニ海兵ヲ扶持シ國王ト議院ト
商量ノ上ニテ之カ改革ヲ爲ス迄ハ舊ニ仍テ之ヲ奉行ス可シ○國
王議院一致ノ上ニアラサレハ新ニ「ロテリング」法ヲ立テス又之ヲ
加増ス可ラス

第一百十二款 諸官吏史生等其職ニ在ルノ故ヲ以テ姦曲ヲ舞シテ職
員ノ撰擧ヲ動スヘカラス之ヲ犯ス者ハ直ニ其職ヲ剝クヘシ

○西班牙

第三十一條 國王ハ親ラ國會ノ開閉ヲ宣告ス否ラカレハ執政官ヲ

シテ之ヲ宣告セシム

第四十二條 國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵ス可カラス又責任トスルニ
所ナシ○執政ハ責任アリ

第四十三條 法律ヲ執行セシムルノ權ハ國王ニ屬ス凡國憲及法律
ニ依進シテ内國ノ康寧ヲ保チ外國ノ平和ヲ存スル等ニ係ルコトハ
皆其權内ニ在リ

第四十四條 國王ハ法律ヲ制可シ及之ヲ公布ス

第四十五條 國王ハ其國憲ニ依テ認許セラル、所ノ特權ノ外猶左
ニ掲クル權ヲ執行ス

第一 法律ノ執行ニ關スル王勅條例并ニ訓狀ヲ下ス事

第二 全王國ニ於テ審判ヲ督責シ及之ヲ看守シテ其決行ヲ充
分ナラシムル事

第三 法律ニ照シ罪人ヲ赦宥スル事

第四 戦ヲ宣シ和ヲ講スル事但之ヲ爲スノ後其必要ナル説明
及文牒ヲ國會ニ告示セサル可カラス

第五 軍隊ヲ整備シテ便宜ニ之ヲ派遣スル事

第六 外國政府ト政治ノ交際及貿易ノ交際ヲナス事

第七 貨幣ノ鑄造ヲ指揮シテ自己ノ肖像及名ヲ摸寫モシムル
事

第八 施政各局ニ準備スル資金ノ用法ヲ命令スル事

第九 凡官吏ヲ命シ及法律ニ依準シテ諸種ノ榮章ヲ賜フ事

第十 自由ニ執政ヲ命シ及之ヲ免スル事

第四十六條 國王左ノ件ヲ行フニハ特別ノ法律ニ依ラサルヲ得
ス

第一 西班牙國土ノ部分ヲ賣易讓與スル事

第二 外國兵隊ノ王國ニ入ルヲ許ス事

第三 攻敵盟約同盟國ト合フテ外貿易契約及外國ニ助銀ヲ給
スル契紙ヲ准定スル事

第四 太子ノ爲ニ王位ヲ辭スル事 增補律例第九
第十條參看

第四十七條 國王ハ婚姻ヲ約スルノ前其意ヲ國會ニ示シ其條約ヲ
承認シ以テ法律トナスヲ得セシム可シ○王位ヲ繼ク可キ者ノ
婚ヲ約スルモ亦前條ノ規例ヲ遵守ス可シ○國王及王位ヲ繼ク可
キ者ハ法律ニ循ヒ王位繼承ノ權ヲ剝カル、者ト婚ヲ約スルヲ
得可カラス

第四十八條 國王及王族費用ハ各王臨御ノ始メ國會ニ於テ之ヲ定
ム

增補律例第九條 國王ハ左件ヲ行フニモ亦國憲第四十六條ニ舉ル時機ノ如ク別法ノ承認ヲ受ケサル可カラス

第一 一般ノ赦恩其刑ヲ赦シテ及大赦刑罪共ニヲ命スル事

第二 王領ノ全部若クハ局部ヲ賣與スル事

第十條 國王ハ親ラ婚ヲ約シ及其權内ニ在テ且國憲ニ依リ王位ヲ繼ク可キ者ノ婚約ヲ許允スルカヨメニモ亦別法ノ承認ヲ受ケサル可カラス

第十一條 參議院ヲ置キ法律ニ定メタル時機ニ於テハ其レヲシテ國王ノ議ニ參セ令ム可シ

第十三條 國王ハ獨リ人口四萬ノ府ニ設クルアルカド國憲第七十ニ條ニ見ユヲ命スルヲ得可シ其他ノ府ニ於テハ法律ニ定ムル所ニ循ヒ其選任ニ關與ス可シ

○瑞士

第八條 聯邦ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ外國ト同盟條約スルノ特權ヲ有ス就中關口稅及貿易ノ條約ヲ結フノ特權アリ

第九條 然レモ列邦ハ經濟上ノ事務隣國ノ交際及警察ニ關スル事件ノ條約ヲ外國ト取結フノ權ヲ有ス但此條約中ニ聯邦又ハ他ノ列邦ノ權利ニ背反スル條款アル可ラス

第十條 列邦ト外國政府ト若クハ外國使節トノ間ニ公務ノ往復アル時ハ必ス聯邦行政會コンフェデラツィオンヲ經由ス可シ○然レモ列邦ハ前條ニ掲ケタル事件ニ付キ外國ノ下等官廳及吏員ト直ニ相往復スルヲ得

第三十六條 聯邦ハ總テ貨幣ニ關スル權利ヲ受用ス嗣後列邦ニ於テ貨幣ヲ鑄ルヲ止メ貨幣ヲ造ルヲ聯邦獨リ之ニ任ス○貨幣ノ原

位及通貨表ハ聯邦ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム可シ列邦ニ於テ既ニ發行セシ貨幣ノ一分ヲ再鑄シ又ハ改鑄スルタメ列邦ノ義務ニ關スル嗣後ノ規則モ亦聯邦ノ法律ヲ以テ制定ス可シ

第三十七條 聯邦ハ度量衡ニ關スル聯邦會約書ヲ以テ其基礎トナシ全國ノ度量衡ヲシテ均一ナラシム可シ

○葡萄牙

第四條 政府ハ君主世傳代議政トス 君主世々王位ヲ襲キ公選ノ代議士國民ニ代リテ法律ヲ定立ス

第十八條 國王親ヲ宣スル議院ノ開會ハ每歲一月二日ニ於テスヘシ

第十九條 國王親ヲ宣スル議院ノ開會及閉會ハ兩院 貴族院代 議士院 集合

シタル國會ニ對シ其式ヲ行フヘシ是時貴族院ノ議員ハ右ニ列シ代議士院ノ議員ハ左ニ列スヘシ

第六十一條 法律公布ノ式文ハ左ニ掲クル者ヲ用ユヘシ「神明ノ惠ニ頼リ葡萄牙兼亞利牙爾威等ノ國王タル某左ニ掲クル法律ヲ國會判定シテ朕許允スル旨汝衆庶ニ誥ク故ニ朕今此法律ヲ認知執行スヘキ總官廳ニ向ヒ各之ヲ執行シ及之ヲ執行格守セシメテ苟モ缺遺スルコトナキヲ命令ス某務 當該ノ省名ノ執政官之ヲ印刷公布頒行セシムヘシ」

第六十二條 當該執政官副署シテ王璽ヲ捺印シタル國王手署ノ法律ハ「シアルチエ」塔樓ニ藏ムヘシ其印本ハ王國ノ各院省裁判所及其公布スヘキ所ニ頒行スヘシ

第七十一條 節制權ハ總テ國家制度ノ鎖鑰ナリ故ヲ以テ常ニ他ノ

諸大權司法行法立ノ不羈均勢調和ノ保存ヲ看守スルカ爲ニ特ニ
之ヲ國民ノ首長タル國王ニ歸屬セリ

第七十二條 國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵スヘカラス又責任トスル
所ナシ

第七十三條 國王ノ尊號ハ海ノ内外ニ對シテハ葡萄牙兼亞利牙爾
威國王ト稱シ亞非利加洲ニ對シテハ「グニイチ」公兼ニテオビ
「波斯」度印等ノ渡航並ニ貿易ノ君長ト稱ス○國王ハ「甚篤信スル陸
下」ノ尊稱ヲ有ス

第七十四條 國王ハ左件ニ由テ節制權ヲ執行ス

第一 貴族議員ヲ命ジテ定員無キ事

第二 國益ノ爲ニ須要トスル時會期ノ暇時ニ於テ臨時ニ國會
ヲ召聚スル事

第三 國會ノ定案及判決ヲ制可シテ之ニ法律ノ力ヲ與フル事

第四 國會ヲ催徵シ若クハ之ヲ延期スル事及國安ノ爲ニ須要

トスル時機ニ於テ代議士院ヲ解散スル事但此時ハ之ニ代

ヘキ他ノ代議士院ヲ即時ニ召聚スヘシ

第五 任意ニ執政官ヲ除任免黜スル事

第六 第二百一十一條ノ時機ニ於テ裁判官ヲ停職スル事

第七 裁判官ノ斷接ニ因リ處決セラレタル罪人ノ刑ヲ赦シ若

クハ減等スル事

第八 緊急ノ時機ニ際シ及仁惠並ニ國益ノダメニスル時ニ於
テ大赦ヲ行フ事

第七十五條 國王ハ行法權ノ首長ナリ而シテ執政官之ヲ受用ス○
行法權長ノ職掌ハ大約左ノ如シ

- 第一 葡萄牙王國ニ於テハ現時ノ議員任期ヨリ第四年ノ三月二日ニ至リ通例ノ新國會ヲ徵聚スル事但王國所屬ノ地ニ於テハ更ニ一歳ヲ早クス
- 第二 「エウユク」長ヲ叙任シ及僧官ヲ授與スル事
- 第三 裁判官ヲ命スル事
- 第四 其他ノ民事國事ノ職務ヲ備設スル事
- 第五 海陸軍ノ指揮官ヲ命シ及國益ノタメニ要スル所アル時ハ之ヲ免スル事
- 第六 全權公使及外國交際並ニ貿易ニ關スル其他ノ官僚ヲ命スル事
- 第七 外國ト取結ヘル國事條約ヲ指揮スル事
- 第八 攻敵條約防敵條約數國連合シテ外敵ヲ攻助金條約ニ外國

- 贈金ヲ及貿易條約ヲ制定スル事但國安ノタメニ要スル時ハ該條約取結ヒノ後之ヲ國會ニ通知ス○平和ノ時ニ於テ取結ヒタル條約ノ王國ノ州地或ハ所屬地ノ讓與若クハ其境域變易ニ關スルモノハ國會ノ許認ヲ得ルノ後ニ非レハ執行スヘカラズ
- 增補律例第十條ニ云ク凡政府ニ於テ外國ト取結フヘキ諸條約ハ之ヲ確定スルノ前ニ密會ヲ開ケル國會ノ許認ヲ受クヘシ○建國法第七十五條第八項第十四項ヲ修正擴張スルヲ斯ノ如シ
- 第九 國益國安ト相關カル報照ヲ議院ニ送移シテ戰ヲ宣シ和ヲ講スル事
- 第十 法律ニ定メタル規程ニ循ヒ歸化免狀ヲ與フル事
- 第十一 國家ニ勳勞アルカタメニ爵稱武階號章及褒ヲ賜與スル事

但未ク法律ニ由リ設置限定セサル金貨ノ褒賞ハ議院ノ許

百
認テ需テ後賜與ス

第十二 法律ノ執行ヲ充分ニスルカタメ王勅訓狀及條例ヲ發布スル事

第十三 國會ノ議決ニ由リ施政各局ニ準備シタル資金ノ享用ヲ規定スル事

第十四 教僧議會ノ訓令羅馬教皇ヨリ發出スル諸訓命其他總テ建國法ニ悖ラサル教會律典僧徒ノ教法規律

許認ヲ允否スル事但此等ノ發布文書ニ全國一般ニ關スル條規ヲ含メルキハ國會ノ許認ヲ需ツ

第十五 建國王ニ依據シテ王國內外ノ安寧ニ關スル諸般件ヲ辨濟スル事

第七十六條 國王ハ即位宣告前ニ上下兩院會合ノ席ニ於テ實族院

ノ議長ニ左ノ誓詞ヲ宣フヘシ

余羅馬正教ヲ篤信シ王國ノ完全ヲ保存シ葡萄牙建國法其他ノ諸法律ヲ遵守シ且國民ヲシテ之ヲ遵守セシメ及力ヲ竭シテ王國ノ公益ニ辨濟センコトヲ誓約ス

第七十七條 國王ハ國會ノ承允ナクシテ葡萄牙王國外ニ出ツルヲ得ヘカラス若シ國會ノ承允ナクシテ國界ヲ出ツンハ王位ヲ辭スルト見做スヘシ

第一百十七條 海陸軍ノ擢制昇級俸給及軍律ハ特別ノ王勅ニ因テ之ヲ規定スヘシ

○荷蘭

第五十條 國王ハ政柄ヲ把リタルキ兩院集合シタル國會ノ公會ニ

於テ誓詞ヲ宣ヘ及務メテ急ニアムステルガム一府ニ於テ即位ノ正禮ヲ行フ

第五十一條 國王ハ此公會ニ於テ建國法ノ上ニ其手ヲ置テ誓ヲ爲
聖ナル物件ノ上ニ手ヲ置クニア左ノ誓詞ヲ宣ヘ或ハ左ノ約ヲ立
リ是レハ此物件ヲ證トスルナリ
ツ○朕ハ王國ノ憲法ヲ保守スルヲ荷蘭國民ニ誓フ或ハ○朕ハ
朕カ全權ヲ以テ王國ノ獨立ト王國ノ完全ト守リ并ニ公共ノ自
由各個ノ自由ヲ護守シ朕カ臣民ノ總般及各自ノ權理ヲ固保シ總
般及各自ノ繁榮ヲ保有増益スルカタメ善良ナル國王ノ當ニ竭ス
ヘキ所ヲ願ミ法律ニ訴ヒル諸方法ヲ施用スルヲ誓フ或ハ故ニ
願クハ神明ノ予ヲ惠センヲ或ハ予レ
之ヲ約ス

第五十二條 此誓詞ヲ宣ヘ若クハ契約スルノ後國王ハ國會ノ集
スル序ニ於テ即位ノ禮ヲ行フ是ニ於テ國會ノ議長ハ左ニ掲クル

告白ヲ陳ス而シテ議長及全議員各自ラ左ノ誓若クハ約ヲ以テ其告
白ヲ證スルニ至ル迄ヲ告白ノ中荷蘭國民以下即位ヲ行フノ儀ニ會ス

荷蘭國民ノ名ヲ以テシ及建國法ニ依リ我輩陛下ヲ戴キ王トシ
シ即位ヲ行フノ儀ニ會ス我輩陛下ノ神聖不侵ナルト陛下ノ主
權トヲ擁護スヘキヲ誓フ或ハ我輩忠良ナル國會ノ當ニ竭スヘ
キ諸般務ヲ行爲スルヲ誓フ或ハ○故ニ願クハ神明ノ我輩ヲ
惠助センヲ或ハ我輩
之ヲ約ス

第五十三條 國王ハ侵害スヘカラス執政官獨リ責ニ任ス

第五十四條 行法權ハ國王ニ屬ス

第五十五條 國王ハ外國事務ヲ總攝ス

第五十六條 國王ハ戰ヲ宣シ即時ニ之ヲ國會ノ兩院ニ通知ス且國
家ノ益利安寧ト相密接スルト思量スル所ノ者ト同ク之ニ通照ス

第五十七條 國王ハ外國ト和議ヲ結ヒ及其他ノ條約ヲ準定ス○國王ハ國家ノ益利安寧ニ係リ之ヲ要トスルト思量スレハ即時ニ右ノ條約ヲ國會ノ兩院ニ通照ス○歐羅巴洲内若クハ他洲ニ於テ王國所屬地ノ局部ヲ讓與若クハ交易スル條規又ハ凡法ニ準スル權理ニ關スル條規若クハ其修正ヲ含メル條約ハ國會ニ於テ其條規若クハ修正ヲ認可スル後ニ非サルノ外國王之ヲ準定セズ

第五十八條 國王ハ海陸軍ヲ指揮シ武官ヲ拜除ス但其昇級免黜若クハ退老ハ法律ヲ以テ定メタル例規ニ準シ國王之ヲ決ス○恩賜金ハ法律ヲ以テ限定ス

第五十九條 歐洲外ニ於ケル藩屬地及所屬地ノ統管ハ國王ニ屬ス○該藩屬地及所屬地ノ政治ハ法律之ヲ定ム○貨幣條例ハ亦法律ヲ以テ定ム○藩屬地王國所屬地ニ管スル其他ノ事務ハ時機必要

トスル場合ニ際シ法律ヲ以テ之ヲ規定ス

第六十條 國王ハ連歲藩屬地及所屬地ノ理治及情形ヲ詳悉ニスル報告書ヲ國會ニ致サシム○藩屬地會計ノ管治及其理財法ハ國王之ヲ定ム

第六十一條 國王ハ國用ヲ統理シ國庫ヨリ給與スル院寮官吏ノ俸額ヲ審定ス○司法官吏ノ俸額ハ法律ニ由テ定ム○國王ハ此等ノ俸金ヲ國費預算表ニ登記ス○官吏ノ恩賜金ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第六十二條 國王ハ鑄錢ノ權ヲ有且其肖像ヲ錢貨ニ鑄ラシムルヲ得

第六十三條 貴族ノ稱ハ國王之ヲ賜與ス○凡荷蘭國人ハ外國貴族ノ稱ヲ受クヲ得ス

第六十四條 凡俠勇勳級ハ國王ノ建議ニ由リ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 何レノ義務ヲモ負ハシメサル外國ノ勳級ハ國王之ヲ受ルコトヲ得及國王ノ承諾アレハ王族モ又之ヲ受ルコトヲ得○何レノ場合ヲ論セス王臣ハ國王ノ許允ヲ經スシテ外國ノ勳級爵稱位職ヲ受ルコトヲ得ス

第六十六條 國王ハ裁判ヲ受ケタル刑罰ヲ輕減スル恩典ヲ行フノ權ヲ有ス○三年以下ノ禁獄ト罰金トヲ單科又ハ併科シタル刑罰ニ係リ國王其之ヲ審判シタル判司ノ意見ヲ聽タルノ後其以上ノ罪ニ於テハ大法院ノ意見ヲ聽キタル後ニ此恩典ヲ行フ○大赦及赦罪ハ法律ニ由ルニ非スシテ行フコトヲ得ス

第六十七條 凡特准ハ別段ノ法律ニ由ルニ非サル外國王之ヲ行フコトヲ得ス但之ヲ該法律ニ揭示シタル時機ニ限ル

第六十八條 國王ハ相互和解スルコト能ハサル時二州若クハ數州ノ

間ニ生スル行政上ノ權限牴觸ヲ裁審ス

第六十九條 國王ハ法律議案ヲ國會ニ出シ及其他自ラ適宜ト思量スル起議ヲ國會ニ下附ス○國王ハ國會ヨリ上奏シタル起議ヲ允否ス

第七十條 國王ハ同時ニ又ハ別々ニ國會ノ兩院ヲ解散スルノ權ヲ有ス○國會解散ノ布令ハ同時ニ四十日ニ新議院ノ撰舉及二月内ニ該議院ノ召集ヲ命ス

第七十三條 國王ハ諸省ヲ設置シテ其長官ヲ命シ及隨意ニ之ヲ免黜ス○諸省長官ハ國王ニ屬スル執行ノ權限ヲ守リ建國法及其他法律ノ執行ヲ看守ス○諸省長官ノ任責ハ法律ヲ以テ定ム○凡國王ノ決定及處分ニハ諸省長官ノ一人之ヲ副署ス

第九十九條 國王ハ兩院又ハ其一院ノ解散ヲ命スルトキ併セテ國會ノ閉會ヲ命ス

第百十五條 國王及國會ノ承允シタル法律議案ハ荷蘭國法ト成ル
而シテ國王之ヲ公布ス○國法ハ侵ス可ラス

第百十六條 國法公布ノ方法及國法ニ執行ノ力ヲ與フル期限ハ法
律ヲ以テ定ム○國法ノ公布ハ左ノ例文ニ依ル

荷蘭國王某此公文ヲ通覽スル汝ヲ衆庶ニ左ニ掲クル所ノ者ヲ告
知ス○某々ノ理由ヲ熟考シ○此條由ニ依リ參議院與閣シ及國會
ト諧合シテ此公文ニ掲クル所ノ條則チ定メタリ〔茲ニ法律ノ成文
ヲ挿記ス〕某年月日某府ニ於テ公布ス

第百六十九條 國王ハ凡教會ノ國法ヲ遵守スルヲ看守ス

○丁抹

第一條 國ハ立憲政體タリ王位ハ世襲トシ嗣位ノ順序ハ一千八百

五十三年七月三十一日ニ制定シタル法律ノ第一條及第二條ニ據
ル

第二條 立法權ハ國王及兩院共同シテ之ヲ行ヒ行政權ハ國王ノミ

ニ在リトス司法權ハ各裁判所ニ於テ之ヲ行フ

第三條 「エグリース、エウアンゼリイクリユテリユス」波羅特士且 教
ヲ以テ國教トシ政府之ヲ保守ス

第四條 國王ハ兩院ノ承認ナクシテ外國ノ君主ヲ兼スルヲ得ス

第五條 國王ハ必ス「エグリース、エウアンゼリイクリユテリユス」教
ヲ奉ス可キ者トス

第六條 國王ハ滿十八歳ヲ以テ丁年トス王族亦同シ

第七條 國王ハ即位ノ前ニ參議官ノ面前ニ於テ國憲ヲ確守スヘキ

誓書ニ乘テ記シ兩院及國ノ記録局ニ付ス兩院及國ノ記録局ハ並

ニ之ヲ保藏ス若シ國王ノ代ル時不在巡幸中等或ハ他ノ事故ニ由リ誓書ヲ記スヲ能ハザル時機ニ於テ格別ナル法律アラサレハ參議官政ヲ行ヒ國王ハ誓書ヲ記シタル後直ニ政ヲ親ラス可シ

第十一條 國王ハ國憲ニ掲載シタル權内ニ由テ最上ナル威權ヲ有ス其威權ハ宰相ニ由テ之ヲ行フ

第十二條 國王ハ責ニ任セサル者トス○國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵ス可ラサル者タリ宰相ハ責ニ任ス可キ者トス○宰相ノ責任ハ一ノ法律ニ依テ之ヲ定ム

第十三條 國王ハ宰相ヲ命ジ及之ヲ免ス○國王ハ宰相ノ員ヲ定メ及政務ヲ分任ス法律及行政ニ付テノ決定書ハ國王及宰相ノ花押ヲ署スルニ非サレハ其力ヲ有セス宰相ハ花押ヲ署シタル決定書ニ付キ其責ニ任ス

第十四條 國王及兩院ハ宰相ノ公罪ヲ告訴スルノ權アリ宰相ノ公罪ハリグスレット第二十六條及第六ニ於テ審判ス

第十七條 國王ハ諸ノ官吏ヲ任命ス然レモ一ノ法律ニ於テハ之カ制限ヲ立ツルヲ得可シ國民ノ權利ヲ有スル者ニ非レハ官ニ任スルヲ得ス○文官武官トナシ國憲ヲ確守ス可キ誓詞ヲ宣フ○國王ハ任命シタル官吏ヲ免黜スルヲ得官吏ノ退老料ハ其法律ニ由テ之ヲ定ム○國王ハ官吏ノ諾否ヲ問ハスシテ轉任ヲ命スルヲ得然レモ轉任ニ因テ其俸給ヲ減スルヲ得ス右ノ官吏ハ其轉任ヲ承諾スルト通例ノ規則ニ從ヒ退老料ヲ得テ辭職スルトノ間ニ於テ自ラ之ヲ選ノ權アリ○第七十三條ニ掲載スル場合ノ外諸ノ官吏ニ付テ種々格別ナル事件ハ一ノ法律ニ因テ之ヲ定ム

第十八條 國王ハ戰ヲ宣ヘ和ヲ決シ及同盟貿易ノ條約ヲ結フ然レ

凡兩院ノ承諾ヲ得ルニ非ザレバ土地ノ一部分ヲ割キ及現行ノ「
ロワピエブリク」國憲刑法治罪ノ條規ヲ更改スル約ヲ定ムルヲ
得ス
行政ヲ云フ

第十九條 國王ハ定規ニ依テ每歲兩院ヲ徵集ス兩院ハ國王ノ許可
ヲ得スシテ二ヶ月以上集會スルヲ得ス○然レモ右ノ集會ハ一
ノ法律ニ由テ變化ス

第二十條 國王ハ預メ時限ヲ定メテ特ニ兩院ヲ徵集スル權ヲ有ス
第二十一條 國王ハ兩院ノ集會ヲ延ハシ而シテ後ノ集會日ヲ預定
スルノ權アリ然レモ兩院ノ承認ナクシテ二ヶ月以上集會ヲ延ハ
シ或ハ兩度ノ集會ニ於テ延會一度ヲ過クルヲ得ス

第二十二條 國王ハ兩院或ハ一院ヲ解散スルノ權ヲ有ス國王兩院
ノ一院ヲ解散スル時ハ更ニ兩院ヲ徵集スル迄ノ間他ノ一院ヲ集

會モ亦之ヲ延ハスヲ要ス兩院ノ一院ヲ解散スルモハ必ス二ヶ月
ノ間ニ更ニ又々兩院ヲ徵集ス可シ

第二十三條 國王ハ兩院ヲシテ法律及種々ノ艸案ヲ奏進セシムル
ヲ得可シ

第二十四條 兩院ノ決定ニ法律ノ効力ヲ有スルヲメニ國王ノ批可
ヲ得ルヲ必要トス國王ハ法律ヲ布告シ又ハ法律ノ履行ヲ監督ス
ルノ權ヲ有ス○兩院ニ於テ制シタル法律ノ艸案ハ次ノ集會ニ至
ル迄國王ノ批可ヲ得サレハ其効ヲ有セス

第二十五條 國王ハ緊急ナル時機ニ於テハ兩院ノ集會迄ノ間假則
ヲ設ケテ布告スルヲ得然レモ此ノ假則ハ國憲ニ違反スルヲ得
得ス此ノ假則ハ兩院ノ次會ニ必ス之ヲ出ス可シ

第二十六條 國王ハ罪犯ヲ赦宥シ及大赦ヲ行フノ權ヲ有ス○リク

スレツト」大審院ノ上ニ位スル最上裁判所ニ於テ裁判ヲ宣告シタル宰相ノ犯罪ハ下院ノ承認ヲ得ルニ非サレハ赦宥スルヲ得ス

第二十七條 國王ハ直接ニ或ハ管臨ニ由テ法律ヲ寛シシ及特免ヲ與フルノ權アリ然レモ右ノ定メハ一千八百四十九年六月五日以前ニ行ハレタル規則及ヒ一千八百四十九年六月五日以後設ケタル規則ニ循フ

第二十八條 國王ハ法律ニ由テ貨幣ヲ鑄造スルノ權ヲ有ス

○伊太利

第二條 國ハ立憲政體ニ由テ統治ス王位ハ「サリーク」女子ニ王位ヲ傳ヘサルノ法ヲ以テ男統世襲トス

第三條 立法權ハ國王元老院下院合同シテ之ヲ行フ

第四條 國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵ス可ラサル者トス

第五條 行政權ハ國王一人ニ屬ス國王ハ國ノ首長ニシテ海陸軍ヲ指揮シ戰書ヲ授シ和親同盟貿易等ノ條約ヲ結フ然レモ國益及國安ニ關スル條約ハ預メ兩院ニ報知シ且其理由ヲ附ス可シ○國財ヲ費シ若クハ國疆ノ變改ニ關スル條約ハ兩院ノ承認ヲ得ルニ非サレハ其力ヲ有セス

第六條 國王ハ諸官員ヲ選任シ及法律ヲ行フタメニ緊要ナル布告又ハ規則ヲ制定スルノ權ヲ有ス然レモ法律ノ履行ヲ停止シ或ハ法律ヲ遵守セサルヲ許可ス可ラズ

第七條 國王ハ法律ヲ確定シ及法律ヲ布告ス

第八條 國王ハ罪犯ヲ赦宥シ及刑ヲ減輕スルノ權ヲ有ス

第九條 國王ハ每歲兩院ヲ徵集シ又ハ集會ヲ延ハシ或ハ下院ヲ解

散ノ日ヨリ四箇月ニ更ニ下院ヲ徵集ス可シ

第十條 國王及兩院ハ法律ヲ起艸スルノ權ヲ有ス然レモ物品ニ賦
シ及國費ノ豫算表ヲ製シ及國庫ノ現金ニ關スル法律ハ下院ニ於
テノミ起艸スル者トス

第十一條 國王ハ滿十八歳ヲ以テ成年トス

第十八條 僧官ニ關スル各種ノ規定及僧官ノ委任ヲナスニ付テノ
行政權ハ國王之ヲ行フ

第二十二條 國王ハ王位ヲ嗣キタル時兩院ノ集會ノ前ニ於テ國憲
ヲ確守ス可キ誓ヲ宣フ

第六十五條 國王ハ諸執政ヲ任シ及之ヲ免ス

第七十九條 貴族ノ爵位ヲ保續ス○國王ハ貴族ノ爵位ヲ授クルノ
權ヲ有ス

○魯西亞

第一章 國ノ編制及施政之方法

國主ハ全露國ノ皇帝及自立ノ君主ノ名稱ヲ用フルト觀レハ其權
ハ制限ナク又何レノ檢査ヲモ受ルコトナシ皇帝ハ上長ノ首領及立
法者タル而已ナラス國教ヲ總括スル「シノード」大教院ト雖モ皇帝
ノ名代トシテノミ此任ヲ勤ムルナリ蓋シ露國ノ如キ人種異ナリ
且未開ノ人民ヲ以テ編制シタル國ニ於テ此自立君主ノ原則ハ此
殊異ノ人民ニ合シ又此權ハ愛國心ノ深キ國王之ヲ有スル時
ハ益國ヲ文明ニ進メシム可キ者ニ非スヤ方今ノ皇帝アレキサン
ドル「第二世」其名譽ヲ揚シ可キ所ノ善美ノ變革ヲ爲シタルハ全
ク此無限ノ全權ヲ有シタルニ因リ出ヰハ言ヲ俟タサルナリ

第二 帝位繼承 王位繼承 統領選舉

○佛蘭西 一千七百九十一年

第六十條 國王ハ位ニ登リ或ハ丁年ニ至リ民選議院ノ面前ニ於テ左ノ誓ヲ立ツヘシ

我國民及法律ニ忠義ヲ盡シ千七百八十九年千七百九十年及千七百九十一年ニ開キシ憲法議院ヨリ布告シタル政体ヲ集成スルヲ及法律ヲ行ハシムル爲メ己ニ委託シタル威權ヲ用ユヘシ○其節民選議院集會中ナラサレハ其誓ヲ述ヘタル布告ヲ公達シ且民選議院集會ノ節再ヒ之ヲ口述スヘキ旨ヲ此布告ニ添ユヘシ

第六十一條 民選議院ヨリ國王誓ヲ立ツヘキ旨ヲ之ニ請求セシ日ヨリ一月ヲ過キ國王誓ヲ立サルカ或ハ立テシ後之ヲ取消スルハ國王ハ位ヲ讓リシト同視スヘシ

第六十二條 若シ國王ハ軍兵ヲ指揮シ國民ニ敵スル時又ハ他人國王ノ名義ヲ以テ右ノ企テ行フコトアルニ於テ國王嚴格ナル處置ヲ以テ之ヲ制止セサル時ハ國王ハ位ヲ讓リシト同視スヘシ

第六十三條 國王若シ他國へ出テ民選議院ヨリ呼戻シノ布告ニ定メタル時間ニ歸國セサレハ國王ハ位ヲ讓リシト同視スヘシ右ノ時間ヲ定ムルニハ二月以上タルヘク且民選議院ハ其公達シタル日ヨリ起算スヘシ國王不在中行法權ノ處置ハ諸卿己ノ責任ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六十四條 國王ハ實ニ位ヲ讓リ或ハ國法ニ從テ讓位セント見做スヘキ後ハ國民ノ分限ニ歸シ其讓位ノ後爲セシ所業ニ付テハ國民ト同様ニ訴ヘラレ裁判セラルヘシ

第八十七條 繼嗣スヘキ王族ハ太子位名ヲ用ユヘシ太子ハ民選議院ノ布告アラヌ且國王ノ承諾アラザレハ他國へ出ツヘカラス如シ他國へ出ルノ後十八歳コナリシ上民選議院ヨリ歸國スヘキ旨ヲ命セラル、コトアリト雖モ猶歸國セサルコト於テハ繼嗣ノ權ヲ廢セシト同視スヘシ

第八十八條 繼嗣トナルヘキ者幼年ナレハ其最近親族中丁年コシテ攝政官トナルヘキ者ハ他國コ出ツルコト得ス若シ他國へ出テ民選議院ヨリ歸國スヘキ旨ヲ命セラル、コトアリト雖モ猶歸國セサルコト於テハ攝政ノ權ヲ廢セシト同視スヘシ

第八十九條 幼年國王ノ保傅タル王ノ母或ハ其保傅ニ委任シタル者若シ他國へ出ツルコトアレハ其職ヲ奪フヘシ又幼年ノ太子ノ母他國へ出ツルコトアリテ其後歸國スト雖モ民選議院ノ布令アラサザレハ既ニ國王コナリシ己ノ幼年ノ子ノ保傅ヲ委任セラル、能

ハス

第九十條 幼年ノ國王及幼年太子教育ノ爲メ以後別段ノ法律ヲ定ムヘシ

第九十一條 王位欠ルキ繼嗣トナルヲ得ヘキ王族ハ公權ヲ有スル國民ノ權利ヲ有スト雖モ國民ノ撰擧ニ依ル處ノ都テノ官職ニ撰任セラル、ヲ得ス尙ホ諸省官等其他都テ國王ノ撰擧ヲ以テ委任スヘキ官職ニハ撰任セラル、ヲ得ヘシト雖モ海陸軍ノ大將トシテ司令スルノ職及特命全權大使ノ職ハ國王ノ勸告ニヨリ民選議院ノ承諾ヲ受ケサレハ之ヲ勤ムヘカラス

第九十二條 王位欠ルキ繼嗣スヘキ王族ハ已レノ出產証書ニ記シタル姓名ニ佛蘭西國諸侯ノ尊稱ヲ付加スヘシ尤右尊稱ハ其子孫ニ傳フヘカラス又此建國法ニ廢シタル孰レノ尊稱モ付加スヘカ

ラス諸侯タル者ノ爲ニハ其尊稱ニヨリ孰レノ特權モ生スヘカラス且諸侯タル者ハ他ノ佛蘭西人ト同様ノ法ニ服従スヘシ

第九十三條 佛蘭西國諸侯ノ出產婚禮死去ノ証書ハ民選議院ニ之ヲ進達スヘシ民選議院ハ之ヲ其古記載ニ納ムヘシ

○佛蘭西 一千八百〇四年

第三條 帝位ハ那破崙保那巴ノ嫡出宗系ノ子孫ニ傳フルヘキ者ニシテ永世女子及女子ノ子孫ヲ除キ長幼ノ順序ニ從ヒ代々之ヲ男子ヨリ男子ニ傳フヘシ

第四條 那破崙保那巴男子之無キハ十八歳以上ノ己ノ兄弟ノ子孫ヲ養子ニスルヲ得ヘシ其養子ハ那破崙ノ宗系ノ子孫ナリトス
○尤那破崙ハ右ノ養子ヲ爲セシ後男子生ル、キハ養子ハ嫡出ノ

子孫ノ後ニ非レハ帝位ヲ相續スヘカラス○那破崙保那巴ノ位ヲ
嗣クベキ者ハ人ヲ養子ト爲スヲ禁ス

第五條 那破崙保那巴ハ嫡出相續人或ハ養子ヲ問ハス其位ヲ嗣ク
ヘキ親ナキハ帝位ハ約瑟保那巴及永世ノ女子ト女子ノ子孫ヲ
除キ長幼ノ順序ニ從ヒ代々シヨゼフ保那巴ノ男子ヨリ男子ニ之
ヲ傳與スヘシ

第六條 一シヨゼフ保那巴其子孫トモ之ナキハ帝位ハ路易保那破
巴及永世女子ト女子ノ子孫ヲ除キ長幼ノ順序ニ從ヒ代々路易保
那破巴ノ男子ヨリ男子ニ傳與スヘシ

第七條 一那破崙保那巴ノ嫡出又ハ養子ヲ問ハス帝位ヲ嗣クヘキノ
親之ナク如シシヨゼフ保那巴及路易保那巴及其男子ノ嫡出ノ子
孫中モ帝位ヲ嗣クヘキ親ナキハ帝國高位ヲ有スル者ハ元老院

建國決定ノ議案ヲ元老院ヘ進達スヘシ右ノ決定ハ全國民ノ承諾
ニ進ムヘキ者ニシテ皇帝ヲ委任シ且帝位其帝族中永世女子及女
子ノ子孫ヲ除キ年長ノ順序ニ從ヒ男子ヨリ男子ニ代々之ヲ傳續
スヘキ仕方ヲ定ムルヲナリ

第八條 新皇帝ノ委任仕遂ル迄諸卿ハ政事ノ議會ヲ爲テ投票ノ過
半ヲ以テ國家ノ政事ヲ掌ルヘシ政府ノ總書記官ハ議事ノ始末ヲ
簿冊ニ記スルヲナリ

第五十二條 皇帝ハ丁年ナリシキヨリ或ハ即位爲セシキヨリ後ノ
二年中ニ皇帝ハ帝國大臣ト諸卿ト帝國大官ノ補佐ヲ得テ左ノ院
官ノ面前ニ且聖經ヲ證據ニ立テ佛蘭西ノ民ニ對シテ誓ヲ立ツヘ
シ

元老院

國議院

民選議院

「トリブナ」第一等ノ民選議院

覆決院

「アルシユエベツク」大教正

「エヘツク」教正

「レシヨンド」ノル第一社ノ會計官

會計官

控訴裁判所ノ長

州ノ選立議會ノ長

區ノ議會ノ長

「プロテスタント」教正「コンシストラル」ノ長

帝國三十六大都府ノ邑長

政所ノ總書記官ハ右ノ誓詞ノ調書ヲ記スヘシ

第五十三條 皇帝ノ誓言ハ左ノ如シ

朕共和國ノ領地ノ全部ヲ保存シ「コンコルダ」宗旨ノ條約「パツプ」法

約トナ行ヒ及之ヲ行ハシメ國民ノ權利均齊ノ元則ト政事上及民

事上ノ自由ノ元則及競賣ニ渡タル國有財産ヲ取上ルヘカササル

トノ規則ヲ自ラ守リ且行ハシメ法律ニ由ルニ非ラサレハ孰レノ

税ヲモ設ルコト勿ク動社ノ制度ヲ保存シ佛蘭西國民ノ利益及幸福

及榮譽ニ注意シテ政事ヲ治ンコトヲ誓フ

第五十四條 攝政官ハ初テ出勤セサル前ニ帝國大臣ト諸卿及帝國

ノ大官ノ補佐ヲ得テ左ノ官ノ面前ニ且聖經ヲ證據ニ立テ誓ヲ立

ヘシ「元老院國議院民選議院」ノ議長及審判官第一等ノ民選議院ノ

議長及審判官勳社ノ第一位ノ者

政府ノ總書記官ハ右ノ誓詞ノ調書ヲ記スヘシ

第五十五條 攝政官ノ誓ハ左ノ如シ

我帝國ノ建國法元老院ノ建國決定及法律ニ從テ政事ヲ治メ帝國ノ領地ノ全部ト國民ノ權利帝位ノ權利ノ全部ヲ保存シ且皇帝丁年ノキニ至リ當今我ノ委托ニタル全權ヲ眞實ニ皇帝ヘ返納スヘキヲ誓フ

第五十六條 帝國大臣諸卿政府ノ總書記官帝國大官元老院國議院民選議院及第一等ノ民選議院ノ議員州ノ撰立會及區ノ議會ノ議員左ノ誓ヲ立ルコトナリ○余ハ帝國ノ建國法ニ遵服シ皇帝ニ忠義ヲ盡シコト誓フ

政府ノ文官ト裁判官ト及行事役ト同様ノ誓ヲ立コトナリ

第四百十二條 今般左ノ勸告書ニ付テ千八百二年五月十日ノ布告

書ニ定タル法式ニ從ヒ佛蘭西國人民ノ許可ヲ得ヘキ爲左ノ告文ヲ示ス可シ○佛蘭西國民ハ帝位ヲ那破崙保那巴ノ嫡出或ヒハ養子タル宗系ノ卑屬ノ親ニ代々嗣カシメ又タ千八百四年五月十八日ノ元老院ノ建國決定書ニ記シタル如ク約瑟保那巴及路易保那巴ノ嫡出或ハ養子タル宗系ノ卑屬ノ親ニ代々嗣カシメコトヲ欲ス

○佛蘭西 一千八百十四年

第七十四條 國王及其繼嗣即位ノ禮祭ノ時ニ此建國書ニ忠ヲ盡テ守ルヘキヲ誓フヘシ

○佛蘭西 一千八百三十年

第六十五條 國王及其繼嗣ハ即位ノ禮祭ノキニ至リ此建國書ニ忠ヲ盡シテ守ルヘキコトヲ誓フヘシ

○佛蘭西 一千八百四十八年

第四十八條 共和政治統領ハ其勤務ヲ始メサル前ニ民選議院ニテ左ノ誓ヲ爲ス可シ

余佛蘭西國民ノ名代タル民選議員ノ面前ニ民政合一不分ノ共和政治ヘ忠義ヲ盡シ且建國法ニ因リ余ニ命シタル處ノ萬務ヲ勤レブリク、テモクヲツクエ、アンシヒシフルコトヲ天主ニ對シテ誓フナリ

第七十條 共和政治統領ノ副役一人之アルヘキ者ニシテ民選議院ハ之ヲ任スヘシ右ノ爲共和政治統領已レノ委任ノ日ヨリ一ヶ月

間ニ三名ヲ民選議院ニ勸告シ民選議院ハ必此三名ノ内ヨリ統領副役ヲ任スヘシ○統領副役ハ統領ト同様ノ誓ヲ立ツヘシ○統領ノ副役ヲ勤ムヘキ者ハ統領ノ第六親級以上ノ親縁屬ノ内之ヲ撰舉スヘカラス○共和政治統領ノ不在ナルキハ統領副役ハ之ニ代理スヘシ○統領死去シ或ハ免職ニナリ或ハ何レノ譯ヨリ共和政治統領ノ役欠ルキハ一ヶ月ニ必新統領ノ撰舉ヲ仕掛ヘシ

○佛蘭西 一千八百五十一年

第十六條 千八百五十一年十二月二十日及二十一日ノ投票ニ因リ佛蘭西人民ノ路易拿破崙保那巴ニ授ケシ威權ヲ以テ制定シタル憲法

第十六條 千八百五十二年十二月廿五日廢ス共和政治ノ大統領若シ其任職期滿前ニ死スル時ハ新々ニ大統領ヲ選舉セシムル爲メ元老院ヨリ國民ヲ集會セシム可シ

○佛蘭西一千八百五十二年

○憲法ヲ改正スル千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書○
元老院憲法第卅一條及第三十二條ニ循ヒ商議ヲ爲シテ左ノ條
件ヲ決定セリ

第一條 皇帝ノ位ヲ復シ路易拿破崙保那巴ヲ第三世拿破崙ノ名稱
ヲ以テ佛蘭西皇帝ト爲ス

第二條 皇帝ノ位ハ路易拿破崙保那巴ノ嫡出ノ宗系高曾祖父母ヨ
リ玄曾孫ニ至
ル迄ノ類ノ子孫ニ於テ永世女子及ヒ其子孫ヲ除キ年長ノ順序ヲ
以テ代々之ヲ男ヨリ男ニ傳フヘシ

第三條 路易拿破崙保那巴ニ男子無キ時ハ第一世拿破崙帝ノ兄弟
中ノ男系ノ子及ヒ其嫡出ノ卑屬ノ親ヲ以テ養子ト爲スヲ得可

シ養子ヲ爲スニ付テノ法式ハ元老院ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム可
シ若シ養子ヲ爲スノ後ニ路易拿破崙保那巴ノ男子ヲ舉ル時ハ先ツ其男子
ヲシテ帝位ヲ嗣カシメ其後ニ非サレハ其養子ヲシテ帝位ヲ嗣カ
シム可カラズ

路易拿破崙ノ位ヲ嗣ク可キ者及ヒ其卑屬ノ親等ハ養子ヲ爲スヲ
禁ス

第四條 路易拿破崙保那巴嫡出又ハ養子ヲ問ハス其位ヲ嗣ク可キ
宗系ノ親ヲ遺留セサル時ノ爲メ憲法ノ基礎ヲ定ムル勅書ヲ元老
院ニ送リテ其書房中ニ藏メシメ其勅書ヲ以テ保那巴家族中ノ帝
位ヲ嗣ク可キ者ノ順序ヲ定ム可シ

第五條 路易拿破崙保那巴ノ嫡出又ハ養子ヲ問ハス其位ヲ嗣ク可
キ宗系ノ親ナク且其傍系伯叔父母及ヒ兄弟
姉妹等ノ類ヲ云フノ親族中ニ於テモ亦

前條ニ記シタル勅書ニ循ヒ位ヲ嗣ク可キ者ナキ時ハ政府ノ會議官トナリタル宰相ヨリ在職ノ元老院長、議長、參議長、ノ補佐ヲ以テ元老院ニ元老院決定書ノ草案ヲ付シ元老院ニ於テ之ヲ決定シタル上國民ノ許可ヲ得可キカ爲メ之ヲ出示シテ其許可ヲ得タル上皇帝ヲ立テ且其皇帝ノ家族中ニ於テ永世女子及ヒ其子孫ヲ除キ代々其位ヲ男ヨリ男ニ傳フ可キ順序ヲ定ム可シ

新ニ皇帝ヲ立ル事ノ完成スルニ至ル迄ハ在職ノ宰相政府ノ會議官トナリ可否ヲ述フル者ノ數ニ從ヒ國ノ諸務ヲ統制ス可シ

第六條 路易拿破崙保那巴ノ家族中ニ於テ後ニ帝位ヲ嗣クノ權アル者及ヒ男女ヲ問ハズ其卑屬ノ親ハ之ヲ皇族ナリトス○此皇族ハ元老院ノ決定書ヲ以テ其等位ヲ定ム可シ○其皇族ハ皇帝ノ允許ヲ得スシテ婚姻ヲ結フ可ラス○若シ其允許ヲ得ズシテ婚姻ヲ結

ヒタル時ハ其婚姻ヲ結ヒタル皇族及ヒ其卑屬ノ親後ニ帝位ヲ嗣ク可キノ權ヲ失フ可シ
然レ其妃ノ死スルニ因テ其婚姻ヲ解キタル時其婚姻ニ因リ子ヲ舉ケザルニ於テハ其婚姻ヲ結ヒタル皇族後ニ帝位ヲ嗣ク可キノ權ヲ復ス可シ

路易拿破崙保那巴ノ其他ノ家族ノ尊稱等位ハ路易拿破崙之ヲ定ムハシ

皇帝ハ其家族中ノ諸人ヲ指令スルノ權ヲ有シ且法律ノカアル勅書ヲ以テ其家族ノ權利義務ヲ定ム可シ

第八條 千八百五十一年十二月二日及ヒ四日ノ勅書ヲ以テ制定シタル法式ニ從ヒ佛蘭西人民ノ許可ヲ得可キ爲メ左ノ告文ヲ示ス可シ佛蘭西人民帝位ヲ復シ路易拿破崙保那巴ヲ立テ皇帝ト爲シ

其嫡出又ハ養子タル宗系ノ卑屬ノ親ヲシテ代々其位ヲ嗣カシメ
ント欲シ且千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書ニ記シタ
ル如ク路易拿破崙保那巴ニ其家族中ニ於テ帝位ヲ嗣ク可キ者ノ
順序ヲ定ムルノ權ヲ與フ

○十一月二十一日及二十二日ノ國民ノ投票ニ因リ確定シタル千
八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書ヲ布令シテ法律ト爲
ス千八百五十二年
十二月二日ノ勅書

天ノ惠愛ト民ノ思望トニ因リ佛蘭西皇帝ノ位ニ居ル拿破崙普ク
衆庶ニ告テ曰ク千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書ニ
循ヒ佛蘭西人民帝位ヲ復シ路易拿破崙保那巴ヲ立テ皇帝ト爲シ
其嫡出又ハ養子タル宗系ノ卑屬ノ親ヲシテ代々其位ヲ嗣カシ
メント欲シ且千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書ニ記

シタル如ク路易拿破崙保那巴ニ其家族中ニ於テ帝位ヲ嗣ク者
ノ順序ヲ定ムルノ權ヲ與フ

ト云フ大趣旨ノ告文ヲ國民ノ許可ヲ得可キ爲メ示シタルコト考
思シ且議院ノ公告書ニ

國民ノ其告文ノ可否ヲ投票ヲ以テ定ムル事ヲ障碍ナク正當ニ完

成シ其告文ノ可否ヲ述フル者ノ投票ヲ總計スルニ可ナリト爲

ス者ノ數七百八十二万四千八百八十九人

否ナリト爲ス者ノ數二十五万三千四百四十五人

可否ヲ述ヘサル者ノ數六万三千三百二十六人タル

ヲ証セシコトヲ考思シテ左ノ條件ヲ命令ス

第二條 路易拿破崙保那巴ハ第三世拿破崙ノ名稱ヲ以テ佛蘭西ノ
皇帝タリ

○千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書ノ第四條ニ循ヒ保那巴ノ家族中ニ於テ帝位ヲ嗣クヘキ者ノ順序ヲ定ムル千八百五十二年十二月十八日ノ憲法ノ基礎タル勅書

第一條 余ノ嫡出又ハ養子ヲ問ハス宗系中ニ於テ位ヲ嗣ク可キ者ヲ遺留セサル時ハ

余カ敬愛スル叔父〔ゼローム拿破崙保那巴〕又ハ此叔父ノ瓦敦堡國

ノ公主カテリースト結ヒタル婚姻ヨリ生スル嫡出ノ宗系ノ卑屬

ノ親余ニ代リ永世女子ヲ除キ年長ノ順序ヲ以テ代々男ヨリ男ニ

傳ヘテ帝位ヲ嗣ク可シ

第二條 此書ハ國璽ヲ印シ我首相之ヲ元老院ニ送り其書房中ニ藏可シ

○千八百五十二年一月十四日ノ憲法ヲ釋明シ且之ヲ更改スル千八百五十二年十二月二十五日ヨリ三十一日ニ至ル元老院決定書

第六條 日後或ハ帝位ヲ嗣クヘキノ權利アル懿親及ヒ其卑屬ノ親ヲ稱シテ佛蘭西ノ皇族ト云フ

皇帝ノ長子ヲ稱シテ皇太子ト云フ

○佛蘭西 一千八百五十六年

○攝政ノ付キ千八百五十六年七月十六日ノ元老院決定書

第二十五條 幼帝ノ位ヲ嗣キシ時攝政不在ニシテ先帝ノ薨去スル

前ニ特ニ預定セシ事ナキニ於テハ其攝政ノ來着ニ至ル迄此元老

院決定書ノ第五條ニ記スル所ニ循ヒ國ノ諸務ヲ統制ス可シ

○英吉利

卷五第二章 兩皇死後ハ此帝位ハ皇后分體ノ子孫ニ傳フヘシ若シ
 皇后分體ノ子孫ナキ時ハ「デンマルク」王ノ妃「エンヌ」及其分體ノ子
 孫ニ傳フヘシ○「エンヌ」ハ先帝「ゼームス」二世ノ女則「チレンジ」皇后
 ノ妹ニテ「デンマルク」王ニ嫁スルモノナリ○若シ「エンヌ」王妃分體
 ノ子孫ナキ時ハ則「チレンジ」王分體ノ子孫ニ傳フヘシ○此ニ貴族
 人民「チレンジ」王妃兩殿下ニ此契約ヲ許諾アラントテ請願ス

第九章 抑此「プロテスタント」ノ帝國ヲ治ルハ羅馬宗旨ノ帝王又ハ
 同宗ノ皇后等ニテハ甚國ノ安穩ニ害アルヲ經驗セリ故ニ今貴
 族僧俗并ニ人民等冀クハ將來凡羅馬宗旨ヲ信スル人又ハ羅馬法
 王ト懇通スル人又ハ羅馬宗ノ人ト婚姻シタル人等ハ決シテ此帝
 位ヲ繼有スル能ハサザゴトヲ以テ永世ノ國法ト定メントナリ然シ

テ若シ羅馬宗ノ人帝位ニ即シ時ハ一般臣民其日ヨリ君臣ノ義務
 絶過シ帝位ハ其次ナル宗教ノ皇孫ニ屬シ嘗テ帝位ヲ冒踐シタル
 羅馬宗ノ人ハ已ニ死シタル者ト看做スヘシ

第十章 凡此國ノ皇帝女帝始テ位ヲ踐ニ最初ノ巴里門ニ於テハ貴
 族院ニ在ル王座ニ着シ貴族士民ヲ召集シテ其群集ノ前ニテ「チャ
 ールス」二世十三年ニ定メタル定書ニアル誓詞ヲ大聲ニ再ヒ陳述
 シ且別紙ニ誓詞ヲ書シ名ヲ鈴スヘシ但若シ踐祚ノ後未タ巴里門
 ナ會同セサル以前ニ即位ノ禮式ヲ行フ時ハ右ノ誓詞ヲ即位誓詞
 ト共ニ爲スヘシ若シ皇帝女帝始テ踐祚ノ時其年十二歳未滿ナラ
 ハ其滿十二歳後始メテノ巴里門又ハ即位禮式ノ時前文ノ如ク誓
 詞ヲ爲スヘシ○「チャールス」二世十三年ノ定書ニ羅馬宗旨ヲ絶ッ
 ノ誓詞アリ

卷六

初メ「チレン」王即位ノ時定メシ帝位正統ハ唯皇后ノ妹「エン」
 ヌ「并」王ノ子孫ニ止ル然ルニ皇后死後其所生太子死シ「エン」ヌ「并」
 ニ「ウ」ヰリヤム「モ」亦皆子ナシ是ニ於テ「バ」リ門再ヒ英ノ王孫宗教ノ
 人ヲ選テ預メ其帝統ノ傳フル所ヲ定ム之ヲ帝統ノ定書ト云國法
 數條ヲ插入シ以テ從前未タ備ハサル所ヲ補フ是ヲ以テ英ノ國憲
 幾ント完備スト云余不幸ニシテ帝統定書ノ全文ヲ得ス今其ノ略
 要則「ハ」ラム「更」掲載スル所ヲ譯シテ以テ暫ク其不足ヲ補フ○帝統
 之定書ハ「ウ」ヰリヤム「三」世十三年千七百〇一年ニ定メシモノニシ
 テ其初發ニ「ウ」ヰリヤム「及」エンヌ「ノ」子孫ナキ時ハ其帝位ヲ先王「セ」
 「ム」ス「一」世ノ女孫ニ傳ヘ以テ其子孫ニ至ルヘシト約ス「女」孫名ハ
 「嘗」テ「日」耳曼ノ諸侯 次ニ國法八ヶ條ヲ載セタリ即左ノ如シ
 凡帝位ヲ繼ク者ハ必ス英國ノ宗旨ニ歸入スヘシ

凡王孫ノ外國ヨリ入テ統ヲ繼ク者英帝ニ屬セサル外國ノ土地ヲ
 保護セン爲メニ英ノ臣民ヲ外征セシメント欲セハ先ツ「バ」里門ノ
 許可ヲ得ルニ非レハ臣民共命ニ從ハサルノ權利アルヘシ
 凡帝位ヲ繼ク者ハ先ツ「バ」里門ノ許可ヲ得スハ海外ヘ出行スル
 ヲ得ヘカラス○此一條ハ後數年之ヲ削ル
 凡此定書ニテ定メタル王孫初メテ帝位ヲ繼シ日ヨリ以後ハ帝國
 政事ノ萬機古例内閣ニテ評決シタル文書ニハ其同意ノ議官悉ク
 捺印スヘシ

○普魯西

第五十三條 王位ハ王族法別ニ王族ヲ定メニ循テ大宗ノ序ニ依リ
 長ヲ以テ宗ト次ニ最近支親ハ嗣ノ例ニ從ヒ子無キハ宗親ノ
 シ父子相繼ク入ニ最近支親ハ嗣ノ例ニ從ヒ子無キハ宗親ノ
 最モ近キ者入テ大

統ヲ男統世繼トス

第五十五條 國王ハ兩院ノ承認ヲクシテ兼テ外國ノ君主タルヲ得ス 那破崙一世已ニ佛蘭西帝ヲ兼テ伊太利王タルカ如シ

○米利堅

第二條第一節三 撰士各州ニ會合シ票ヲ投シテ正副二員ヲ撰舉シ少クモ一人ハ必ス他州ヨリ撰ヒ其撰舉ヲ受ケシ者ノ姓名ヲ記シ之ニ副印立証シ其封ヲ印シ上院ノ議長ニ當テ之ヲ合衆國政府ニ送リ上院議長上下兩員ノ前ニ於テ封ヲ開キ其票ヲ數ヘ其數最も多キ者ヲ大統領ト爲ス可シ若シ大數ヲ獲ル者多ク其數モ亦同シキ時ハ下院直ニ票ヲ投シテ其内ヨリ大統領ヲ擇ヒ若シ一人モ大數ヲ獲ル者ナキ時ハ其數最多キモノ五人ヲ拔キ更ニ之ヲ選フ可

シ蓋シ諸州各議員ヲ出シ其撰ニ與テ以テ各州大統領ヲ舉ル所以ニシテ其數各州議員三分ノ二ヲ以テ足りトスヘシ總テ此ノ如キ撰舉ニ於テハ必ス全州過半ノ合議ヲ要ヒサルヲ得ス而シテ大統領ノ下大數ヲ獲シ者常ニ副統領ト爲ル可シ若シ二三人ノ人其數ヲ同フシ優劣無キ時ハ上院票ヲ投シテ之ヲ撰拔スヘシ

第一節五 合衆國ニ生レタル人民或ハ其ノ憲法ヲ立ル時ニ於テ合衆國ノ人民タラサル者ハ大統領ノ位ニ選フヘカラス又齡未ダ三十五ニ至ラス且十四年間合衆國內ニ住マサル者ハ其位ニ舉ガルヲ得ス

補正第十一條 撰士各州ニ會同票ヲ投シテ大統領及副統領ヲ撰舉シ其内一人ハ少クモ已ト同州ノ者ナル可ラス而シテ大統領ハ撰マレタル人ノ名ヲ一ノ票ニ書シ又副統領ニ撰マレタル人ノ名ヲ

他ノ票ニ書シ別ニ大統領ニ撰ハレタル諸人ノ名ト共ニ二官ヲ撰
 フ「ウチード」ノ數ヲ記シ調印立証シ上院ノ議長ニ當テ之ヲ合衆國
 政府ニ送ルヘシ而ル後テ上下議員ノ前ニ於テ上院ノ議長總テ其
 封ヲ開キ「ウチード」ヲ數ヘ果シテ奉命撰士全數ノ大數ナラハ大統
 領ニ撰ハレ其數最多キモノ其位ニ登ルヘシ若シ一人モ其大數ヲ
 獲ル者無キキハ其「ウチード」ヲ受シ記録中其數最多キ者三人已下
 ノ中ニテ下院直ニ票ヲ投シテ之ヲ撰フヘシ然レモ大統領ヲ撰フ
 ニハ諸州各一言ヲ出シテ各州「ウチード」ヲ採リ其數ハ三分二ノ州
 ノ議員ヲ以テ足レリトシ又全州ノ大數其撰舉ニ必要ナリ而シテ
 之ヲ撰フノ權下院ノ手ニ落ル毎ニ若シ翌年三月四日前ニ大統領
 ヲ撰ハサル時ハ大統領死去或ハ憲法上他ノ故ヲ以テ奉職スル能
 ハサル時ノ如ク副統領其職ヲ務ム可シ

○白耳義

第六十條 國王ノ定權ハ「レオホル、シヨルシ、ギレチヤン、ブレテリ
 ク、トサクス、コブールグ」陛下ノ直統子々孫々ヲ本生私生ヲ論セス
 大宗ノ序ニ依リ長ヲ以テ男々相傳ス而シテ女子及女子ノ子孫ハ
 永久位ヲ踐ムコトヲ得ス

第六十一條 「レオホル、シヨルシ、ギレチヤン、ブレテリクト、サクス
 コブールク」陛下ノ男子無キ時ハ陛下ヨリ兩院ノ承認ヲ得テ其世
 嗣ヲ册立スルコトヲ得兩院ノ承認ハ次條ニ掲ケタル法式ニ依テ議
 決シタル者ナリ三分二以下若シ上ノ式ニ從テ爲シタル册立ナキ
 時ハ空位タルヘシ空位ノ時ハ兩院ヲ新徴シテ兩院合議
 シ宜ニ就キ處分ス第八十五條ニ見ユ

○瑞典

第四十四款 世子并ニ諸王子其他親王等ハ國王ニ報聞シ其許容ヲ得サレハ婚姻ヲ結フ可ラス若シ王命ヲ俟タスシテ婚姻スル者之アルキハ總テ王位繼續ノ權利ヲ奪ワルヘシ假令其婚姻ハ子弟ノ爲メニ約束スル者ト雖モ同様アリ

第四十五款 世子世襲ノ親王諸王子等ハ別ニ産業ヲ受用ス可カラズ又文官ニ任スヘカラス之ヲ某國公某郡王ニ封スルヲアルモ全ク虚爵ニシテ實ニ其地方ニ治臨スルコアラサルヘシ

○西班牙

第四十九條 「フルホン」家ノ公主「イザベル」第二世ヲ以テ西班牙國正統ノ女王トス

第五十條 西班牙國ノ王位繼承ハ嫡長入嗣ノ正序ニ循フ乃チ尊系ハ卑系ニ先チ同系ニ於テハ近族疎族ニ先チ同族ニ於テハ男女ニ先チ同類ニ於テハ長少ニ先ツ

第五十一條 「ブルホン」家ノ公主「イザベル」第二世ノ正統裔ノ系絶エル時「イザベル」ノ妹及「イザベル」ノ父ノ伯叔父母兄弟姉妹并ニ其後裔ニシテ王位繼承ノ權ヲ剝カレサル者男女ヲ論セズ男女均シ嗣アリ前條ニ定メタル順序ニ依リ王位ヲ繼カシムヘシ王位ヲ

第五十二條 王位ヲ繼クヘキ親ノ系全ク絶ユル時ハ法律ニ依テ最モ國家ニ便利ナル條則ヲ定ム可シ

第五十三條 政ヲ親ラスルノ任ニ適セザル者若クハ王位繼承ノ權ヲ失フ可キ狀アル者ハ法律ニ依リ其權ヲ剝カル可シ

第五十四條 女主王位ニ在ル時其夫ハ決シテ王國ノ政治ニ與ル可

○葡萄牙

第五條 「フヲカンス」家ヲ以テ現時統御ノ王朝トスルヲ故ノ如シ乃
チ「シラン」第六世ノ正當ナル後嗣ニシテ今ノ女王ノ父親ナル巴西
皇帝陛下「ベトロ」第一世ノ職ヲ辭セルコ由テ其公主マリァクロリ
ア陛下ヲ以テ之カ女王トス

第七十八條 王國ノ世嗣ハ儲君ノ長子ハ「ベイラ」葡國ノ州名公其他

ノ諸子ハ「王子」ノ尊號ヲ有スヘシ又儲君及「ベイラ」公ハ「陛下」ト稱シ
諸王子ハ「閣下」ト稱スヘシ

第七十九條 世嗣ハ滿十四歳ニ至リ上下兩院會合ノ席ニ於テ貴族
院ニ左ノ誓詞ヲ宣フヘシ

余ハ羅馬正教ヲ篤信シ葡萄牙建國法ヲ遵守シ及法律ト國王ニ恭
從セシメテ誓フ

第八十六條 「マリァ」第二世陛下ハ神明ノ惠ニ賴リ及巴西皇帝陛下
「ベトロ」第一世ノ端正ナル遜位ニ由テ葡萄牙國ノ女王トス

第八十七條 「マリァ」第二世ノ正統裔ハ嫡長ノ序ニ循ヒ承重ノ權今
殂シ太子ナキハ其嫡ニ由リテ王位ヲ入嗣スヘシ但尊系ハ卑系
孫王位ヲ入嗣スルノ權ニ由リテ王位ヲ入嗣スヘシ但尊系ハ卑系
ニ先チ同系ト傍系ト及傍系ニ於テハ近族疎族ニ先チ同族兄
姉妹ハ同ニ於テハ男女ニ先チ同類トハ類性ヲ同フスニ於テハ長
少ニ先ツ

第八十八條 「マリァ」第二世陛下ノ正統裔ノ系即チ絶ルハ傍系ノ親
チシテ王位ヲ嗣カシムヘシ

第八十九條 外國人ハ決シテ葡萄牙國王ノ位ヲ嗣スルヲ得サル

第九十條 王位ノ承繼者ナル公主ノ婚約ハ國王ノ許允ヲ待ツヘシ
但決シテ外國人ト婚スルコトヲ得ス若シ公主ノ婚ヲ約スルハ國王
在サ、レハ國會ノ許認ヲ經スシテ婚儀ヲ行フコトヲ得ス女王ノ配
偶者國政ニ與カルヘカラス但其女王ニ男子若シハ女子ヲ舉ルコ
アレハ該配偶者ハ國王ノ尊稱ヲ有スヘシ

○荷蘭

第十一條 荷蘭國王ノ位ハ「オランジユ、ナツソ」公維兼非德黎陛下
ニ屬ス及左條ノ條規ニ準シ維廉正統ノ裔ニ世傳ス

第十二條 現今統御スル國王正統ノ裔トハ普魯西ノ公主「フレテリ
ゾルユイヌウイルユルミヌ」皇后ト今王ノ婚姻ニヨリ降誕シ又ハ

降誕スヘキ王子及國會ト共議シテ今王ノ契約シ又ハ承認シタル
婚姻ニヨリ生産シタル苗裔ヲ謂フ

第十三條 王位ハ大宗承重ノ權ニ由リ世傳ス故ニ今王太子若シク
ハ其男統ノ裔入リテ嗣ク

第十四條 太子男統ノ裔缺クル時ハ亦太宗承重ノ權ニ因リ王位ヲ
太子ノ兄弟若クハ兄弟ノ男統ノ裔ニ傳フ

第十五條 「オランジユ、ナツソ」家ノ男統ノ裔全ク無キハ太宗ノ
序ニ由リ王位ヲ王女ニ傳フ

第十六條 王女無キ時ハ王ノ長男統ノ長女王位ヲ繼テ之ヲ其家ニ
從ス 謂所王位該長女ノ嫁該長女ノ既ニ死シタル場合ニ於テハ其
子孫入テ嗣ク

第十七條 王ノ男統ナキハ王位ヲ其長女統ニ傳フ是故ニ男統ハ

常ニ女統ニ先テ長統ハ季統ニ先ツ各統ニ於テハ男ハ女ニ先テ兄
ハ弟ニ先テ姉ハ妹ニ先ツ

第十八條 國王殂シテ子ナク及「オランジユ、ナツツ」家ノ男統ノ裔
有ラサルハ王ノ最近親族其缺クルルハ該最近親族ノ裔入テ位
ヲ嗣ク

第十九條 女子王位ヲ他家ニ徙シタル時該家ハ全ク現時統治スル
家ニ屬スル權理ヲ占有ス及前數條ニ掲ル例規ハ之ヲ新タニ入嗣
スル家族ニ移行スヘシ是故ニ該家男統ノ裔ハ女子若クハ女統ヲ
捨キテ王位ヲ襲ク及男統ノ裔全ク缺ルニ非サル外他統ノ裔ニ王
位ヲ傳フルコトヲ得ス

第二十條 國會ノ承認ナクシテ婚姻スル王女ハ入嗣ノ權ヲ失フ女
王ハ國會ノ承認ナク婚姻ヲ約スレハ其位ヲ失フ

第二十一條 現今統御スル「オランジユ、ナツツ」家ノ維廉非德黎王
ノ後裔ナキハ故ノ「フランソウイグ、ルユチフール」公「查理」若「爾」
日「奥古」士「都」未亡人タル王妹「フレテリツクルユイスウイルユ
オ」キ「ユスト」
ル「ミヌトランシユ」若クハ第十二條ノ例規ニ準シテ約シタル婚姻
ヨリ生シタル該王妹正統ノ裔ニ王位ヲ傳フ

第二十二條 該王妹ノ正統裔缺ルハ故ノ第五世維廉ノ妹ニシテ
故ノ「ナツツ」ウ「ユルフル」公ノ妃タリシ「カロリヌトランシユ」
王統男子ニ王位ヲ傳フ但必ス大宗承重ノ權ヲ以テス

第二十三條 特殊ノ時機ニ遇ヒ王位傳讓ノ序次ヲ變易スルコト必
須トスル時國王ハ其法案ヲ國會ニ示スコトヲ得國會ハ建國法ノ修
正ニ管スル第九十六七九ノ三條ニ定メタル方法ニ準シ該法案
ヲ論議スヘシ

第二十四條 建國法ニ循ヒ入嗣スル者ナキハ前條ノ例規ヲ施行スヘシ國王歿シテ未タ世嗣ヲ命セズ又ハ其在ラサルキハ平例ノ員數ヲ倍シテ召集シタル國會ノ兩院合議シテ世嗣ヲ冊立兩院合議トハ兩院一所ニ會スルヲ云

第二十五條 第二十一二三四條ニ掲ル場合ニ於テハ第十二三四五六七八九條ノ例規ニ照シテ入嗣ヲ定ム

第二十六條 荷蘭國王ハ「ルユキサンブル」公位ノ外別ニ位爵ヲ有スルコトヲ得ス何レノ場合ニ於テモ政府ヲ王國外ニ移スコトヲ得ス

第三 皇帝未成年及攝政 王未成年及攝政 副統領代

○佛蘭西 一千七百九十一年

第六十九條 國王ハ滿十八年ナラサレハ幼年トス其幼年中國ヲ治ムル爲メ攝政官一人ヲ置クヘシ

第七十條 攝政府ノ權ハ王族ノ内繼^ク嗣順序ニ依テ最近親ノ者ニ屬スヘシ尤滿廿五歲以上ノ佛蘭西人タル佛蘭西ニ定住スルコト他國ノ王位ヲ嗣クヘキ者ニ非ルコト國民ノ誓ヲ前以テ立テシコト右件々ヲ欠ク者ハ攝政官トナルヘカラス又婦女タル者ハ攝政官トナルヘカラス

第七十一條 前ニ記シタル件々ノ備ハリシ親族アラサルキハ左ニ記シタル法式ニ從テ攝政官國民ヨリ撰任スヘシ

第七十二條 民選議院ハ攝政官ヲ撰任スルヲ得ス

第七十三條 各郡ノ撰立人ハ踐位ノ初ノ周間ニ公達スル布告ニ從テ郡ノ首府ニ集ルヘシ右ノ布告ハ其節民撰議院集會中ナレハ民撰議院之ヲ爲シ民撰議院集會中ナラサレハ司法卿之ヲ同周間ニ公達スヘシ

第七十四條 各郡ニ於テ撰立人ハ其投票ヲ以テ其郡ニ定住スル代議者タルヲ得ヘキ國民一人ヲ撰任シ調書ヲ以テ其老ニ攝政官タルニ適當ト思量スル國民選舉ノ一ヲ專ラ委托スヘシ

第七十五條 各郡ニ於テ撰任シタル代人ハ幼年ノ國王踐位セシヨリ遲クハ四十日內ニ民撰議院所在ノ都府ニ集リ攝政官撰舉ノ公會ヲ編制スヘシ

第七十六條 攝政官ノ撰任ハ各人投票ノ過半ヲ以テ定ムヘシ
第七十七條 此公會ハ攝政官撰舉ノ事ノミニ關スヘキヲ以テ其事

終ラハ直ニ解散スヘシ若其公會ニ於テナセシ他ノ處置ハ法律ニ於テ憲法ニ抵觸スル者トシテ其効ナカルヘシ

第七十八條 其公會ハ上席人ヲシテ撰立ノ調書ヲ作り民撰議院ニ進達セシムヘシ民撰議院ハ其委任ノ當否ヲ見糾セシ上布告ヲ以テ之ヲ全國中ニ公達スヘシ

第七十九條 攝政官ハ國王ノ丁年ナル迄ハ國王ノ總テノ職務ヲ勤ムヘシ尤其職務ノ執行ニ就テハ其責ニ任セサル者トス

第八十條 攝政官ハ民撰議院ノ面前ニ於テ國民ヘ誓ヲ立サレハ勤ニ就クヘカラス其誓ハ國民ト法律ト國王トニ忠義ヲ竭シ且千七百八十九年千七百九十年千七百九十一年ニ憲法議院ヨリ布告シタル憲法ヲ守護セシムル爲ニ國王モ委托シタル威權及國王ノ幼年ニ已レニ委託シタル總テノ威權ヲ用ユヘシト誓フサ云フナリ

○其節民選議院集會中ナラサレハ其ノ誓ヲ述タル布告ヲ公達シ且民選議院集會ノ節再ヒ之ヲ口述スヘキ旨ヲ右ノ布告ニ書添ヘシ

第八十一條 攝政官未タ勤ニ就カサルノ間ハ法律ノ確定ハ一時差停メ行政權ノ都テノ處置ハ諸卿己ノ責任ヲ以テ續テ爲スヘシ

第八十二條 攝政官誓ヲ立レハ民選議院直ニ其俸給ヲ定ムヘシ尤其俸給ハ其在官中易ムヘカラス

第八十三條 最親ノ王族アリト雖モ其幼年ナル故ヲ以テ疏遠ナル王族ニ委托スルカ或ハ王族ナクシテ國民ヨリ撰舉シタル者ニ委任スル時其攝政官既ニ勤ニ就シ後ハ國王丁年ニ至ル迄ハ其職ヲ續テ行フヘシ幼年ノ王族丁年ニ至ルト雖モ之ニ其職ヲ讓ルニ及ス

第八十四條 攝政官ハ幼年ノ國王ノ身體ニ就テハ孰レノ權モ行フ能ハス

第八十五條 幼年ノ國王ノ保傅ノ職ハ其王ノ母ニ任スルコトナリ王ノ母ノアラサルカ或ハ其子ノ即位ノ節王ノ母再婚セシカ或ハ國王幼年中ニ再婚スルニ於テハ民選議院ニ於テ國王ノ保傅ヲ委托スヘキ者ヲ定ムヘシ尤攝政官及其子孫或ハ婦女タル者ニハ之ヲ委托スヘカラス

第八十六條 國王ハ丁年ト云モ若瘋癲ナル時其瘋癲ナルコト一般ニ明知シ且法律ニ從テ証明シ又ハ民選議院ニ於テ一月一回ツ、ノ評議ヲ三回續テ爲セシ上ニテ其瘋癲ナルコトヲ申立ル時ハ國王瘋癲中攝政官ヲ置クヘシ

第四百十四條 國王幼年ニシテ攝政官ヨリ爲セシ布告及他ノ決定

書ノ文式ハ左ノ如シ

我ニ此ニ攝政官國ノ攝政官アリ天主ノ恩惠及國ノ憲法ニ依リテ佛蘭西國民ノ王タル者ノ名代トシテ以下前條ノ如シ

○佛蘭西一千八百〇四年

第九條 帝族ハ佛國皇子ノ位稱ヲ用ヒ其帝位ヲ嗣クヘキノ先後ニ

從ヒ順序ヲ守ルヘシ皇帝ノ總領ハ皇太子ノ位稱ヲ用ユヘシ

第十條 佛蘭西國皇子ノ教育ノ方法ハ元老院ノ決定ヲ以テ定ムヘシ

第十一條 佛蘭西國皇子ハ滿十七歳ナレハ當然元老院及國議院ノ議員ニナルヘシ

第十二條 佛蘭西國皇子ハ皇帝ノ免許ヲ受ケサレハ婚姻スルヲ得

ス若シ佛蘭西皇子皇帝ノ免許ヲ受ケスシテ婚姻スル時ハ其皇子及其子孫ハ都テ帝位嗣傳ノ權ヲ失フヘシ尤右ノ婚姻ヨリ生子ナク且婚姻離別スル時ハ右ノ婚姻ヲ結ビシ皇子ハ巳ノ嗣傳ノ權ヲ復有スルヲ得ヘシ

第十三條 皇族ノ出生婚姻及死去ヲ證明スル證書ハ皇帝ノ命令ニヨリ之ヲ元老院ニ送ルヘシ元老院之ヲ簿冊ニ記スヘキ且之ヲ巳ノ古記載ニ納ムヘキヲ命スヘシ

第十四條 那破崙保那巴ハ格別ノ帝決ヲ以テ左ノ件々ヲ定ムヘキモノニシテ那破崙ノ位ヲ嗣クヘキ者ハ其帝決ニ從フヘシ

第一 男女ヲ問ハス都テ皇族ノ者ノ皇帝ニ對シテノ義務

第二 帝位ノ尊貴及國家ノ隆盛ニ適スル所ノ宮殿ノ設制

第十七條 皇帝ハ滿十八歳ニ至ル迄幼年トス皇帝幼年中帝國ノ攝

政官一人之レ有ルヘシ

第十八條 攝政官ハ二十五歳以上ノ齡タルヘシ女タル者ハ攝政官ニナルヲ得ス

第十九條 皇帝ハ前條ニ記シタル年齡ヲ有スル佛蘭西國皇子中攝政官ナルヘキ者ヲ選定スヘシ如シ其年齡ノ皇子ナキ時ハ帝國ノ高位ヲ任シタル官員ノ内之ヲ選舉スヘシ

第二十條 皇帝ハ別段攝政官ヲ預定セサリシ時ハ二十五歳以上ノ皇子中帝位ヲ嗣クヘキ近親ノ順序ニ從ヒ最近親ナル皇族ニ攝政ノ職ヲ任スヘシ

第二十一條 皇帝ハ攝政官ノ預定ヲ爲サス且二十五歳ニ至リタル皇子ナキ時ハ元老院ニ於テ帝國高位ヲ任シタル官員中ヨリ攝政官ヲ撰任スヘシ

第二十二條 如シ帝位ヲ嗣クヘキ順序ニヨリ攝政官ニナルヘキ皇子幼年ニ付キ右ヨリ遠親タル皇族或ハ帝國ノ高位ニ任シタル官員ニ攝政官ヲ委任セシ時ハ右皇帝丁年ニナリシヨリ後ノ第三年ノ終リ迄ハ元老院ニ於テ孰レノ建國決定ヲ發スヘシ

第二十四條 攝政官ハ皇帝丁年ニ成ル迄ハ都テ帝位ニ歸スル處ノ職權ヲ行フヘシト雖モ帝國ノ高位ヲ任シ或ハ攝政始マル時既ニ欠ケ又ハ皇帝幼年ニ欠ク所ノ大官ノ役ヲ任スルコトナスヘカラズ且元老院ノ議員ヲ任スルコトハ皇帝ノ獨權ナルニヨリテ之ヲ任スルヲ得ヘカラス攝政官ハ裁判總長及政府ノ總書記官ヲ免職スルヲ得ヘカラス

第二十五條 攝政官ハ已ノ支配ノ所業ニ付テ自ラ責ヲ任スルコトナ

第二十六條 攝政官ヨリ爲シタル都テノ決定ハ幼年皇帝ノ名ヲ以テ爲スコトナリ

第二十七條 攝政官ハ攝政議院ノ存意ヲ聞取リシ上ニ非レハ法律及元老院決定ノ議案ヲ進メ又ハ行政規則ヲ設クルヲ得ス但攝政議院ハ國家ノ高位者ヲ以テ編制スル者ナリ○攝政官ハ攝政議院ニ於テ事ヲ決議セシ上ニ非レハ軍ヲ起シ平和同盟及貿易ノ定約ヲ認印スルヲ得ス但攝政議院ノ議員ハ此場合ノミ決議ノ權ヲ有スルコトナリ其決議ハ發言ノ過半ヲ以テ之ヲ爲シ如シ可否ノ發言同數ナル時ハ攝政官ノ發言ヲ以テ之ヲ爲スヘシ攝政議院ハ外國交際ニ管スル事ヲ評議スル時外務卿ハ其議院ニ列席スヘシ○司法卿ヲ勤ムル裁判總長ハ攝政官ノ命ヲ受クル時攝政議院へ出席スヘシ右議院ノ議事ハ政府ノ總書記官之ヲ簿冊ニ記スルコトナリ

第二十八條 凡人ハ攝政官ノ役ヲ勤ムルト雖モ其役ニヨリ幼年皇帝ノ保傅ノコトニ就テ就レノ權ヲ生スルコトナリ

第二十九條 攝政官ノ年給ハ皇帝ノ歲俸ノ四分ノ一ナリ

第三十條 幼年皇帝ノ保傅ノ職ハ其母ニ任スルコトナリ若シ帝母有ラサレハ先帝ヨリ其役ノ爲メ定メタル皇族ニ之ヲ任スヘシ如シ帝母及先帝ヨリ右役ノ爲メ定メタル皇族無キ時ハ元老院ハ帝國ノ高位大臣内ヨリ一人ヲ選舉シ之ニ其役ヲ任スヘシ然モ攝政官及其子孫或ハ女タル者ハ皇帝ノ保傅職ヲ任スヘカラス

第三十一條 那破崙保那巴ハ前第二編ノ第四條ニ記シタル己ノ權ヲ行フ己ノ兄弟ノ子孫ヲ養時ハ養子ノ證書ハ帝國ノ高位大臣ノ面前ニ之ヲ記載シ政府ノ總書記官之ヲ落手シテ元老院ニ傳達スヘシ元老院ハ之ヲ己ノ簿冊ニ記入セシ上其古記載ニ納メシムヘシ

皇帝ハ己ノ死去ノ後皇帝幼年中ニ攝政官ヲ勤ムヘキ官員ヲ定ムルキ或ハ皇帝ヨリ幼年皇帝ノ保傅役ヲ任スヘキ者ヲ定ムル時ハ其證書ノ爲メ右同様ナル法式ヲ用ユヘシ○皇帝ヨリ皇帝幼年中攝政官ヲ勤ムヘキ者ヲ定ムルタメナセシ證書及皇帝ヨリ幼年皇帝ノ保傅役ヲ任スヘキ人ヲ定ムルタメセシ證書ハ皇帝之ヲ隨意ニ取消スヲ得ヘシ○養子ノ證書或ハ攝政官ヲ定ムル證書或ハ幼年皇帝ノ保傅役ヲ定ムル證書并ニ之ヲ取消ス爲メ皇帝ヨリ爲シタル證書其死去ノ前ニ元老院ノ簿冊ニ記入セサレハ効ナカルヘシ

○佛蘭西 一千八百五十六年

○攝政ノコトニ付キ 千八百五十六年七月十六日ノ元老院決定書

第一條 皇帝ハ滿十八歳ノ齡ニ至ル迄幼年ナリトス

第二條 幼年ノ皇帝位ニ昇リ其父タル先帝其薨去ノ前ニ公ケニ布告セシ書ヲ以テ殊ニ攝政ノ職ヲ定メタルコトナキ時ハ幼帝ノ母タル先帝ノ皇后攝政ノ職ニ任シ其子タル幼帝ノ保傅ヲ爲ス可シ

第三條 若シ先帝ノ皇后再嫁ヲ爲ス時ハ攝政ニ任スルノ權ト其子タル幼帝ノ保傅ヲ爲スノ權トヲ失フ可シ

第四條 先帝ノ皇后攝政ノ職ニ任シタルト否トヲ問ハス若シ其皇后ノ薨去シ且先帝公ケノ書又ハ秘密ノ書ヲ以テ特ニ攝政ノ職ニ任ス可キ者ヲ定メシコトナキ時ハ第一等ノ佛蘭西國皇族攝政ノ職ニ任シ若シ又其アラサル時ハ他ノ佛蘭西國皇族其帝位ヲ嗣ク可キ親近ノ順序ニ從ヒ攝政ノ職ニ任ス可シ

皇帝ハ公ケノ書又ハ秘密ノ書ヲ以テ後帝幼年ノ時間攝政ノ職ニ

任スル者ノ欠位トナル時代テ其職ニ任ス可キ者ヲ預定スルヲ得可シ

第五條 攝政ノ職ニ任スルヲ得可キ佛蘭西國皇族ノアラサル時ハ在職ノ宰相攝政ノ會議官トナリ後ニ攝政ヲ選任スルニ至ル迄國ノ諸務ヲ統制ス可シ

其宰相ハ可否ヲ述フル者ノ數ニ從ヒ諸務ヲ議定ス可シ

皇帝薨去ノ後攝政ノ會議官ヨリ直ニ元老院ヲ集會セシム可シ

攝政ノ會議官ヨリ申立タル者ノ中ニテ元老院攝政トナル可キ者

ヲ選任ス可シ

皇帝殊ニ攝政ノ會議官ヲ任セサル時ハ政府ノ會議官タル宰相、元老院、議院、參議官ノ在職長官ノ補佐ヲ以テ元老院ヲ集會セシメ且攝政トナル可キ者ヲ申立可シ

第六條 攝政及ヒ攝政會議ノ員ハ佛蘭西國人ニシテ滿二十一歳以上ノ齡タル可シ

第七條 皇帝攝政ヲ任セ又ハ攝政ノ會議官ヲ任スル書ハ元老院ニ送リテ其書房中ニ藏ス可シ

若シ皇帝祕密ノ書ヲ以テ攝政及ヒ攝政ノ會議官ヲ任シタル時ハ皇帝薨去ノ後直ニ元老院ニ於テ集會ノ招ニ應シタル元老議員ノ面前及ヒ宰相並ニ法式ニ循ヒ召集シタル議長、參議長ノ面前ニテ元老ノ長官其書ヲ開封ス可シ

第八條 攝政ノ職ニ任スル者ノ行フ所ハ皆幼帝ノ名ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

第九條 幼帝ノ丁年ニ至ル迄ハ攝政ヲ爲ス皇后又ハ其他攝政ノ職ニ任シタル者皇帝ニ代テ十分帝權ヲ執行フ可シ但シ攝政ノ會議

ニ於テ有テ可キ權ハ格別ナリトス
皇帝ノ身体ヲ保護スル爲メノ法律ハ攝政ニ任セシ皇后及ヒ攝政
ニモ亦通シテ之ヲ用フヘシ

第十條 攝政ニ任セシ皇后又ハ攝政ノ職務ハ皇帝薨去ノ時ヨリ直
ニ之ヲ行フ可シ

然レ攝政ノ職ニ任スルニ付テノ秘密ノ書ヲ元老院ニ送リテ其書
房中ニ藏メタル時ハ其書ヲ開封セヨリ後ニ非レハ攝政ノ職務
ヲ行フ可カラス○其書ヲ開封スルニ至ル迄ハ第五條ニ記スル所
ニ循ヒ在職ノ宰相國ノ諸務ヲ統制ス可シ

第十一條 若シ幼帝其位ヲ嗣ク可キ皇弟ヲ遺留シテ薨去セシ時ハ
更ニ別段ノ法式ヲ行フナシ其攝政ニ任セシ皇后又ハ攝政其職
ヲ繼續シテ行フヲ得可シ

第十二條 嗣位ノ順序ニ固リ攝政ノ職ニ任セシ皇后ノ子ニ非サル
幼帝位ヲ嗣クコトアル時ハ其皇后攝政ノ職ヲ罷ム可シ○此場合ニ
於テハ此元老院決定書ノ第四條又ハ第五條ニ記スル所ニ循ヒ攝
政ヲ任ス可シ

第十三條 幼帝ノ薨去シ他系ノ幼帝其位ヲ嗣クコトアル時ハ嘗テ任
シタル攝政其幼帝丁年ニ至ル迄ノ間繼續シテ其職ヲ行フ可シ

第十四條 此元老院決定書ニ定メタル所ノ佛蘭西國皇族未タ相當
ノ年齢ニ至ラス又ハ其他法律上ニ別段定メタル理由ニ因リ幼帝
ノ薨去セシ時攝政ノ職ニ任スルコト得サル時ハ嗣帝ノ丁年ニ至
ル迄在職ノ攝政繼續シテ其職ヲ行フ可シ

第十五條 先帝ノ皇后其子タル幼帝ノ攝政ニ任セシ時ノ外ハ攝政
ノ職ニ任シタル者幼帝ノ保傅ヲ爲スノ權ナシ

幼帝ノ保傅ヲ爲シ其家事ヲ指令シ及ヒ其教育ヲ管照スル等ノ諸事ハ其母后之ヲ爲ス可シ

幼帝ノ生母ナキ時又ハ先帝ノ特ニ任シタル者ナキ時ハ攝政ノ會議官ヨリ任シタル者幼帝ノ保傅ヲ爲ス可シ

攝政及ヒ其卑屬ノ親ハ幼帝保傅ノ職ニ任ス可カラス

第十六條 攝政ニ任セシ皇后又ハ攝政先帝ノ在世中ニ攝政ノ職ヲ行フニ付テノ誓詞ヲ述ヘサル時ハ元老院及ヒ議院ノ員並ニ參議員ノ面前ニテ佛蘭西國皇族攝政ノ會議官宰相政府ノ貴重ナル官員レシチントノール爵ノ大十字形ノ賞牌ヲ佩ル者ノ立會ヲ得テ皇帝ノ位ニ坐スル幼帝ノ前ニ至リ繼典ヲ証トシテ其幼帝ニ向ヒ誓詞ヲ述フ可シ

又攝政ノ會議官宰相元老院ノ長議長參議員ノ長ノミノ面前ニ於

テ幼帝ニ向ヒ誓ヲ述フルヲ得可シ

此場合ニ於テハ攝政ニ任シタル皇后又ハ攝政ヨリ布告ヲ爲シテ其誓詞ヲ述ヘタルヲ公ケニ爲ス可シ

第十七條 攝政ニ任セシ皇后又ハ攝政ノ述フヘキ誓詞ハ左ノ如シ

余ハ皇帝ニ忠節ヲ盡シ憲法元老院ノ決定書國ノ法律ニ循ヒ統制ヲ爲シテ國民ノ權及ヒ帝位ニ屬スル權ヲ保護シ且巳レノ權ヲ行フニ付キ皇帝及ヒ佛蘭西國ノ爲メ忠誠ヲ勵ミ皇帝ノ丁年ニ至リシ時余カ委任ヲ受ケタル威權ヲ正シシ皇帝ニ返還スルヲ誓フ此誓詞ノ調書ハ首相之ヲ記シ且之ヲ元老院ニ送リテ其書房中ニ藏ス可シ

其調書ニハ攝政ニ任セシ皇后又ハ攝政及ヒ皇族攝政ノ會議官宰相元老院ノ長議長參議員ノ長其姓名ヲ手署ス可シ

第十八條 攝政ノ會議官ハ皇帝ノ幼年ナル時間之ヲ任ス可シ其會議官ノ員ハ左ノ者ヨリ之ヲ集成ス

第一 皇帝ノ撰任シタル佛蘭西國皇族

皇帝ノ特ニ撰任シタル者ナキ時ハ帝威^位ヲ嗣^レシ可キ順序ノ最近ナル皇族ニ員

第二 皇帝ヨリ公ケノ書及ヒ秘密ノ書ヲ以テ任シタル者

若シ皇帝此會議官ノ員ヲ撰任セサル時ハ元老院會議官ノ一部ヲ爲ス可キ爲メ特ニ五名ヲ撰任ス

佛蘭西國皇族ヲ除クノ外攝政會議官ノ一員又ハ數員ノ死去シ又ハ退任シタル時ハ元老院其者ニ代ヘ更ニ他人ヲ撰任ス可シ

第十九條 攝政ノ會議官ハ攝政ニ任セシ皇后又ハ攝政ヨリ之ヲ退

職セシム可カラズ

第二十條 攝政ノ會議官ハ攝政ニ任セシ皇后又ハ攝政之ヲ集會セシメ且其上席ヲ爲ス可シ

攝政ニ任セシ皇后又ハ攝政ハ攝政會議官ノ員タル佛蘭西國皇族又ハ其他攝政會議官ノ員ヲ以テ自己ニ代リ其會議官ノ上席ヲ爲サシムルヲ得可シ

第二十一條 攝政ノ會議官ハ可否ヲ述フル者ノ數ニ從ヒ左ノ條件ヲ議定ス可シ

第一 皇帝ノ婚姻

第二 戰書ヲ投シ又ハ和親聯盟^取易ノ條約ヲ結フ事

第三 憲法ノ基礎ヲ立ツル元老院決定書ノ議案ヲ草スル事
若シ可ナリトスル者ノ數ト否ナリトスル者ノ數ト相均シキ時ハ

攝政ニ任セシ皇后又ハ攝政ノ説ヲ以テ決定ヲ爲ス可シ○若シ攝政ニ任セシ皇后又ハ攝政ノ名代人攝政會議官ノ上席ヲ爲ス時モ亦皇后又ハ攝政ノ説ヲ以テ此決定ヲ爲ス可シ

第二十二條 攝政ノ會議官前條ニ記セシ以外ノ事ニ付キ攝政ニ任セシ皇后又ハ攝政ヨリ相談ヲ受ケタル時ハ唯其助言ノミヲ爲ス可シ得可シ

○普魯西

第五十四條 國王ハ全周十八歳ヲ以テ成年トス攝政ヲ假ラス○國王ハ兩院合會ノ前ニ於テ普魯西國ノ建國法ヲ確守シテ侵サス而ノ建國法并ニ其他ノ法章ニ循由シテ政ヲ行フノ誓ヲ宣フ

第五十六條 國王未成年ニ屬シ若クハ曠時故障アリテ政ヲ親ラス

ルヲ能ハサレハ病アルヲ云最近ナル支親ノ成年ナル者叔弟姪ヲ攝政ヲ行フ此時ハ其人必ス急速兩院ヲ徵聚シ兩院合會シテ攝政ヲ設クルノ必要ナルヲ宣告セシムヘシ

第五十七條 若シ成年ノ支親アルヲ無ク及法章ヲ以テ豫定シタル者ナキ時ハ國相八省執政ヲ合スルノ名必ス兩院ヲ徵聚シ兩院合會シテ一ノ攝政ヲ撰ハシムヘシ○攝政職ニ即クニ至ルマテハ國相大政ニ任

第五十八條 攝政ハ國王ノ名ヲ以テ王ノ爲ニ代理スルノ意王權ヲ行フ○攝政

職ニ即クノ後其人兩院合會ノ前ニ於テ普魯西國ノ建國法ヲ確守シテ侵サス而シテ建國法并ニ其它ノ法章ニ循由シテ政ヲ行フノ誓ヲ宣フ○宣誓未タ行ハサルノ間ハ一切ノ政揆國相仍ホ之ニ任責ス

○白耳義

第七十九條 國王歿スル日ヨリ始メテ嗣王若クハ攝政ノ宣誓即チ式ニ至ル迄諸執政合シテ一會ヲ成シ其任責ニ當リ白耳義國民ノ名ヲ以テ國民ニ國王ノ定權ヲ行フ空位ノ間大臣政ヲ行フ

第八十一條 若シ國王歿シタル時ニ嗣王未成年ニ係ル時ハ攝政及太保ヲ定ムル爲ニ兩院合シテ一會ヲ成ス攝政ハ國ノ政ヲ攝スル者ト保ハ王ノ身ヲ保スル者ト

第八十二條 若シ國王政ヲ親ラスルヲ能ハサルノ狀ニ在ル時ハ諸執政其不能ノ情狀ヲ証驗セシメタル後ニ醫士ヲシテ速ニ兩院ヲ徵聚ス○兩院合會シテ太保及攝政ヲ定ム

第八十三條 攝政ニ必ス一人ニ任ス衆臣共和シテ政ヲ攝○攝政人

第八十條ニ示シタル誓辭ヲ宣ヘタル後ニ非レハ職ニ即カス

第八十四條 攝政ハ建國法ノ中一ノ改正ヲ行フヲ得ス

第八十五條 空位ノ時ニ當テハ兩院合議シテ全ク新徵シタル兩院ノ會合ニ至ル迄假ニ攝政ヲ定ム○新徵ノ會合ハ遲クモ二月内ニ於テス○新徵ノ議員ハ兩院合議シテ定メテ假ニア空位ノ處分ヲナス新王ヲ推立シ若シ共和ヲ公布ス

○瑞典

第三十九款 國王ノ他行中ハ親王ノ中ニテ國統ヲ嗣シベク而シテ第四十一款ニ掲ルカ如ク成年ニ及タル者國王ノ名ヲ以テ國政ヲ攝行スヘシ○此親王ハ攝政職タルヲ以テ現今行ハル、處ノ政体ニ基キ總テ國王ノ威權ヲ特有スヘシ然レ華族ヲ宣命シ伯子男ノ

爵位ヲ封シ功勳ノ服色ヲ賜フヲ得ス但信任ノ官職ニ缺員アル
キハ攝政ニテ其權官ヲ命スヘシ○萬一王位ヲ嗣クヘキ親王アラ
ス又成年ノ繼續人ナク又ハ疾病及旅行中ニテ國成ヲ執リ能ハサ
ル時ハ即チ内閣ニ於テ國政ヲ攝行シ其權ハ都テ攝政ニ異ラス○
國王十二ヶ月以上他國ニ在リテ歸ザル時ニ辦理スヘキ順序ハ第
九十一款ニ掲クヘシ

第四十款 若シ國王疾病ニ惱ミテ國政ヲ執リ能ハサル時ニハ之ヲ
辦理スルヲ總テ前款ニ於ルカ如シ

第四十一款 國王ハ春秋十八ヲ以テ成人ノ齡ト定メ其時ヨリ王位
ノ儲嗣タルヘシ若シ國王其儲嗣成人ノ齡ニ至テサル前ニ薨スル
時ハ第三十九款ニ掲ケタルカ如ク内閣ニ於テ國王ノ名ヲ以テ國
政ヲ攝行シ議院ノ集會ヲ^待ヘシ議院集會ノ上ニテ太保ヲ命ジ其

職ニ任スル者ニ國政ヲ攝行セシムヘシ但此時内閣ハ嚴ニ現今所
行ノ政府ノ憲法ヲ遵奉セサルヘカラス

第四十二款 萬一不幸ノ氣運ニ際シテ王國ノ大統ヲ嗣クヘキ宗室
ノ男系盡ク斷絶スルキハ第三十九款ニ掲ケルカ如ク内閣ニ於テ
國政ヲ攝行シ以テ議院集會ニテ新ニ王室ヲ推立スルヲ待チ新王
ヲ推立シタル後直ニ國政ヲ執ラシムヘシ○第三十九款第四十款
第四十一款并ニ本款ノ如キ時宜ニ到リ内閣ニテ國政ヲ攝行スル
キハ總テ大臣輩連席シテ各人發言スルヲ要ス

第四十三款 若シ國王親征ノ舉アリ或ハ瑞典國外ニ出テ或ハ那威
ニ赴クキハ内閣大臣三員ニ命シテ國政ヲ委任シテ奉行セシメ而
シテ宗室ノ親王一員若クハ内閣大臣ノ中一員ヲ撰ミテ大宰ヲラ
シムヘシ○此時ニ當リテモ國王ノ親ヲ決定スル處ノ機務ヲ施行

スルヲハ總テ第八款ノ手續ニ同シカルヘシ○攝政臨國中ニ本款ノ時宜ニ到ルヲアル時ハ國王ノ例ニ照シテ施行スヘシ

第九十一款 第三十九款ニ掲クルカ如ク國王ノ旅行日ヲ曠スルヲ久ク十二月ニ及テ尙還駕シ能ワサル時ハ乃チ國政ヲ執ル所ノ攝政職或ハ内閣大臣公文ヲ以テ議院ヲ召集スヘシ但右十二月ヨリ十五日内ニ至リテ召集ノ儀式ヲ都府ノ禮拜堂ニ於テ公告シ外地方ナレハ成ルヘク急速ニ之ヲ執行スヘシ○若シ國王此時宜ニ及シヲ承知シナカラ猶叛國ノ擧アラサル時ハ議院ノ決議ニ於テ良善ナリト考フル處ニ從テ王國ノ政務ヲ處置スヘシ

第九十二款 國王疾病ニ罹テ十二月ノ後ニ至リテ猶國政ヲ執リ能ワサル時ニ於テモ前款ノ手續ヲ以テ之ヲ處置スヘシ

第九十三款 國王殞落ノ時ニ當リ儲君幼冲ニシテ未タ成年ニ至ラザ

ル時ハ内閣大臣ニ於テ議院ヲ召集スヘシ○此時ハ殞落ノ日ヨリ十五日内ニ都府内外ノ地方其禮拜堂ニ於テ召集ノ議式ヲ執行スヘシ○議院ハ敢テ國政ノ事ニ就キ先王ノ遺勅ニ依ラサルヲ得サルノ責任ナキヲ以テ現今ノ政体ニ基キ一員若クハ三員或ハ五員ノ師傅職ヲ選任シ儲君ノ成長ニ至ル迄其名ヲ以テ國政ヲ攝行セシムヘシ

第九十四款 若シ天運窮リテ國位ヲ繼クヘキ本末ノ宗室ニ男裔ナク王朝斷絶ニ及ハハ内閣大臣ニ於テ國王殞落ノ後前款ノ日限内ニ議院ヲ召集スヘシ○議院集會ノ上ニテ新朝ヲ推立シ而シテ政体ハ現今ノ者ヲ存用スヘシ

第九十五款 第九十一款九十三款及九十四款ノ時宜ニ及テ希望スル所ニ反シテ攝政職或ハ内閣大臣ニ於テ即時ニ議院ヲ召集スル

トテ怠ル時ハ國中第一等ノ小法院ノ專職トシテ公文ヲ以テ其旨
ヲ告知シ速ニ議院ニ集會シテ立法及全國ノ權利ヲ維持セシムヘ
シ○議院ハ遲クモ攝政職或ハ内閣大臣ニ於テ禮拜堂ニテ其召集
ノ儀式ヲ執行スヘキ日限ヨリ三十日内ニ集會スヘシ

○米利堅

第二條第一節六 若シ大統領職ヲ解レ或ハ死去或ハ辭職或ハ其職
ヲ奉スル能ハサル時ハ副統領之ニ代ルヘシ而シテ正副二員免官
死去辭職或ハ其職ヲ奉スルヲ能ハサルモ或ハ大統領撰ハル、迄
議院ニテ假リニ其統領ヲ撰フヘシ

○西班牙

第五十五條 國王ハ滿十四歳ニ至ルマテ未成年トス

第五十六條 國王未成年ナレハ王ノ父若クハ母攝政ノ職ニ任ス父
母共ニ缺クル時ハ國憲ニ定メタル王位繼承ノ次序ニ循ヒ王ノ最
親ノ者之ニ任ス而シテ攝政ハ國王未成年ノ間ハ常ニ其職ヲ執行
フヘシ

第五十七條 王ノ最親ノ者攝政職ヲ行フニハ滿二十歳ノ西班牙人
ニシテ王位繼承ノ權ヲ剝カレサル者タルヲ要ス○國王ノ父若シ
クハ母其鰥寡タルノ間ハ獨リ攝政職ヲ行フヲ得ヘシ

第五十八條 攝政ハ國會ノ前ニ於テ未成年ノ國王ニ忠誠ヲ效シ及
國憲ト法律トヲ踐守スルノ誓詞ヲ宣フヘシ國會未タ會セサル時
ハ攝政即時ニ之ヲ召集スヘシ此時ニ在テハ先ツ假リニ執政議會
ノ前ニ於テ誓詞ヲ宣ヘ仍ホ國會ノ會シタル時直ニ之ヲ申スルヲ